なかつがわ男女共同参画プラン（第４次）
策定にあたっての市民アンケート
結果報告書

平成27年２月

もくじ

調査の概要・・ 1
1　調査の目的・・・ 1
2　調査方法等・・・ 1
3　回収結果・・・ 1
4　調査・分析にあたって・・ 1

調査結果・・ 2
Ⅰ　回答者の属性・・・ 2
1　性別・・・ 2
2　年齢別・・・ 2
3　居住地域・・・ 2
4　家族構成・・・ 3
5　婚姻の状況・・・ 4
6　職業・・・ 5
7　０～15歳の子どもの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅱ　男女平等意識について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
1　男女の地位の平等・・・ 7
2　性別役割分担に対する考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
3　男女が社会のあらゆる分野で平等となるために重要なこと・・・・・・ 26

Ⅲ　家庭生活について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
1　家庭での役割分担（既婚者のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
2　男女がともに家庭生活や地域活動に参加するために必要なこと・・ 36
3　生活の中での優先順位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

Ⅳ　地域活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
1　地域活動の状況・・ 41
2　地域活動の支障・・ 44
3　企画や方針決定過程に女性の参画が少ない理由・・・・・・・・・・・・・・・ 45

Ⅴ　就労・働き方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
1　女性が職業につくことについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
2　職場での男女平等・・ 47
3　仕事と家庭を両立する場合に必要な整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

Ⅵ　教育について ･･･ 50
1　学校教育で力を入れること ･････････････････････････････････ 50
2　子どもの育て方について ･････････････････････････････････････ 51

Ⅶ　人権について ･･･ 52
1　ＤＶを受けた経験 ･･･ 52
2　ＤＶの相談 ･･･ 54
3　ＤＶやセクハラをなくすためにはどうすればよいか ･････････････ 56

Ⅷ　中津川市の男女共同参画推進施策について ･････････････････････ 58
1　なかつがわ男女共同参画プランの認知度 ･････････････････････ 58
2　男女共同参画の推進に重要なこと ･････････････････････････････ 59

Ⅸ　自由意見 ･･･ 61

調査の概要

1　調査の目的

この調査は、20歳以上の市民を対象として、男女平等、ワーク･ライフ･バランス（仕事と生活の調和）、男女の人権などについての意識をお聞きし、今後の総合的かつ効果的な施策や「なかつがわ男女共同参画プラン（第４次）」を検討するための基礎資料とすることを目的に行いました。

2　調査方法等

調査対象者	調査票の配布・回収	調査基準日	調査期間
20歳以上の市民2,000人（男女各1,000人）を無作為抽出	郵送配布・郵送回収	平成26年９月１日	平成26年９月19日～10月３日

3　回収結果

配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
2,000	858	857	42.9%

4　調査・分析にあたって

(1)　図表中のｎはその設問の回答者数（人）、回答は比率（%）を表記しています。

(2)　回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。

(3)　回答率（%）は、小数点第２位以下を四捨五入しました。

(4)　選択肢が長いものについては、内容を損なわない範囲内で、要約して表記しているものがあります。

(5)　属性不詳が次表のとおりあります。

性別	居住地区	職業	家族構成	配偶者の有無	子どもの有無
15	3	2	7	6	27

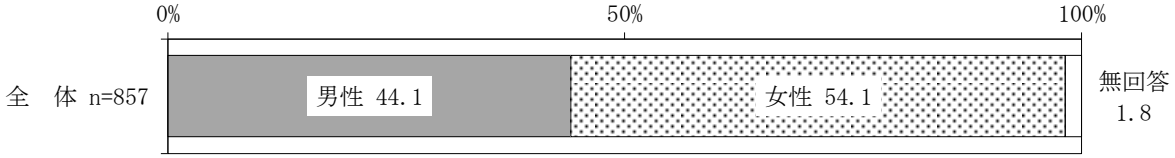
調査結果

Ⅰ　回答者の属性

1　性別

回答者は、男性が44.1%、女性が54.1%を占めています。

図表１－１　性別

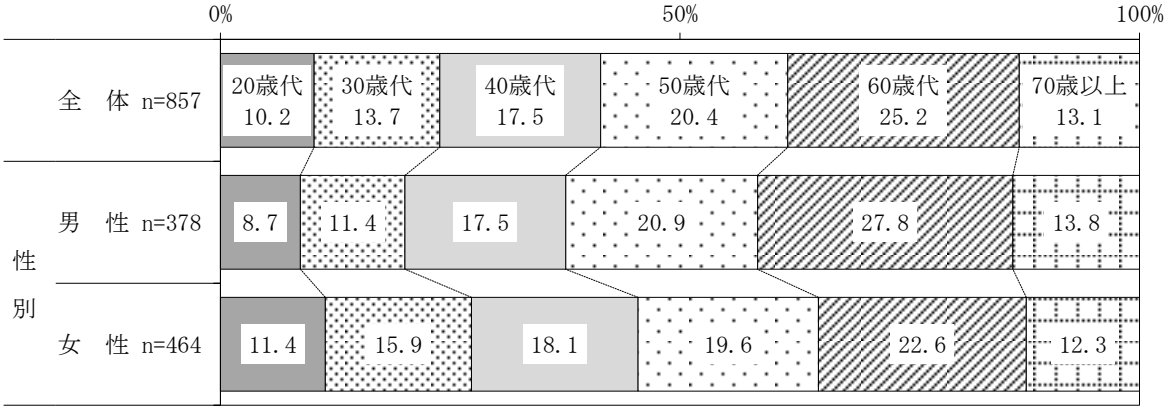


2　年齢別

回答者の年齢は、60歳代が25.2%と最も高く、次いで50歳代が20.4%、40歳代が17.5%などの順となっています。

性別にみると、20歳代～40歳代は女性が、50歳代以上は男性が高くなっています。

図表１－２　年齢別



3　居住地域

回答者の居住地域は、中津地域が最も高くなっています。

図表１－３　居住地区

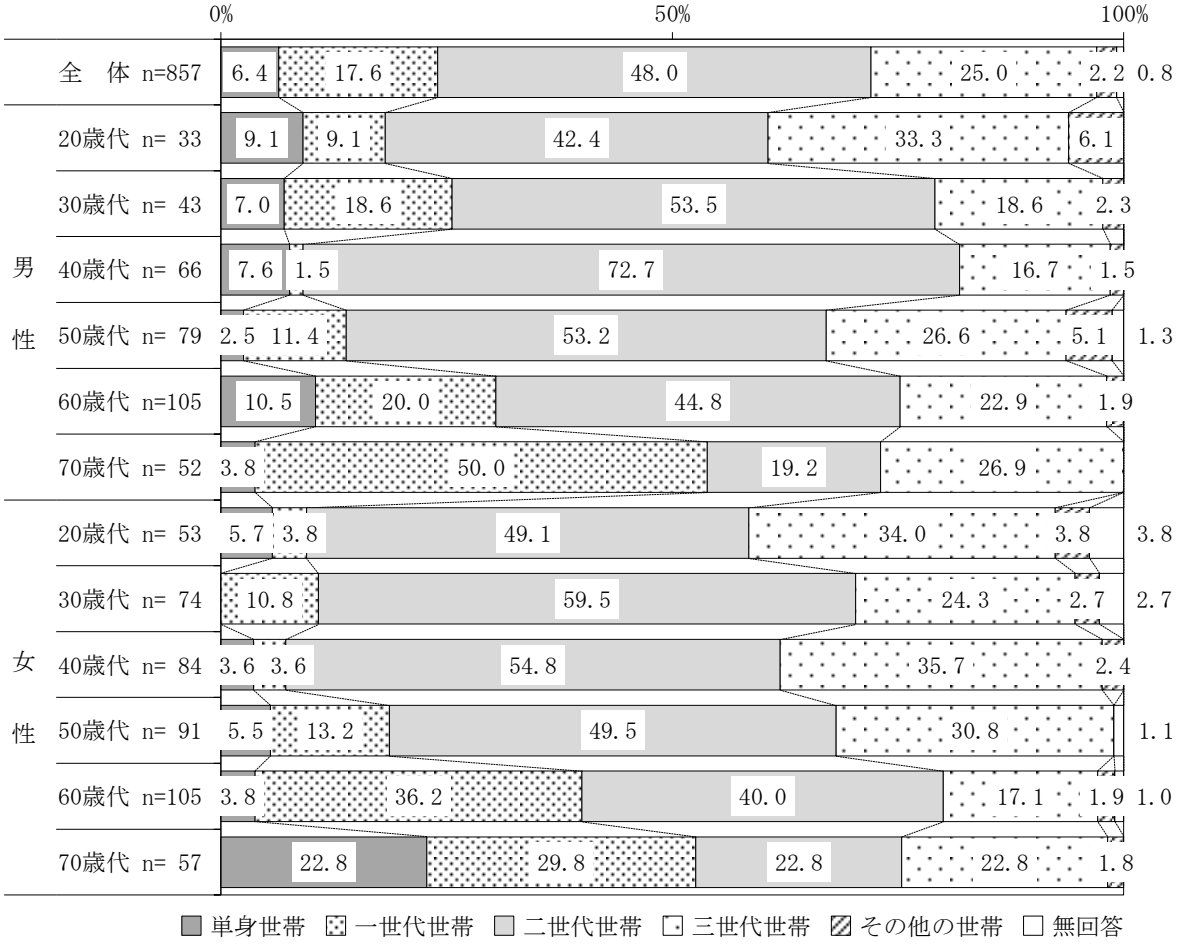
区　分	中津地域	苗木地域	坂本地域	落合地域	阿木地域	神坂地域	坂下地域	川上地域
人	284	62	128	40	30	13	65	13
%	33.1	7.2	14.9	4.7	3.5	1.5	7.6	1.5
区　分	加子母地域	付知地域	福岡地域	蛭川地域	山口地域	無回答	全　体	
人	33	70	74	29	13	3	857	
%	3.9	8.2	8.6	3.4	1.5	0.4	100.0	

4　家族構成

回答者の家族構成は、「二世代世帯」が48.0％と最も高く、次いで「三世代世帯」が25.0％、「一世代世帯」が17.6％などとなっています。「単身世帯」は6.4％です。

性・年齢別にみると、男女ともに加齢にともない「二世代世帯」が低下し、「一世代世帯」が上昇する傾向にあります。「単身世帯」は女性の70歳代が22.8％と突出して高くなっています。

図表１－４　家族構成

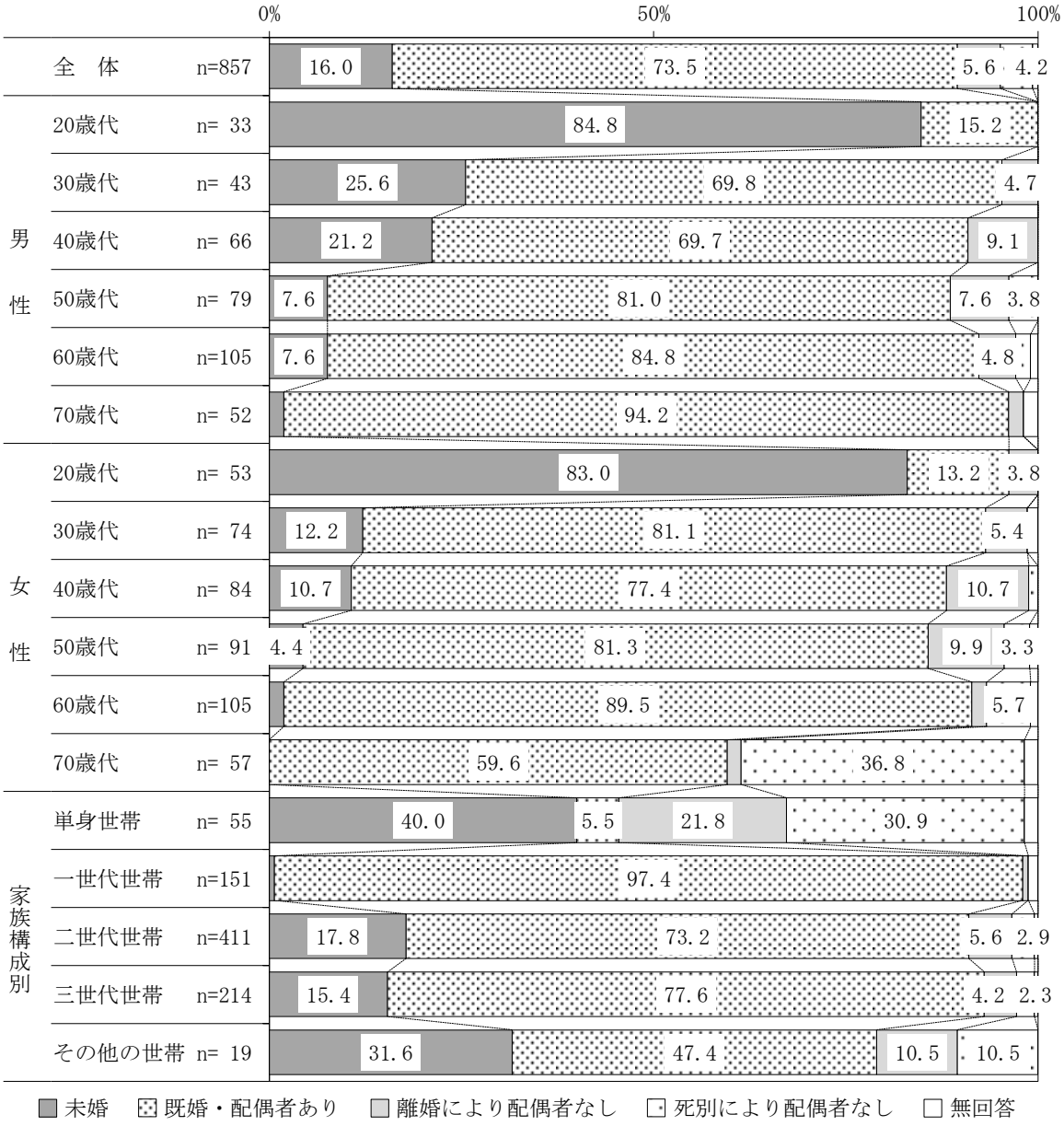


5　婚姻の状況

婚姻の状況をたずねたところ、「既婚・配偶者あり」が73.5％と圧倒的に高く、次いで「未婚」が16.0％、「離婚により配偶者なし」が5.6％、「死別により配偶者なし」が4.2％の順となっています。

性・年齢別にみると、20歳代は男女ともに「未婚」が80％以上を占めていますが、30歳代になると、男性は20％台、女性は10％台にまで低下し、半数以上が「既婚・配偶者あり」となっています。

図表１－５　婚姻の状況



（注）２％未満の値は表記を省略。

6　職業

回答者の職業は、「勤め人（常勤）」が36.9％と最も高く、次いで「無職」が28.5％、「パート・アルバイト等」が19.8％などの順となっています。

性別にみると、男性は「勤め人（常勤）」が圧倒的に高いのに対し、女性は「無職」および「パート・アルバイト等」が30％台、「勤め人（常勤）」が20％台と分かれています。

図表１－６　職業

区　分			n	自営業	家族従業者	勤め人（常勤）	パート・アルバイト等	学生	無職	無回答
全体			857	10.9	3.2	36.9	19.8	0.6	28.5	0.2
性・年齢別	男性		378	17.2	1.1	53.7	6.6	0.8	20.4	0.3
		２０歳代	33	3.0	－	87.9	－	9.1	－	－
		３０歳代	43	4.7	2.3	83.7	－	－	9.3	－
		４０歳代	66	24.2	3.0	66.7	1.5	－	4.5	－
		５０歳代	79	11.4	－	84.8	1.3	－	2.5	－
		６０歳代	105	24.8	－	24.8	18.1	－	31.4	1.0
		７０歳以上	52	21.2	1.9	1.9	7.7	－	67.3	－
	女性		464	5.4	4.7	23.3	30.8	0.4	35.1	0.2
		２０歳代	53	1.9	3.8	50.9	22.6	3.8	17.0	－
		３０歳代	74	1.4	5.4	32.4	33.8	－	25.7	1.4
		４０歳代	84	4.8	3.6	29.8	46.4	－	15.5	－
		５０歳代	91	7.7	7.7	33.0	30.8	－	20.9	－
		６０歳代	105	8.6	5.7	1.0	34.3	－	50.5	－
		７０歳以上	57	5.3	－	1.8	5.3	－	87.7	－

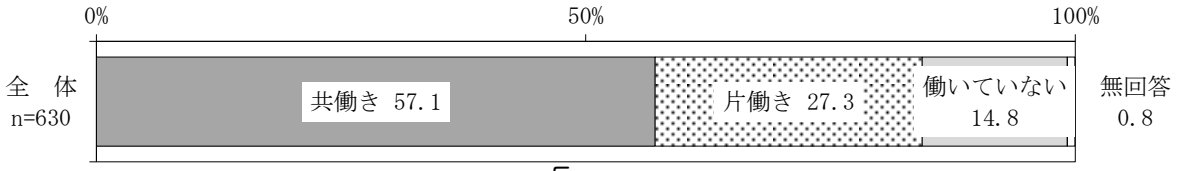
既婚者に配偶者の職業をたずねたところ、男性（妻の職業）は「無職」が、女性（夫の職業）は「勤め人（常勤）」がそれぞれ最も高くなっています（図表１－７）。

夫婦の就労状況は、「共働き」が57.1％、「片働き」が27.3％、「働いていない」（共に無職）が14.8％となります（図表１－８）。

図表１－７　配偶者の職業

区　分		n	自営業	家族従業者	勤め人（常勤）	パート・アルバイト等	学生	無職	無回答
既婚者	男性（妻の職業）	283	6.4	9.5	16.3	32.2	0.7	34.6	0.4
	女性（夫の職業）	334	16.2	0.6	52.1	9.6	－	21.3	0.3

図表１－８　夫婦の就労状況

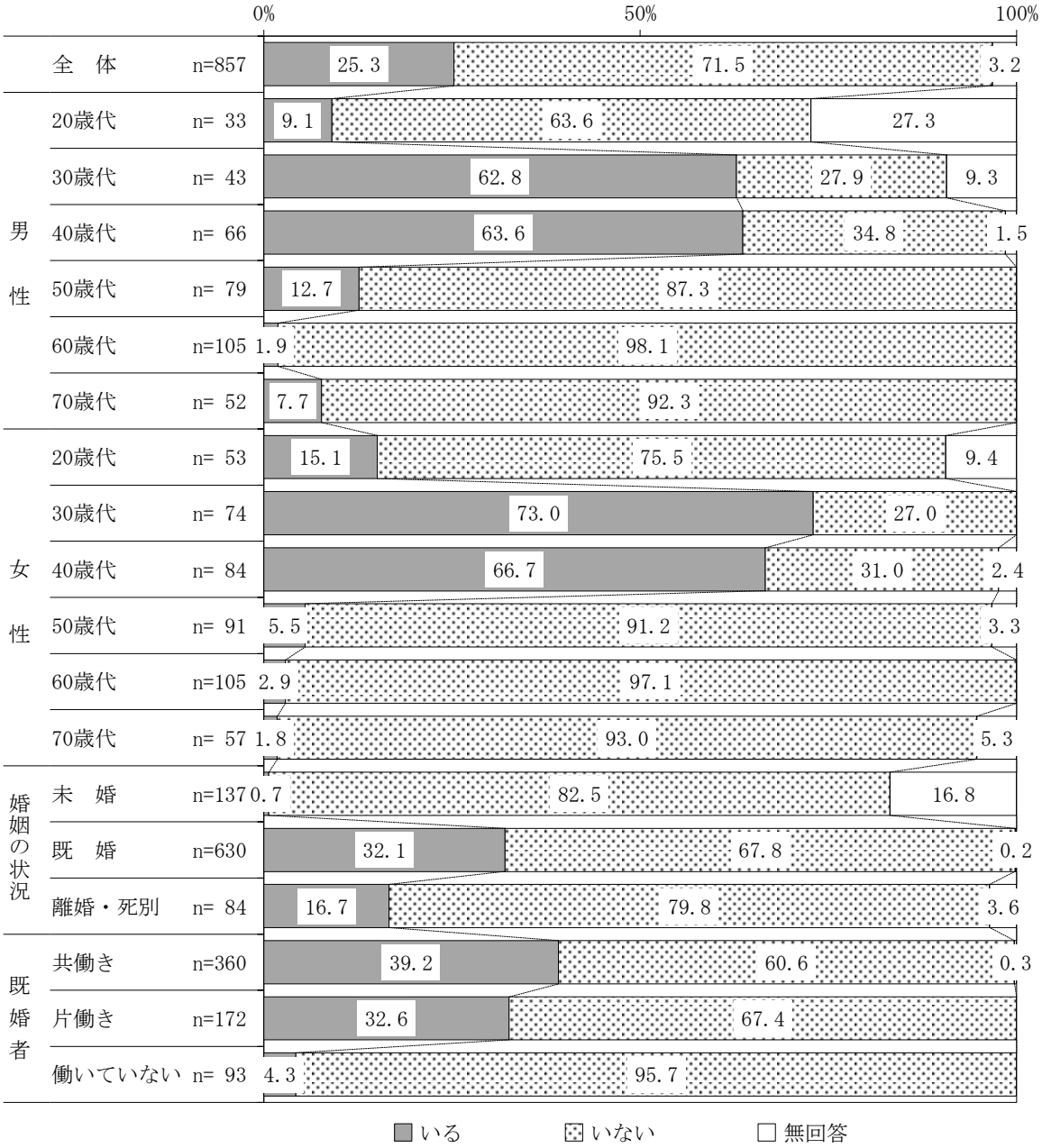


7　０～15歳の子どもの有無

０～15歳の子どもがいるのは25.3%です。

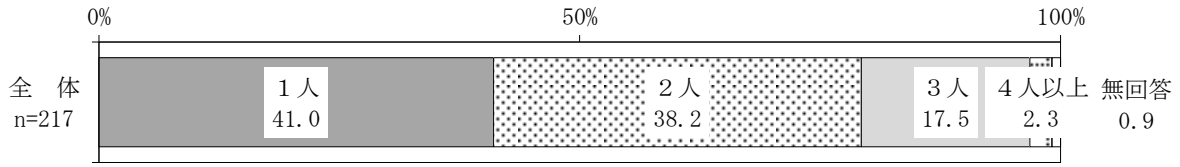
性・年齢別にみると、男女ともに30歳代および40歳代が高くなっています。

図表１－９　０～15歳の子どもの有無



子どもの数は「１人」が41.0%と最も高く、子どもの数の平均は1.8人です。

図表１－10　０～15歳の子どもの数

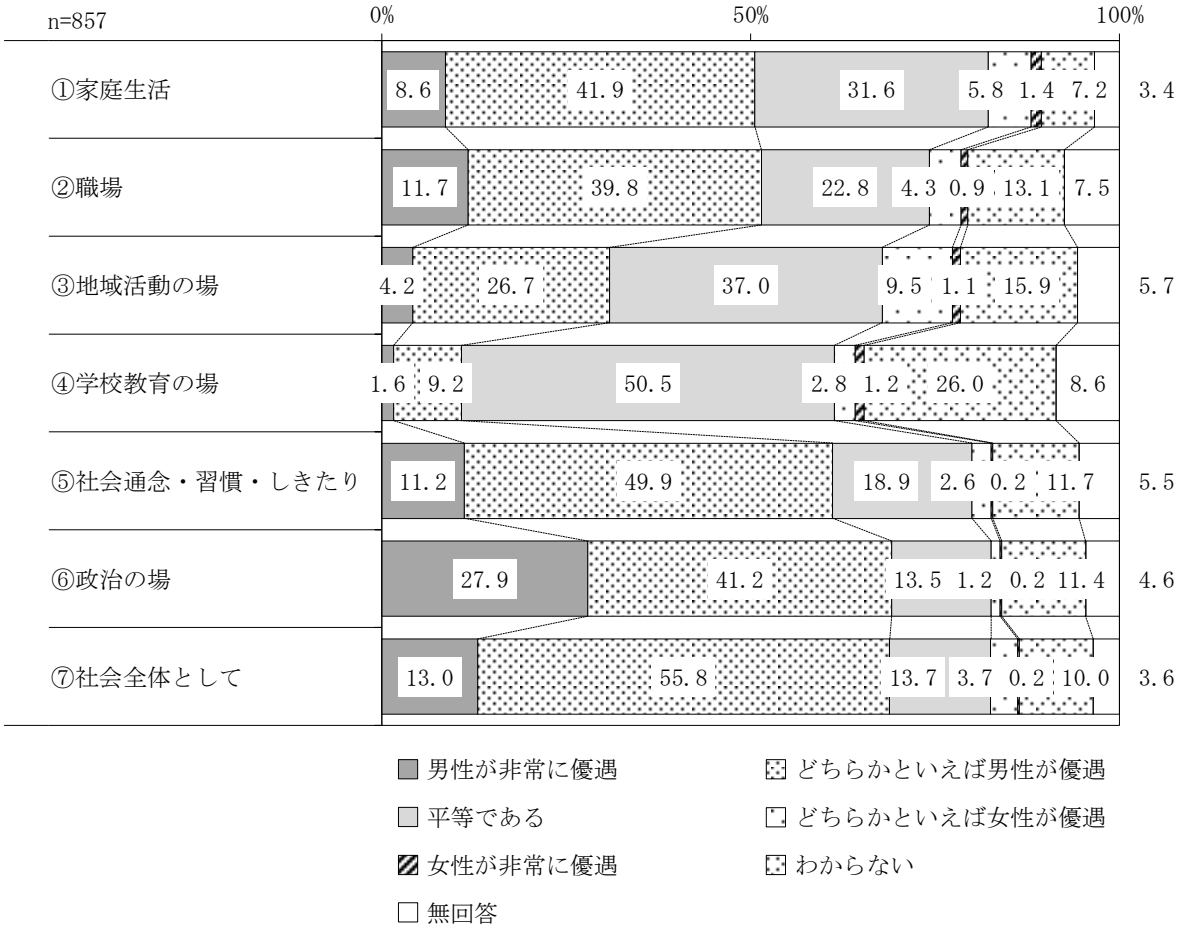


Ⅱ　男女平等意識について

1　男女の地位の平等

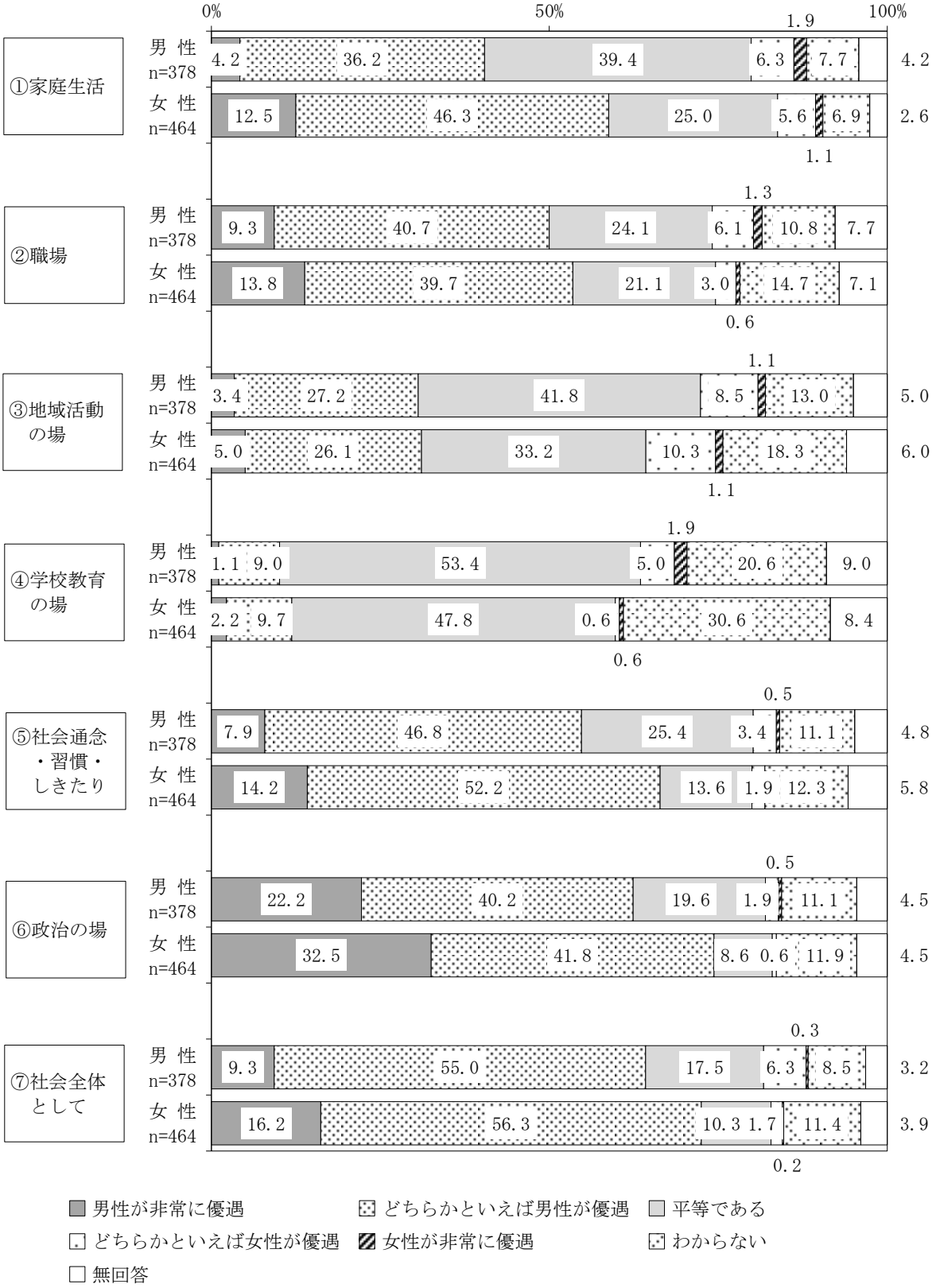
図表２－１は、家庭生活、職場、地域や学校教育の場において、また、習慣等や政治など社会の仕組について、男女の地位が平等になっているかをお聞きした結果です。「平等である」は、④学校教育の場が50.5％と最も高く、次いで③地域活動の場が37.0％、①家庭生活の場が31.6％などの順となっています。「男性が非常に優遇」および「どちらかといえば男性が優遇」を合計した＜男性優遇＞は、③地域活動の場および④学校教育の場を除く５項目で50％を超えており、中でも⑥政治の場および⑦社会全体としてでは70％弱にのぼっています。＜女性優遇＞が最も高いのは、③地域活動の場の10.6％です。

図表２－１　男女の地位の平等（全体）



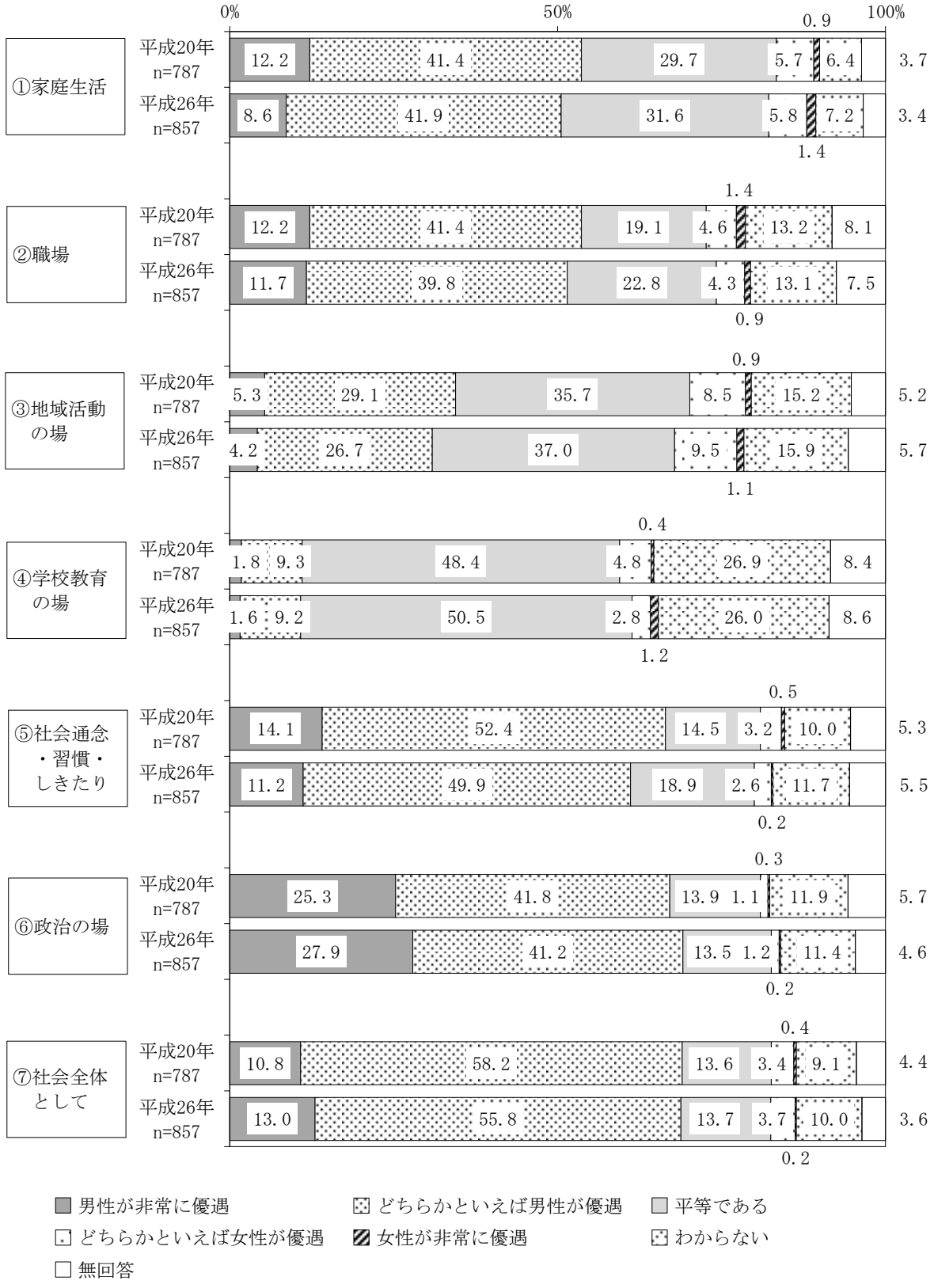
図表２－２で性別にみると、すべての項目で、「平等である」は男性が女性を、＜男性優遇＞は女性が男性を上回っており、男性に比べて女性の不平等感が強いことがわかります。

図表２－２　男女の地位の平等（性別）



図表２－３で前回調査結果と比較すると、⑦政治の場を除くすべての項目で、＜男性優遇＞が低下し、「平等である」が上昇しています。⑦政治の場は、＜男性優遇＞が上昇し、「平等である」が低下しています。

図表２－３　男女の地位の平等（前回調査結果との比較）



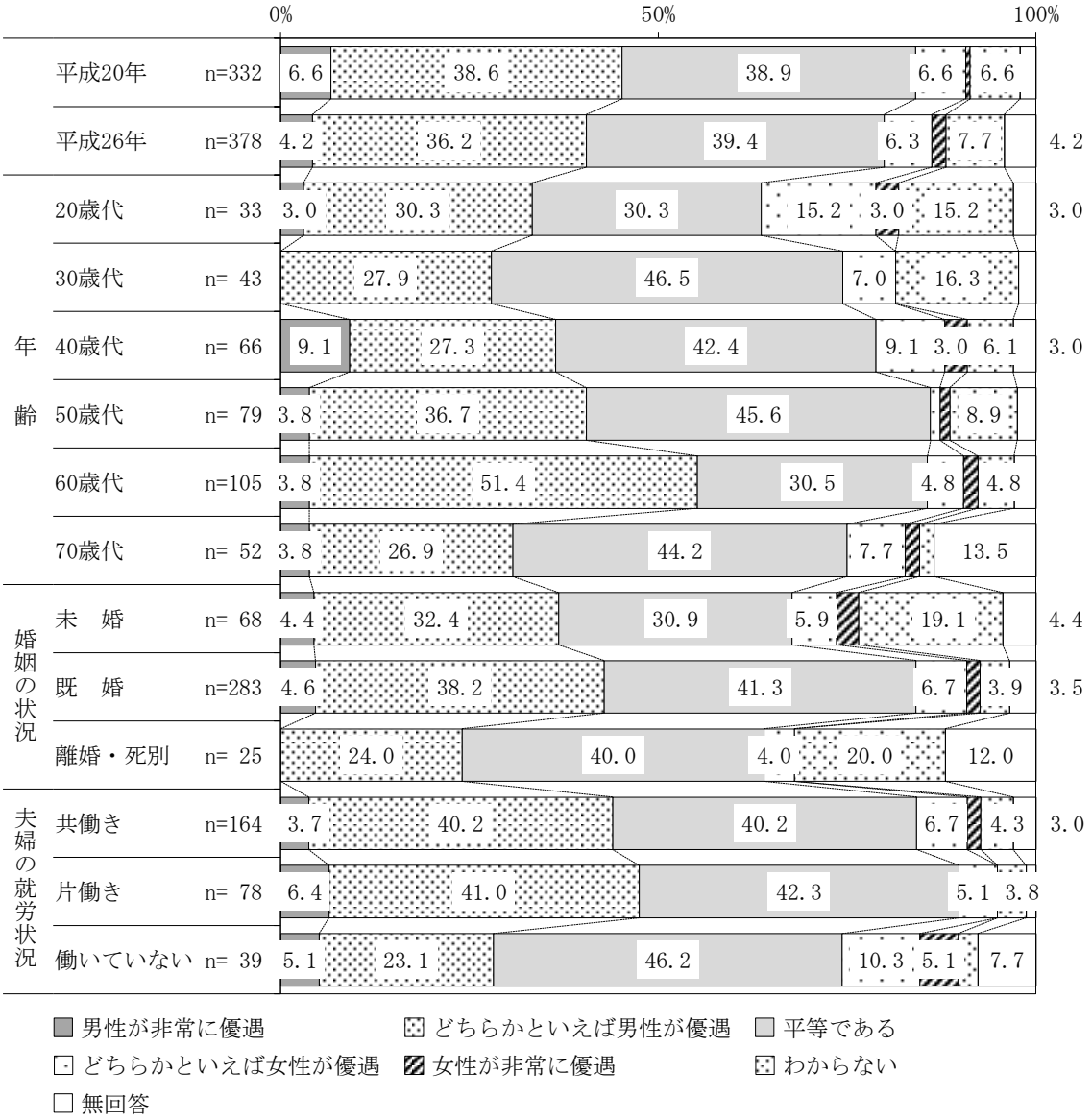
(1)　家庭生活における男女の地位の平等

「家庭生活」は、男女の地位の平等についての設問中、＜男性優遇＞の男女差が最も大きく、男女の意識に開きがみられる項目です（図表２－２参照）。

前回調査と比較すると、男女ともに＜男性優遇＞がわずかに低下し、「平等である」がやや上昇しています。

年齢別にみると、＜男性優遇＞が最も高いのは、男性では60歳代、女性では40歳代です。＜男性優遇＞が最も低いのは、男性では30歳代、女性では20歳代です。また、＜男性優遇＞の男女差が最も大きいのは40歳代であり、その差は38.6ポイントです。

図表２－４　家庭生活における男女の地位の平等（男性）

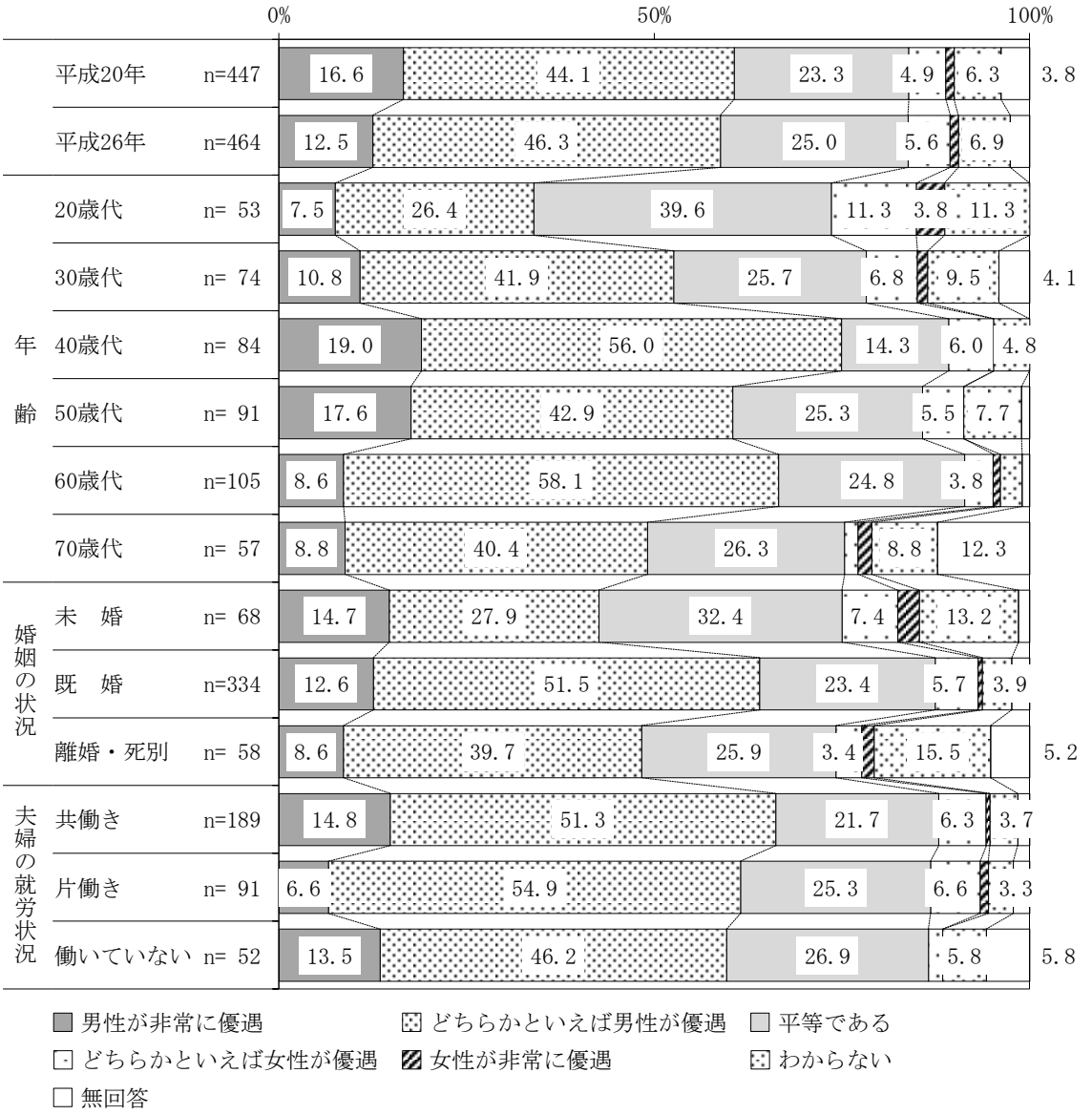


（注）３％未満の値は省略。

婚姻の状況別にみると、未婚に比べて既婚の＜男性優遇＞が高いのは男女同様ですが、その差は男性に比べて女性が高くなっています。

夫婦の就労状況別にみると、＜男性優遇＞は、男性では片働きが、女性では共働きが高くなっています。これは、働く女性がより強い不平等感を感じていることを示すものであり、共働き世帯において家事や育児が分担されず、女性に負担がかかっているものと推察されます。

図表２－５　家庭生活における男女の地位の平等（女性）



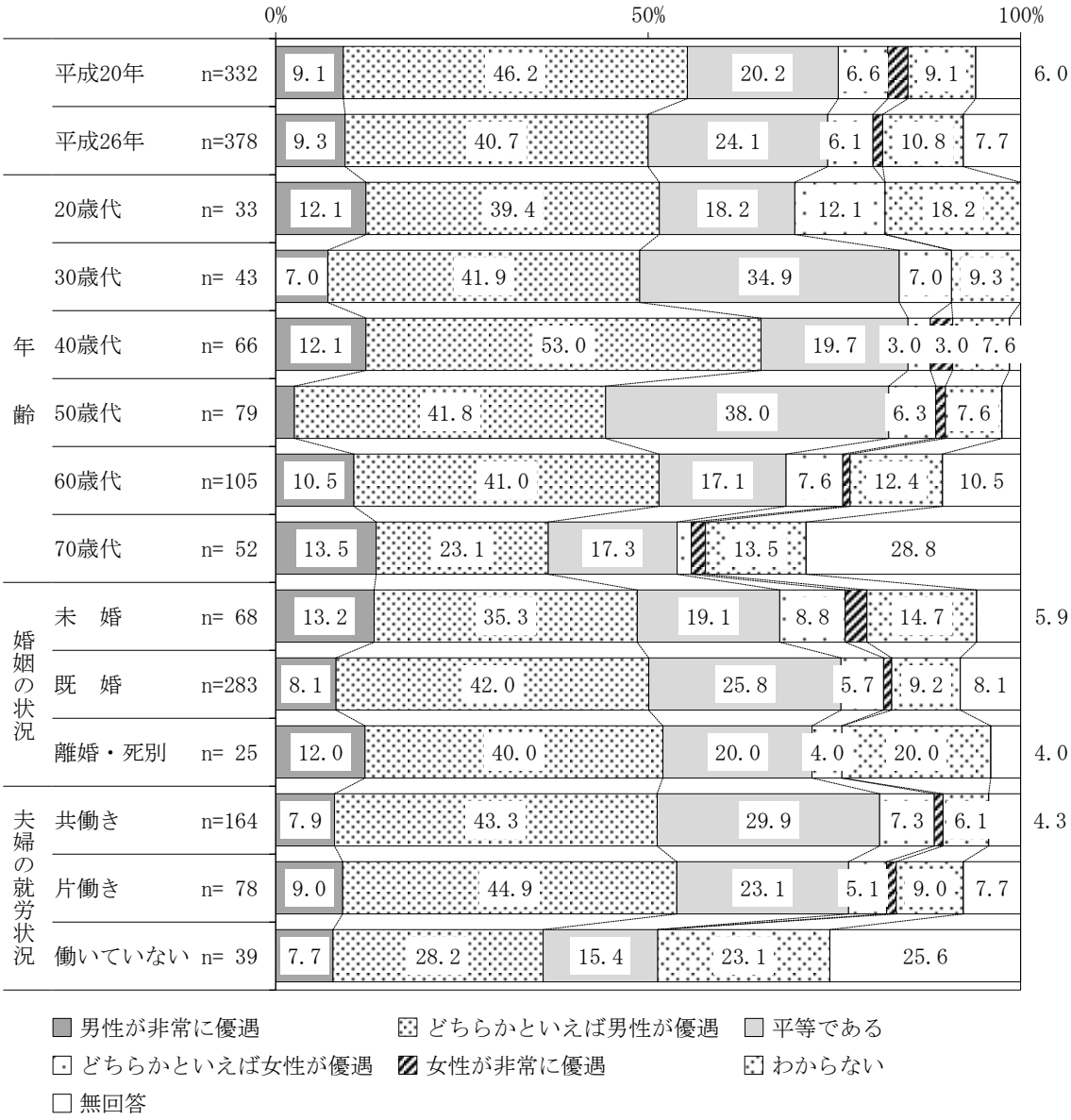
（注）３％未満の値は省略。

(2)　職場における男女の地位の平等

「職場」における男女の地位の平等について、前回調査結果と比較すると、＜男性優遇＞は、男性では低下しているものの、女性にはほとんど変化がありません。

年齢別にみると、女性は、20歳代では「平等である」が34.0％と最も高くなっていますが、加齢に伴い低下し、定年退職を迎える60歳代まで＜男性優遇＞が上昇する傾向にあります。これは、就労の機会や就労当初の待遇には目立った男女差がないものの、その後の昇格や昇給等の機会には不平等があることの表れと読み取ることができます。

図表２－６　職場における男女の地位の平等（男性）

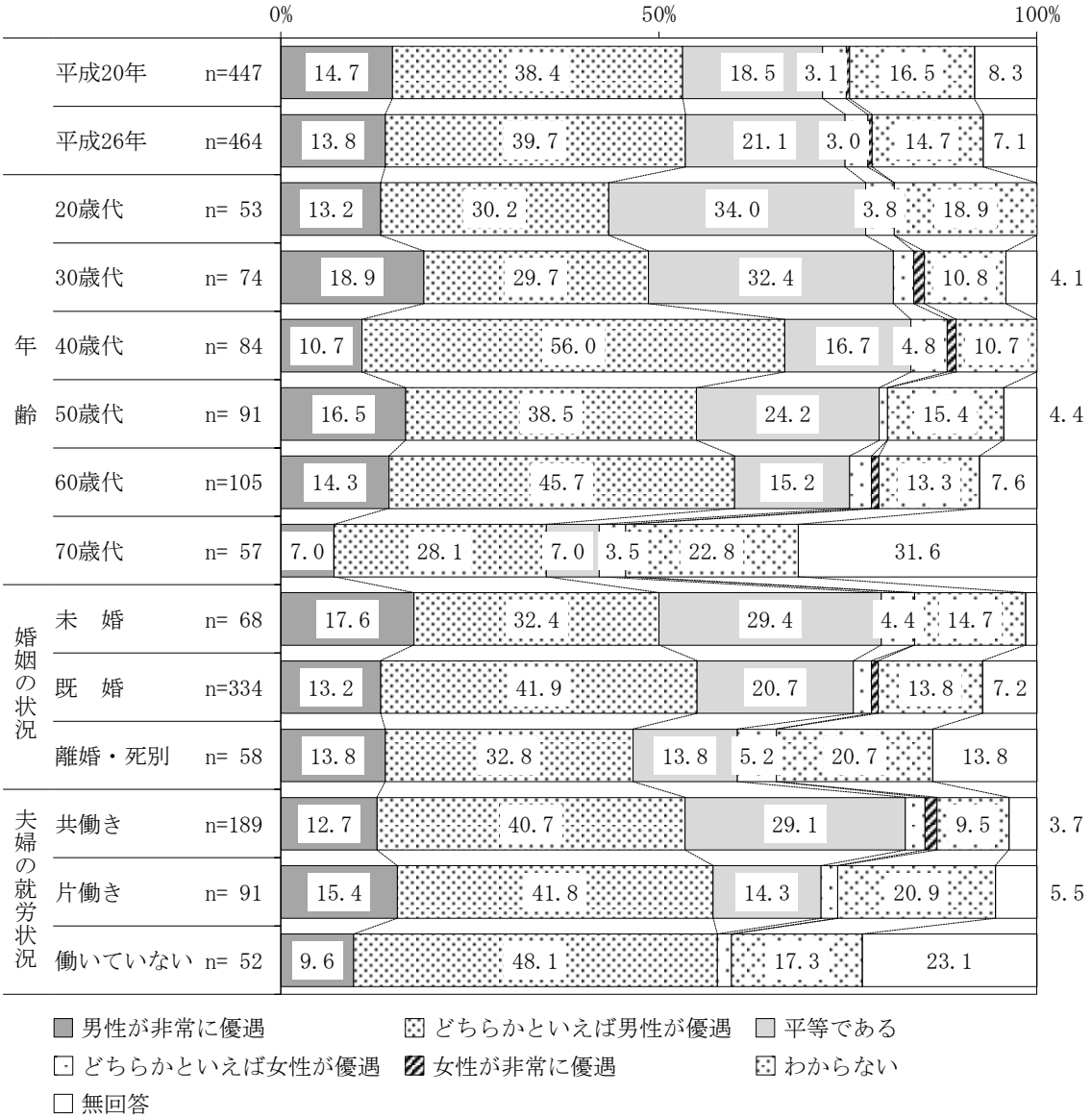


（注）３％未満の値は省略。

婚姻の状況別にみると、未婚の場合、「平等である」は男性に比べて女性が10ポイント以上高くなっています。

夫婦の就労状況別にみると、共働きの場合、＜男性優遇＞と「平等である」には、性別による差がほとんどありません。女性の片働きで「わからない」が高くなっているのは、いわゆる専業主婦の回答によるものと推察されます。

図表２－７　職場における男女の地位の平等（女性）



（注）３％未満の値は省略。

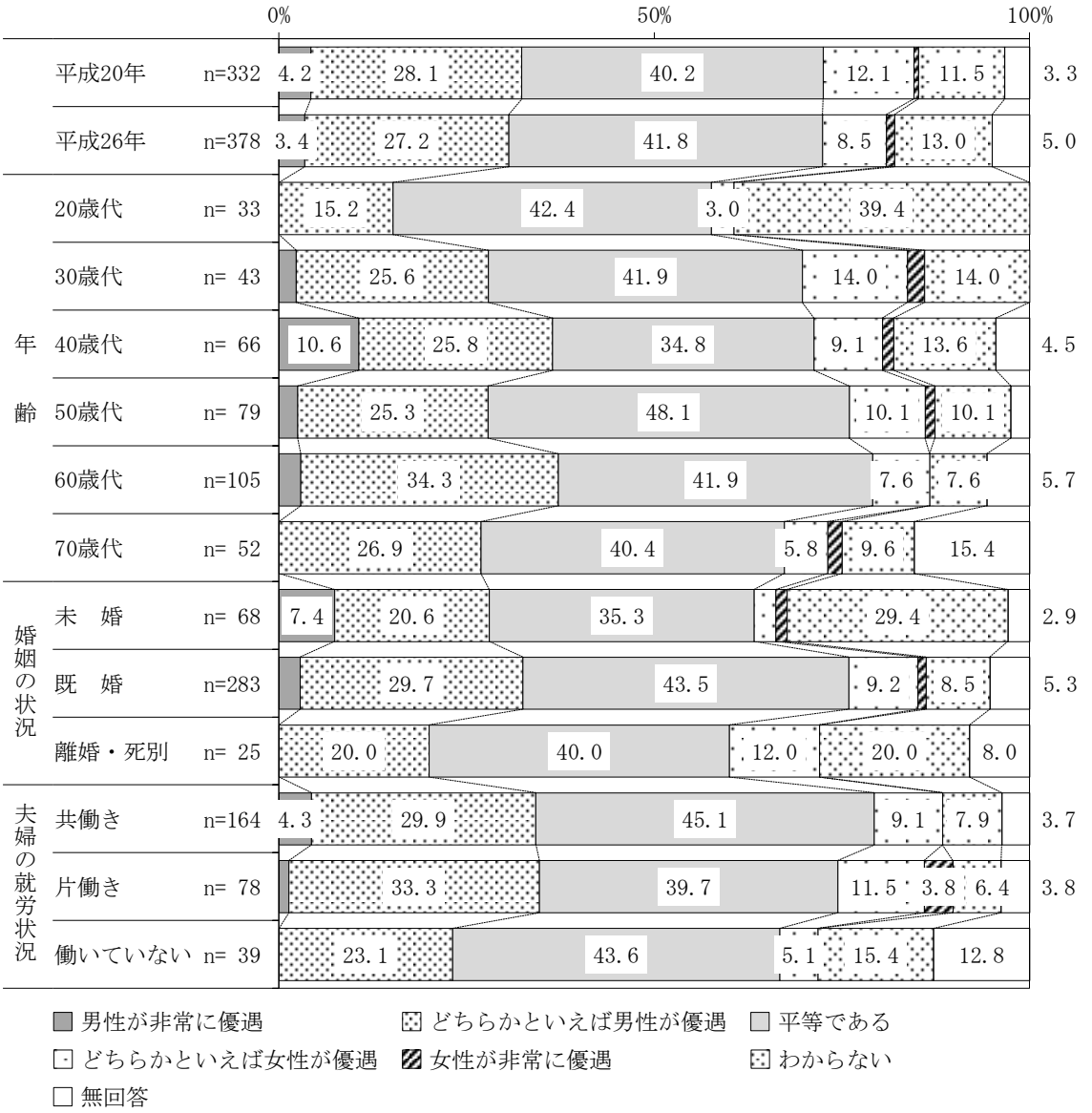
(3)　地域活動の場における男女の地位の平等

男女の地位の平等についての設問中、最も＜女性優遇＞の率が高いのが「地域活動の場」です。

前回調査結果と比較すると、男性に比べて女性では＜男性優遇＞が低下し、＜女性優遇＞が上昇しています。

年齢別にみると、地域活動への参加が比較的少ない20歳代では、男女ともに「わからない」が40％弱を占めています。また、年齢が上がるにつれて、女性は＜女性優遇＞が上昇する傾向にあるのに対し、男性では低下する傾向にあります。

図表２－８　地域活動の場における男女の地位の平等（男性）

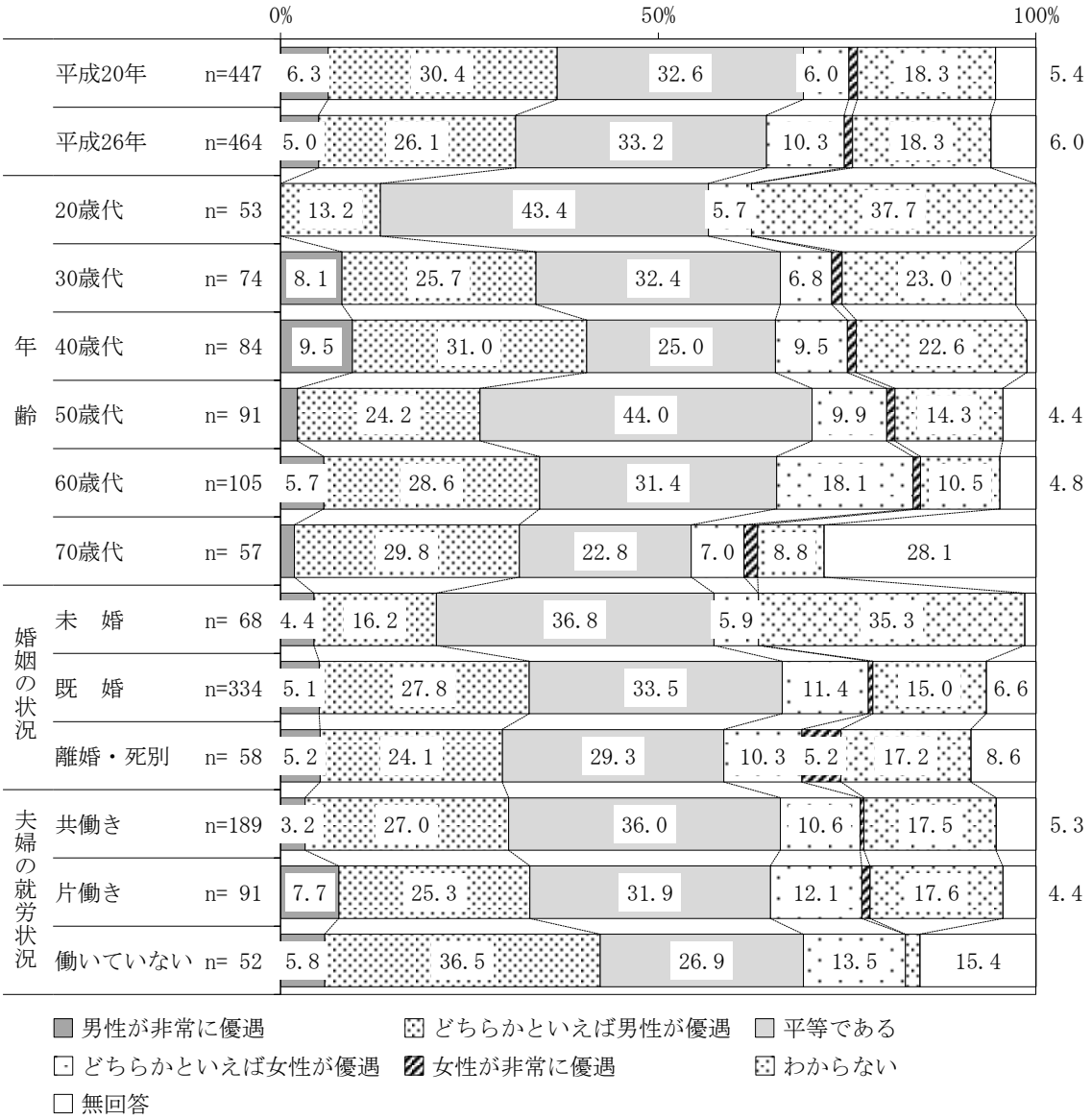


（注）３％未満の値は省略。

婚姻の状況別および夫婦の就労状況別にみると、男性に比べて女性は、「平等である」が10ポイント程度低く、＜女性優遇＞および「わからない」が高い傾向にあります。

本設問では、「地域活動」に含まれる具体的な活動や取組み等を例示しなかったため、趣味やボランティアなどの自発的な活動から自治会の役など輪番制で担当しなければならない活動まで、「地域活動」から想像されるものにかなりの個人差があったと考えられます。

図表２－９　地域活動の場における男女の地位の平等（女性）



（注）３％未満の値は省略。

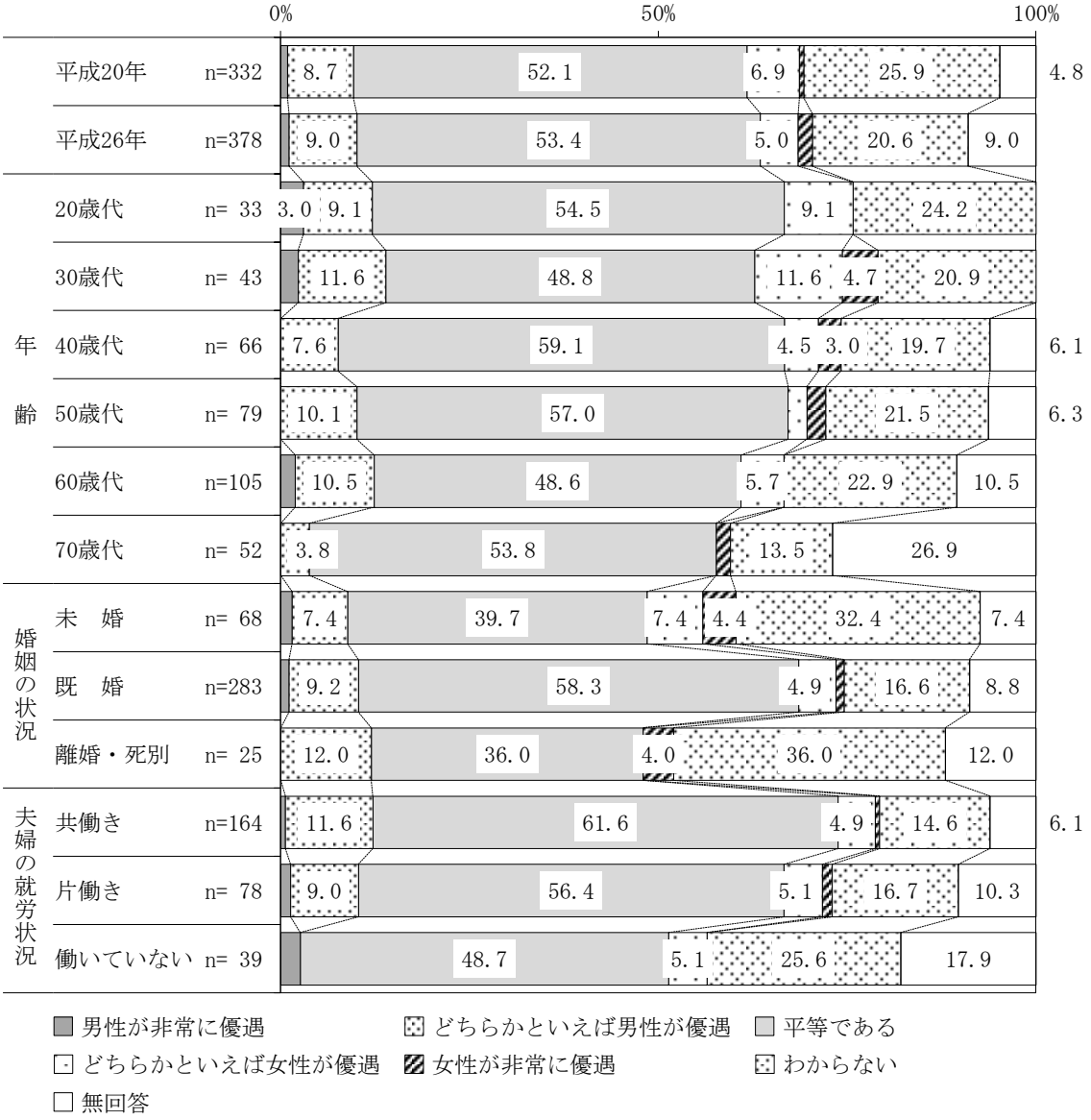
(4)　学校教育の場における男女の地位の平等

男女の地位の平等についての設問中、最も＜平等である＞の率が高いのが「学校教育の場」です。

前回調査結果と比較して、男女ともに大きな変化はみられません。

年齢別にみると、男性では30歳代の＜女性優遇＞が、女性では40歳代の＜男性優遇＞が目立っています。「わからない」は男性に比べて女性が全般的に高くなっています。

図表２－10　学校教育の場における男女の地位の平等（男性）

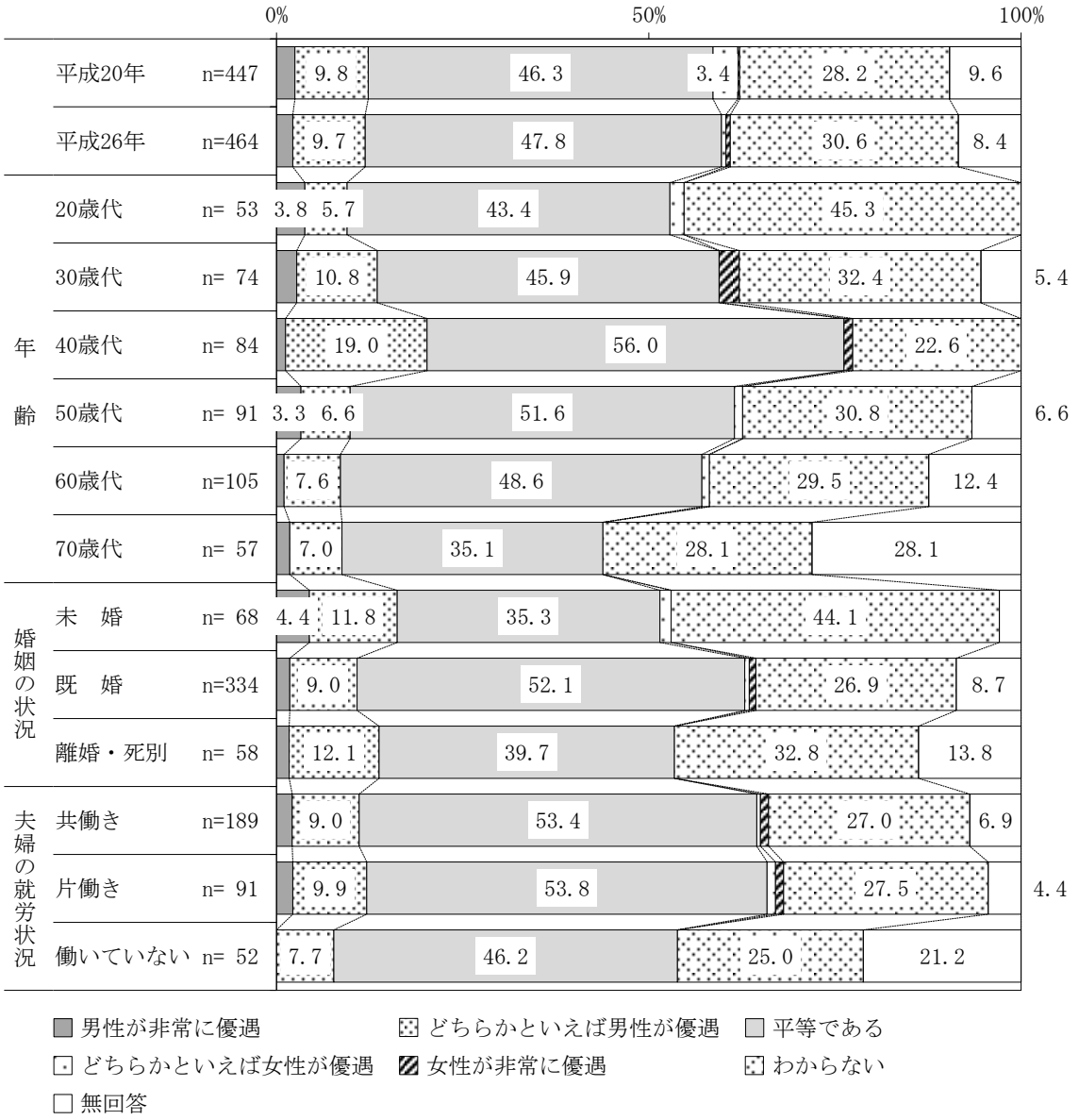


（注）３％未満の値は省略。

婚姻の状況別にみると、既婚に比べて未婚の「わからない」が高いのは、子どもの有無によるものと考えられます。

夫婦の就労状況別にみると、「平等である」は、共働きの男性がやや高くなっています。

図表２－11　学校教育の場における男女の地位の平等（女性）



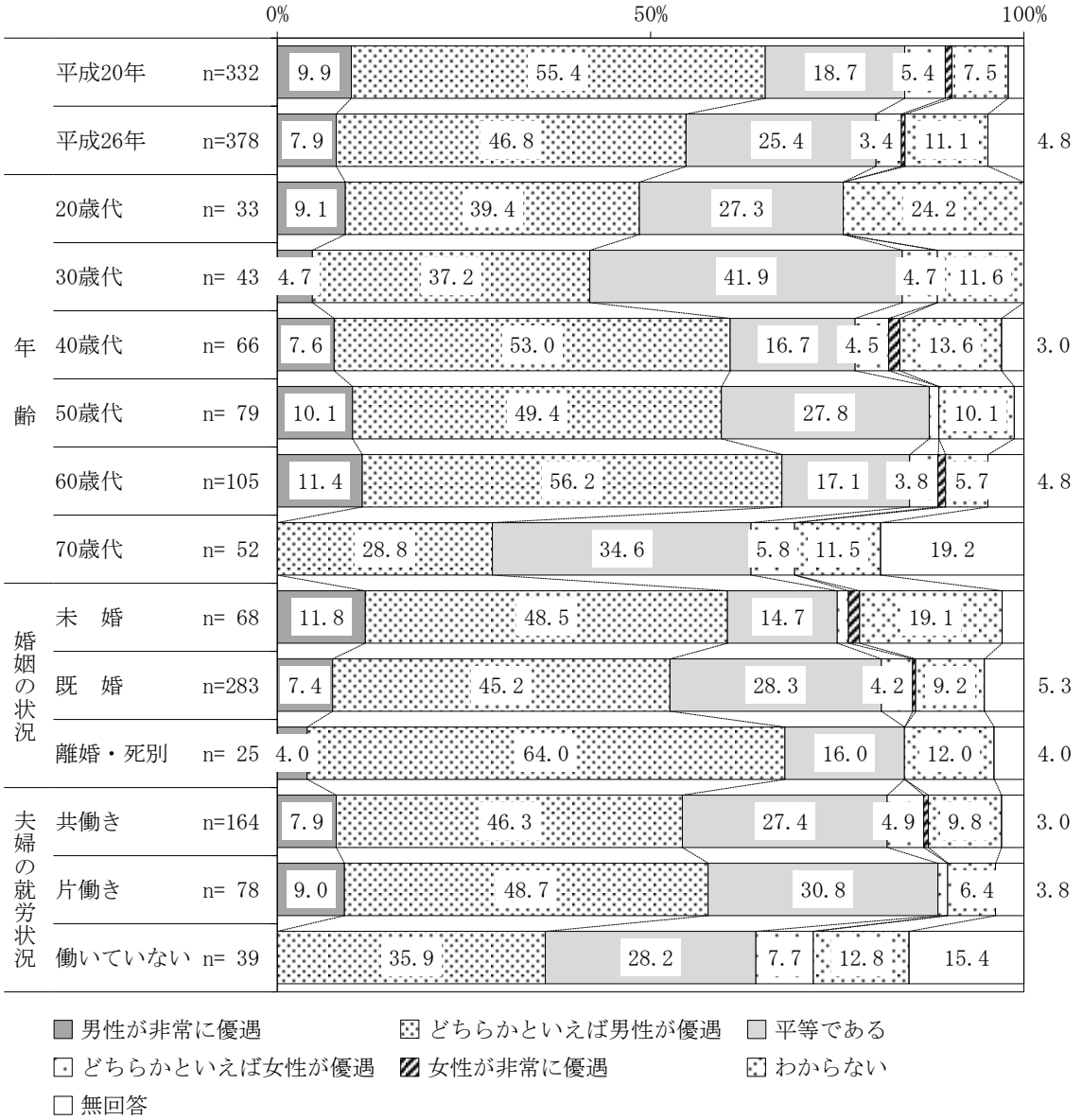
（注）３％未満の値は省略。

(5)　社会通念・習慣・しきたりにおける男女の地位の平等

「社会通念・習慣・しきたり」における男女の地位の平等について、前回調査結果と比較すると、男性では＜男性優遇＞が低下し、「平等である」が上昇していますが、女性には男性ほどの変化はみられません。

年齢別にみると、女性の30歳代～60歳代では＜男性優遇＞が70％以上を占めており、強い不平等感を感じていることがわかります。「平等である」は男性の30歳代が41.9％と最も高く、同年代の女性とは約30ポイントの差があります。

図表２－12　社会通念・習慣・しきたりにおける男女の地位の平等（男性）

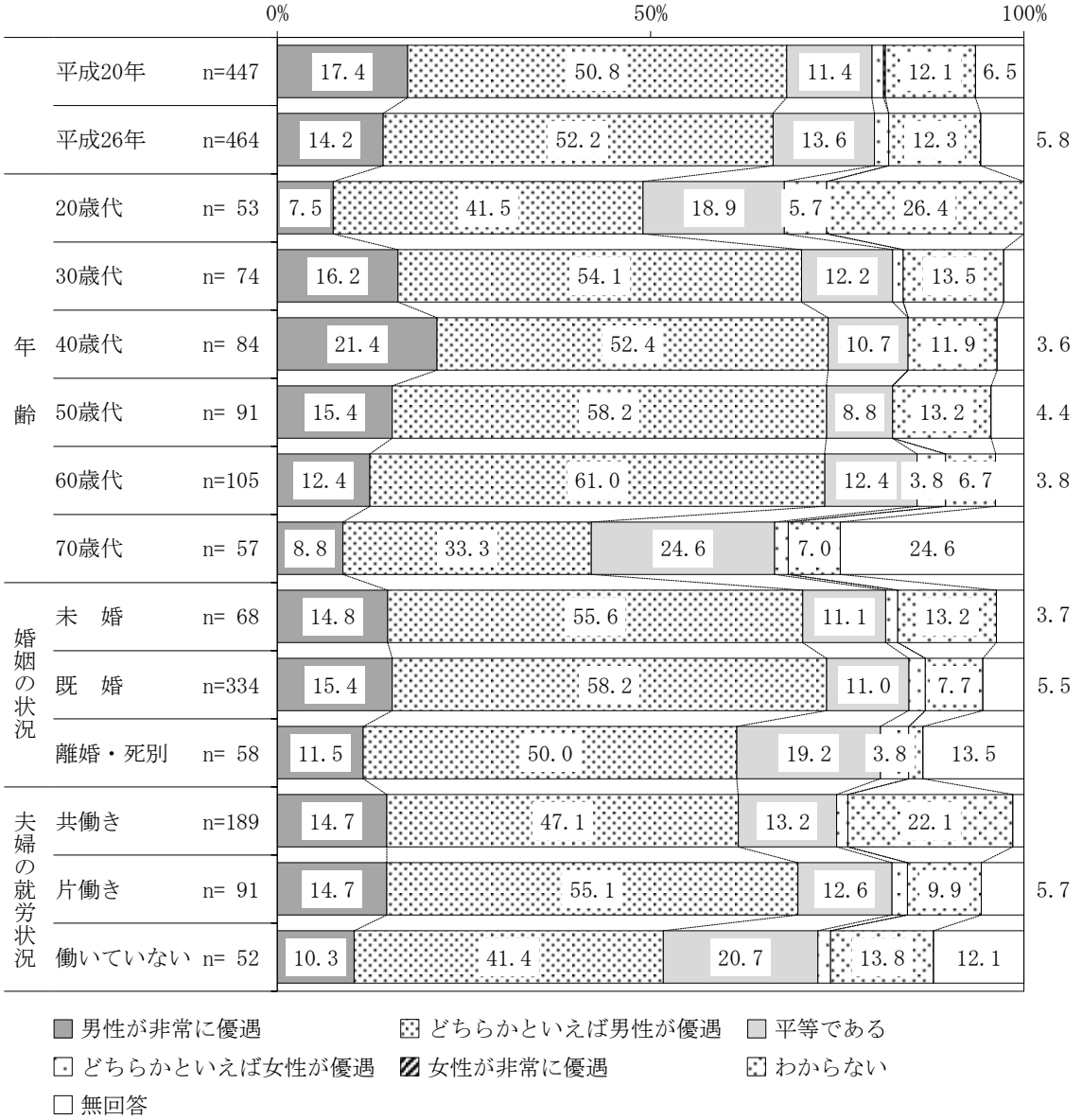


（注）３％未満の値は省略。

婚姻の状況別にみると、女性では未婚と既婚に目立った大きな差はみられないものの、男性では未婚に比べて既婚の「平等である」が10ポイント以上高くなっています。

夫婦の就労状況別にみると、男女ともに、共働きに比べて片働きの＜男性優遇＞が高くなっています。

図表２－13　社会通念・習慣・しきたりにおける男女の地位の平等（女性）



（注）３％未満の値は省略。

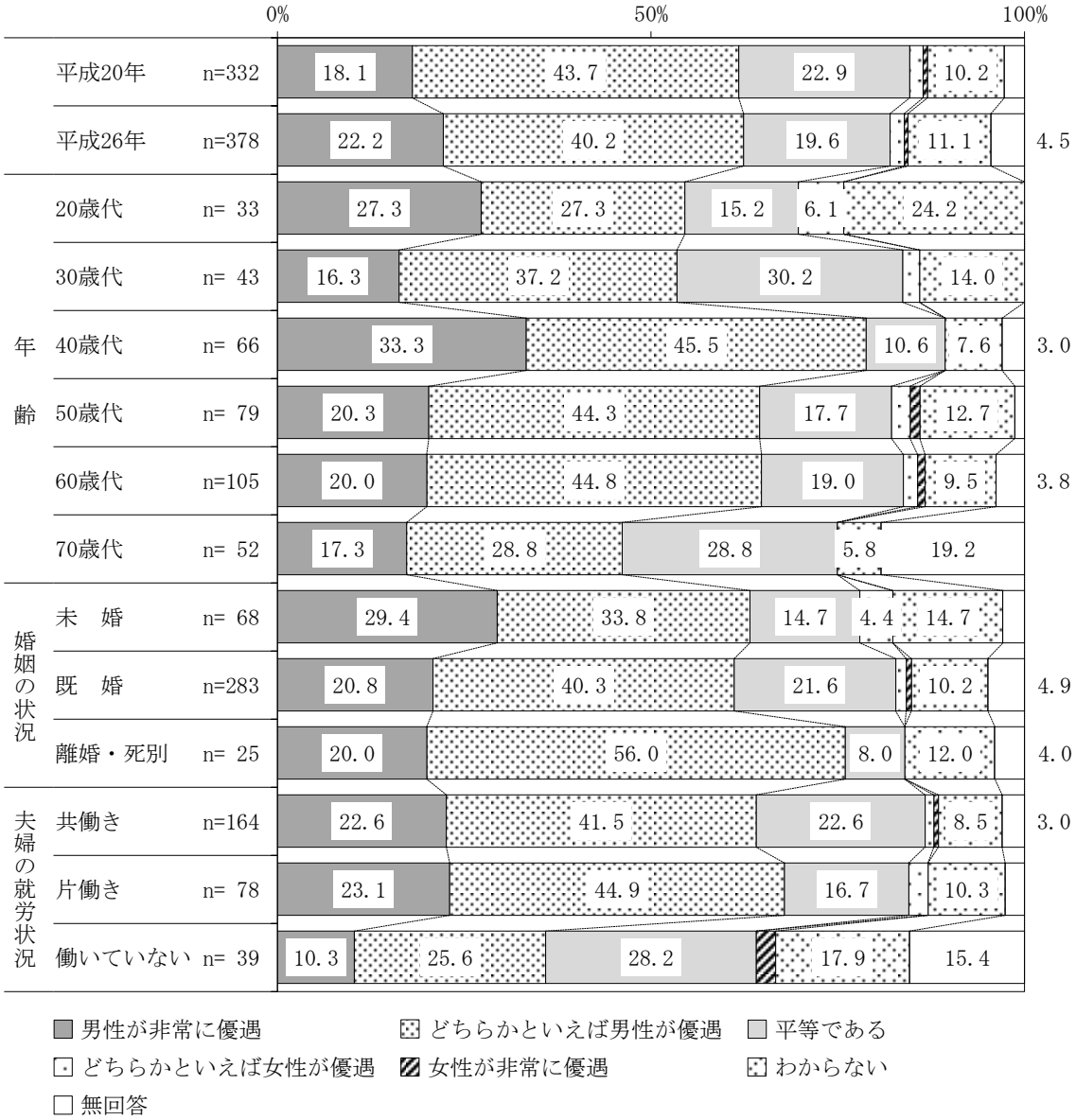
(6)　政治の場における男女の地位の平等

男女の地位の平等についての設問中、最も＜男性優遇＞の率が高いのが「政治の場」であり、特に「男性が非常に優遇」が高いのが特徴です。

前回調査結果と比較すると、＜男性優遇＞が上昇しているのは男女同様ですが、「男性が非常に優遇」の上昇幅は女性に比べて男性が高くなっています。また、「平等である」は女性ではわずかに上昇しているのに対し、男性では低下しています。

年齢別にみると、＜男性優遇＞が最も高いのは、男女ともに40歳代です。「平等である」は男性の30歳代および70歳代が高くなっています。

図表２－14　政治の場における男女の地位の平等（男性）

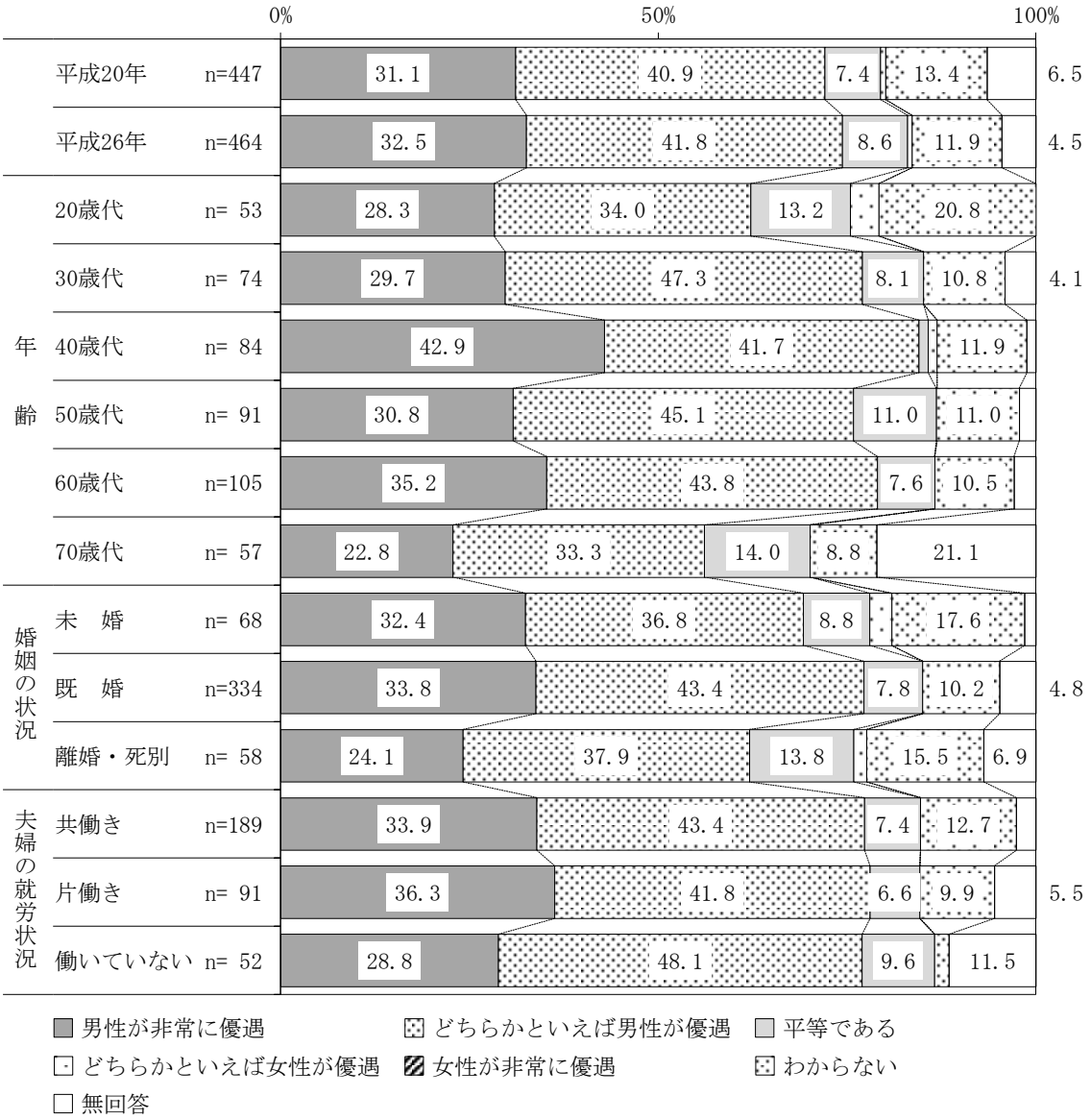


（注）３％未満の値は省略。

婚姻の状況別にみると、男性では、＜男性優遇＞が高いのは未婚、「平等である」が高いのは既婚であるのに対し、女性では逆転しています。

国会、地方議会、地方公共団体の長では、女性の議員や知事の割合が上昇する傾向にありますが、女性の衆議院議員が9.5％（平成26年12月）、参議院議員が15.7％（平成26年12月）、都道府県議会議員が8.8％（平成25年12月）、市区議会議員が13.6％（平成25年12月）、都道府県知事が6.4％（平成26年４月）の現状から考えれば、市民の意識としてまだまだ男性優遇であるのは当然といえます。

図表２－15　政治の場における男女の地位の平等（女性）



（注）３％未満の値は省略。

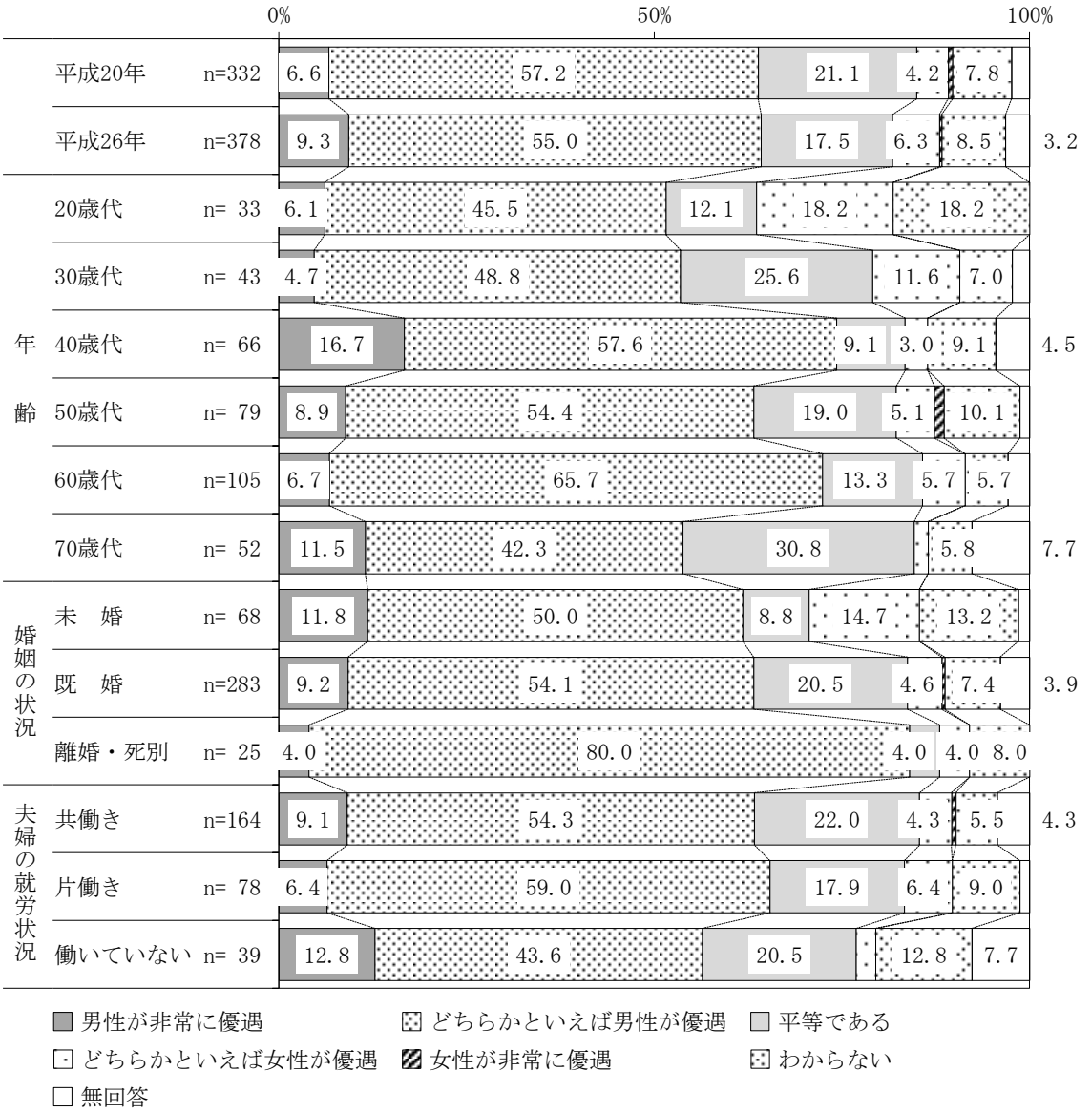
(7)　社会全体における男女の地位の平等

「社会全体」は、男女の地位の平等についての設問中、「政治」とほぼ同等に＜男性優遇＞が高い項目です。

前回調査結果と比較すると、＜男性優遇＞は、男性が上昇し、女性が低下しており、「平等である」は、男性が低下し、女性が上昇しています。「男性が非常に優遇」が上昇しているのは男女同様です。

年齢別にみると、＜男性優遇＞および「男性が非常に優遇」が最も高いのは、男女ともに40歳代です。20歳代は男女ともに「わからない」が18%台となっています。

図表２－16　社会全体における男女の地位の平等（男性）

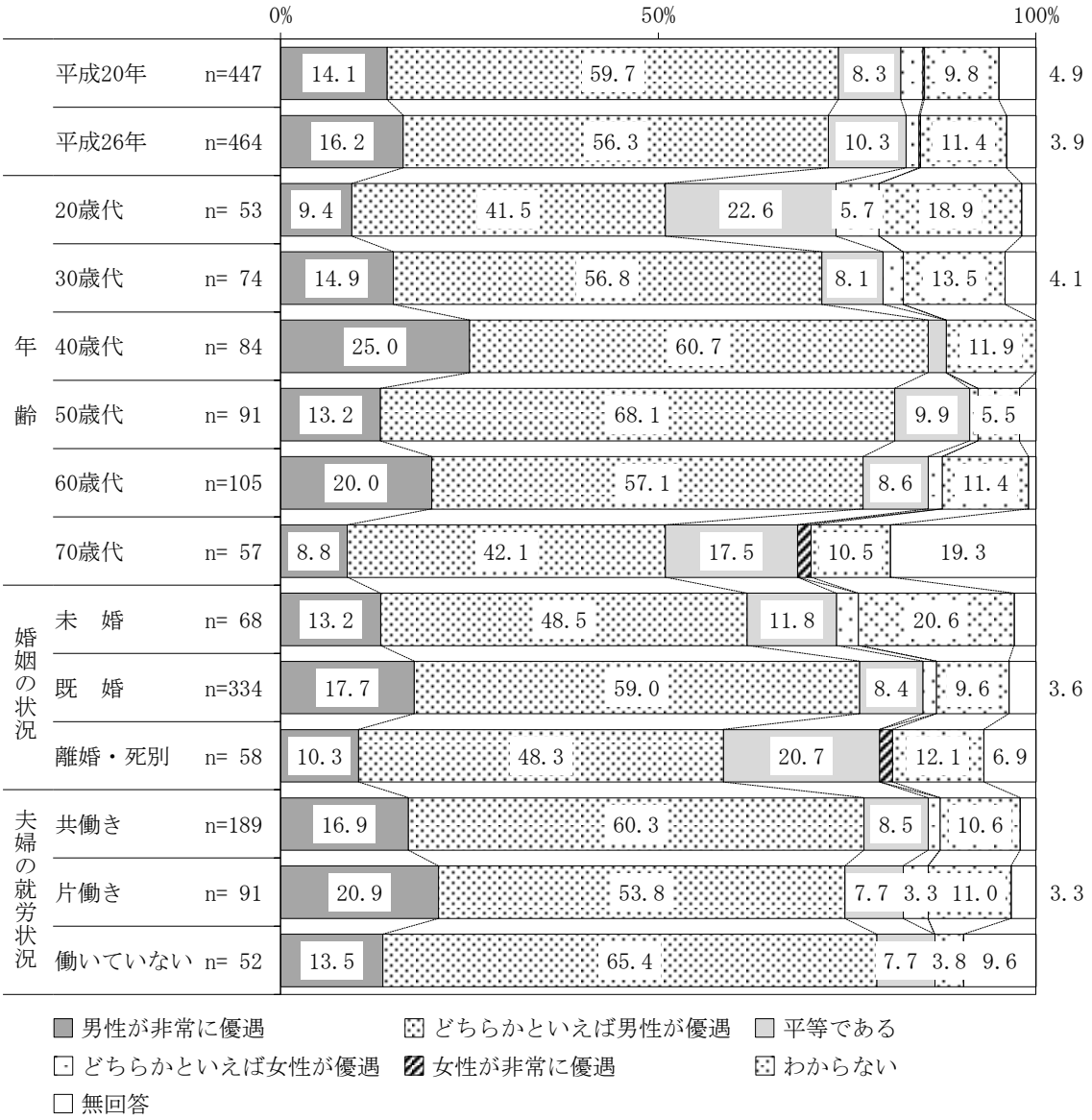


（注）３％未満の値は省略。

婚姻の状況別にみると、既婚女性の＜男性優遇＞が非常に高くなっており、未婚に比べて男性との意識の差が大きいことがわかります。

夫婦の就労状況別にみると、＜男性優遇＞が高いのは、男性では片働き、女性では共働きとなっています。ただし、「男性が非常に優遇」が最も高いのは、片働きの女性です。

図表２－17　社会全体における男女の地位の平等（女性）



（注）３％未満の値は省略。

2　性別役割分担に対する考え方

図表２－18および図表２－19は、「男は仕事、女は家庭」に代表されるように、性別によって男女の役割を決めるような考え方についてたずねた結果です。

性別にみると、「男女とも仕事をし、家事・子育て・介護の役割も分かち合う」は、男性の74.6%、女性の86.9%を占めており、前回調査結果と比較して、男女平等に負担し合う意識が高まっています。

年齢別にみると、男性は若年齢層ほど男女平等に負担し合う意識が高いことがわかります。『「男は仕事、女は家庭」がよい』および「男女とも仕事をするが、家事・子育て・介護は女性の役割である」は全般的に男性が高いものの、『「男は仕事、女は家庭」がよい』

図表２－18　性別役割分担に対する考え方（男性）

は女性の20歳代および70歳代が10％を超える高い率となっています。また、「男女とも仕事をするが、家事・子育て・介護は女性の役割である」は、男性の40歳代以上が10％前後と高くなっています。親の介護が現実的な問題となってくる年代であり、家事等の負担が女性に偏っているものと推察されます。

婚姻の状況別にみると、未婚女性は『「男は仕事、女は家庭」がよい』が、既婚男性は「男女とも仕事をするが、家事・子育て・介護は女性の役割である」が高くなっています。

夫婦の就労状況別にみると、共働きの男性の「男女とも仕事をするが、家事・子育て・介護は女性の役割である」が高く、働く女性の負担が大きいものと推察されます。

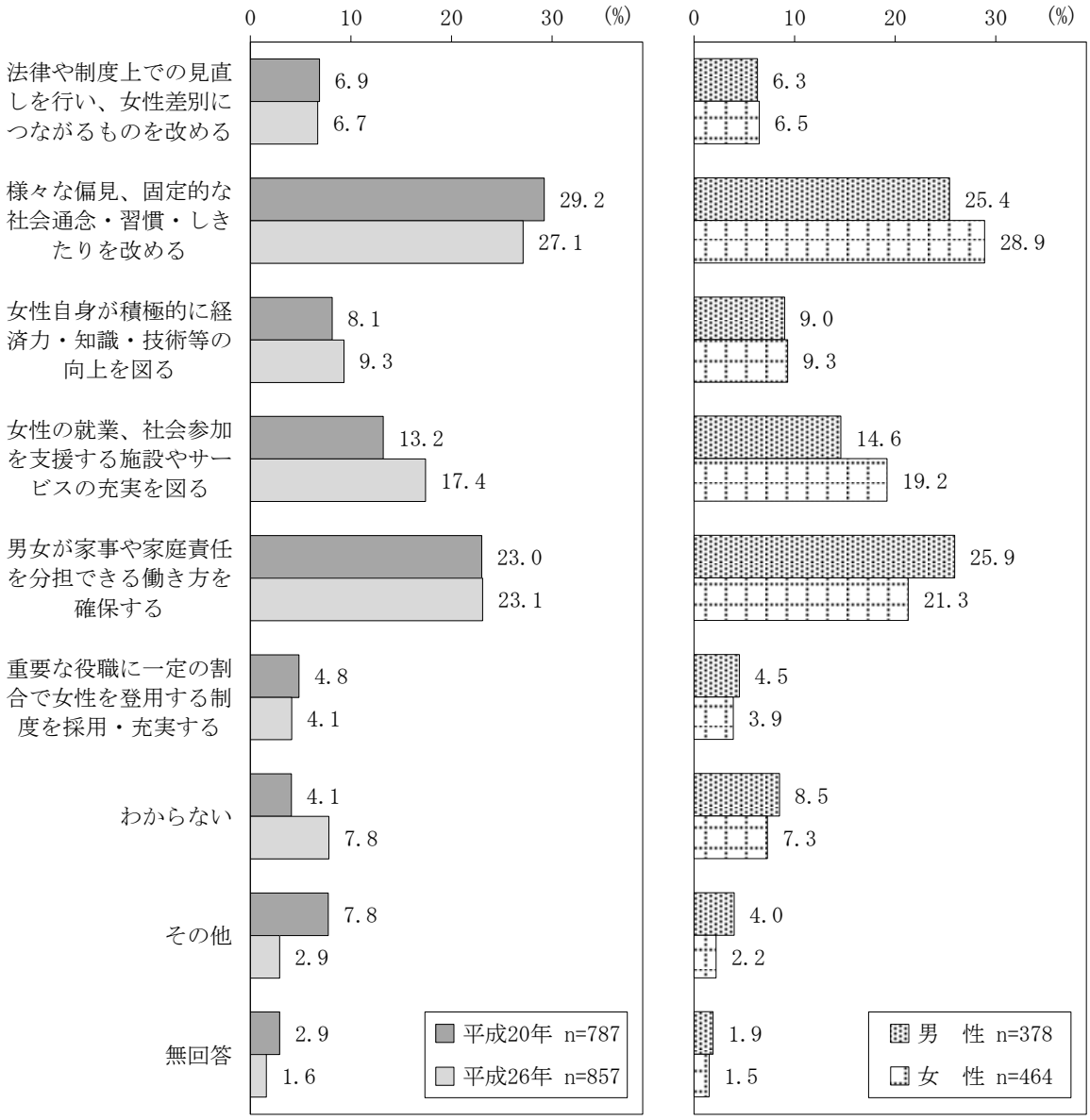
図表２－19　性別役割分担に対する考え方（女性）

3　男女が社会のあらゆる分野で平等となるために重要なこと

男女が社会のあらゆる分野で平等となるために最も重要なことをたずねたところ、「様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改める」が27.1％と最も高く、次いで「男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保する」が23.1％、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が17.4％などの順となっています。

性別にみると、上位３項目はいずれも高くなっていますが、第１位の項目は、男性は「男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保する」、女性は「様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改める」となっています。

図表２－20　男女が社会のあらゆる分野で平等となるために重要なこと



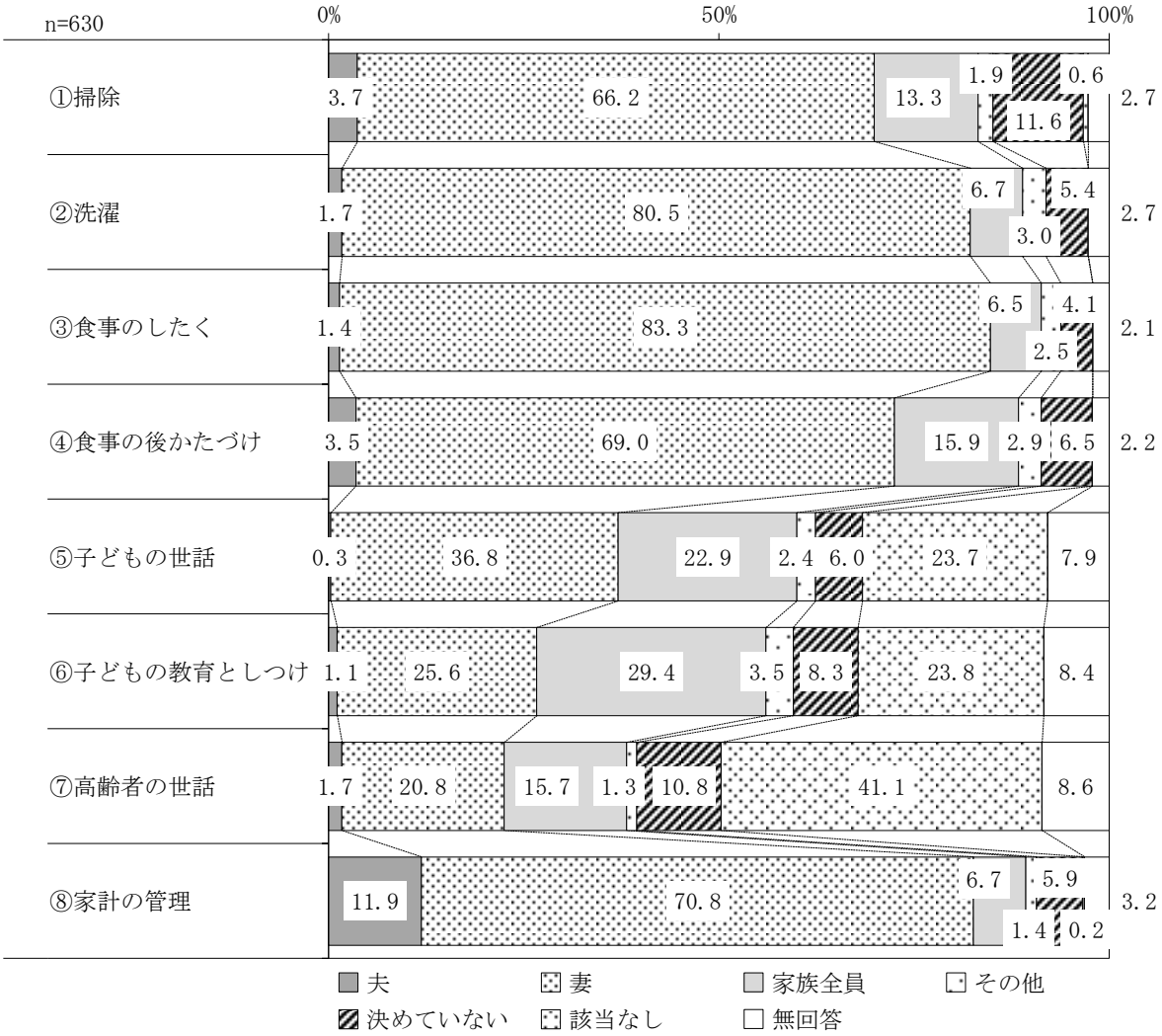
Ⅲ　家庭生活について

1　家庭での役割分担（既婚者のみ）

図表３－１は、家庭内における①～⑧の仕事を主に誰が担当しているかをたずねた結果です。

「該当なし」を除くと、８項目中⑥子どもの教育としつけ以外の７項目において「妻」が最も高くなっています。⑥子どもの教育としつけは、「家族全員」が最も高く、次いで「妻」の順となっており、家庭の仕事の大半を「妻」が担っていることがわかります。

図表３－１　家庭での役割分担（全体）



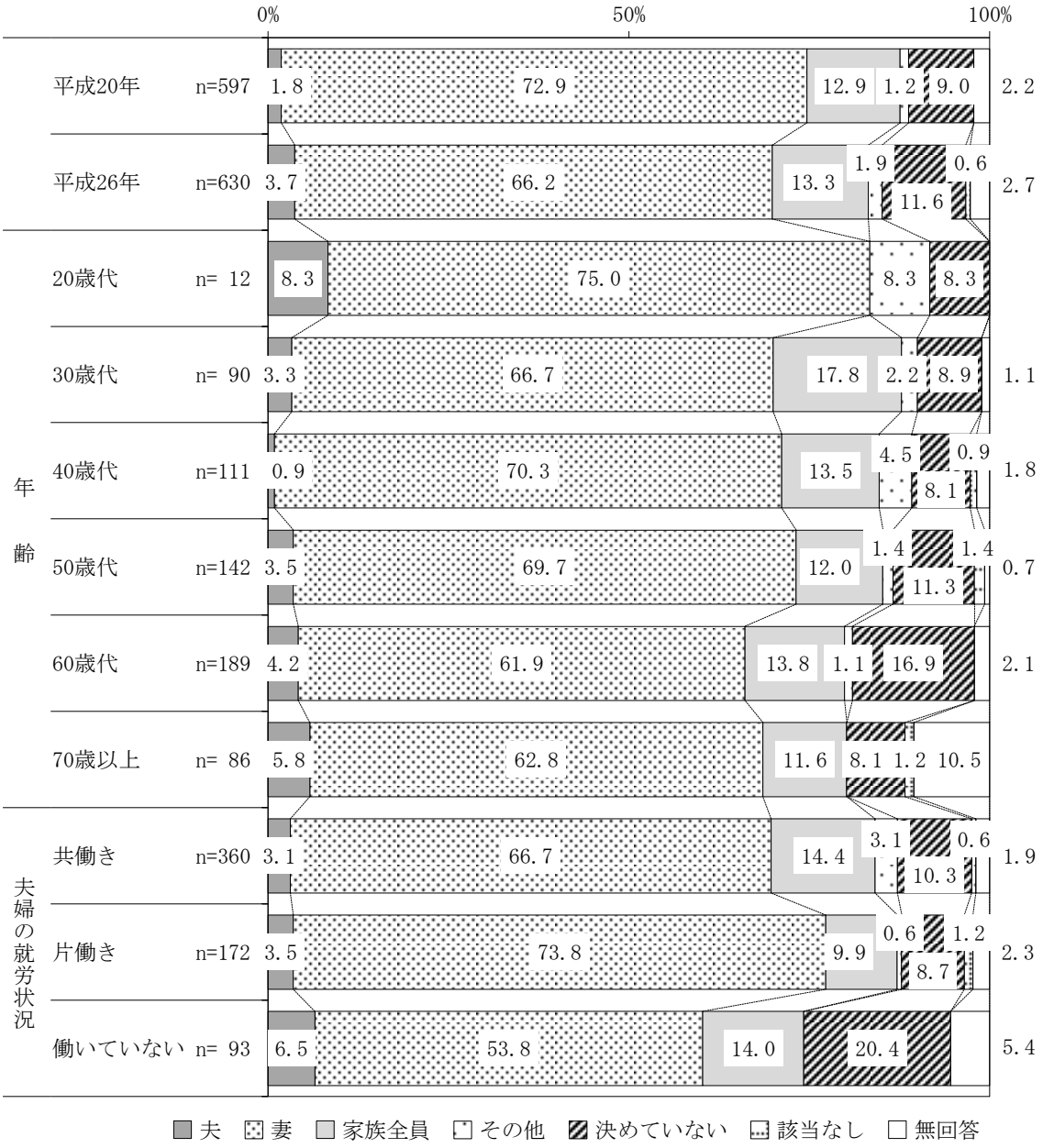
(1)　掃除の担当

家庭内における掃除の担当は、「妻」が66.2％と最も高く、次いで「家族全員」が13.3％、「決めていない」が11.6％などの順となっています。前回調査結果と比較して、「妻」は6.7ポイント低下しています。

年齢別にみると、すべての年代で「妻」が60％以上を占めています。

夫婦の就労状況別にみると、片働きに比べて共働きは、「妻」が低く、「家族全員」が高いものの、いずれも「妻」が70％前後を占めているのは同じです。

図表３－２　掃除の担当



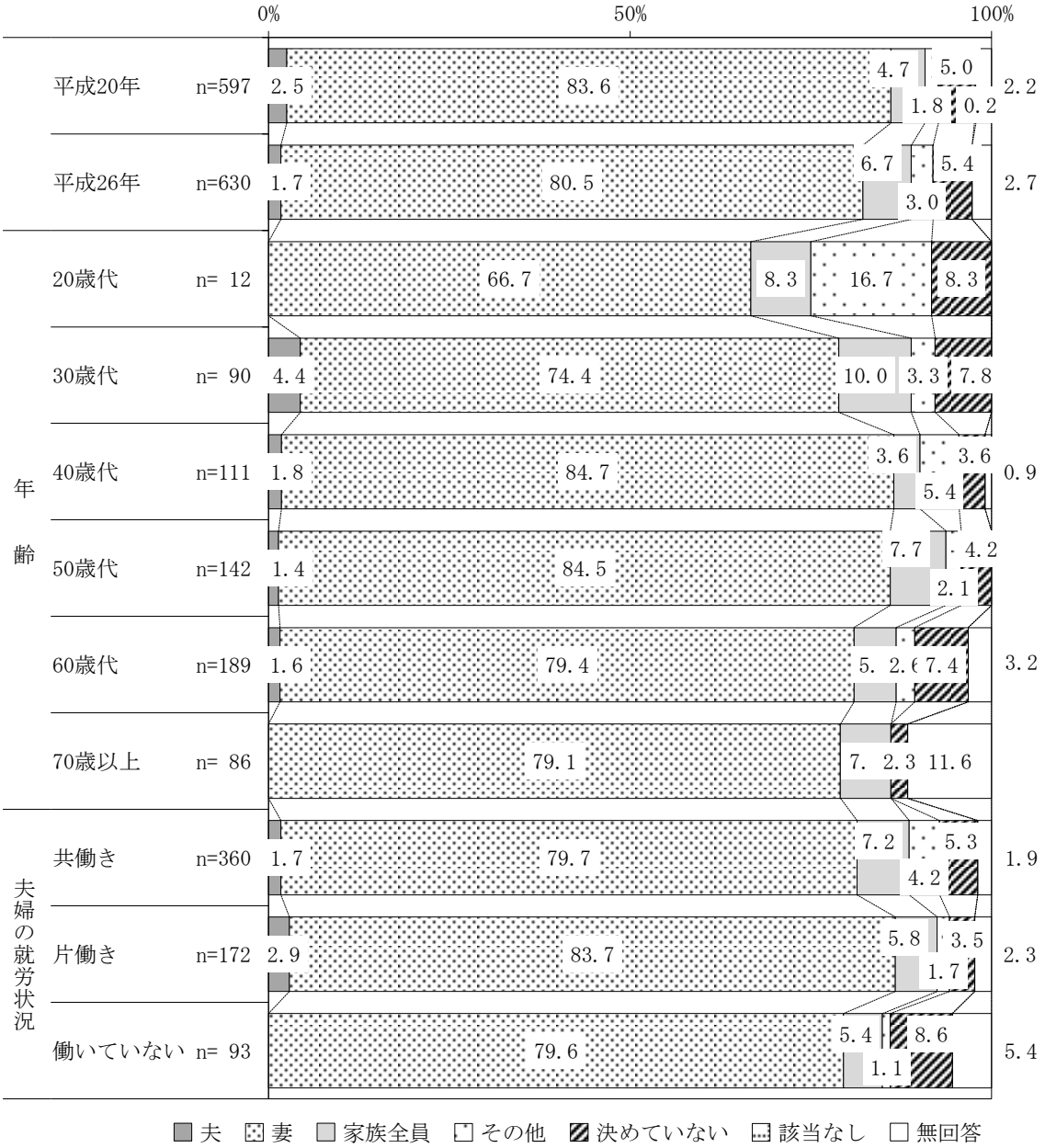
(2)　洗濯の担当

家庭内における洗濯の担当は、「妻」が80.5%と最も高く、次いで「家族全員」が6.7%、「決めていない」が5.4%などの順となっています。前回調査結果と比較して、「妻」は3.1ポイント低下しています。

年齢別にみると、基数の少ない20歳代を除いて、すべての年代で「妻」が70%以上を占めています。

夫婦の就労状況別にみると、片働きに比べて共働きは、「妻」が低く、「家族全員」が高くなっていますが、いずれも「妻」が80%前後を占めているのは同じです。

図表３－３　洗濯の担当



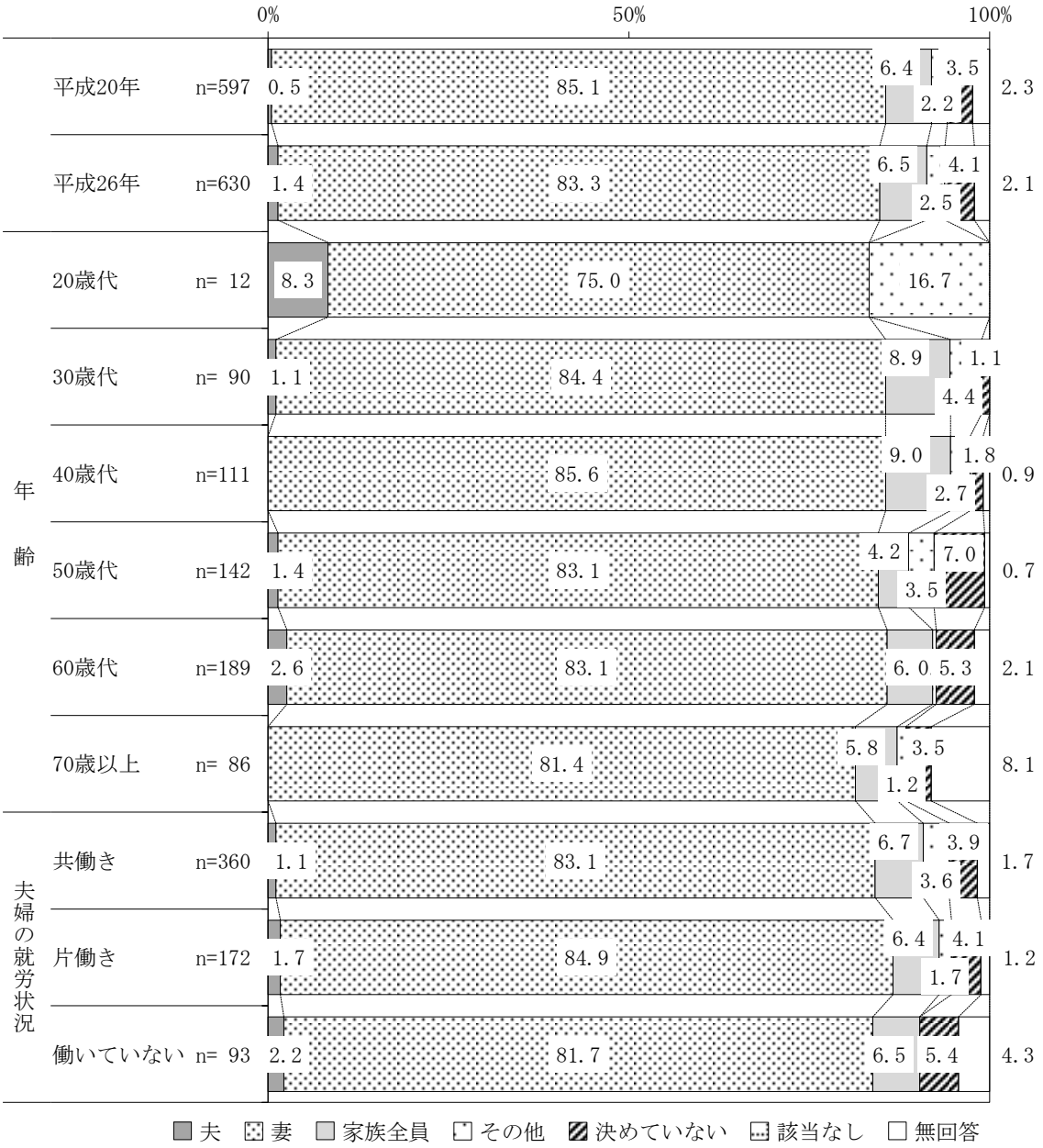
(3)　食事のしたくの担当

家庭内における食事のしたくの担当は、「妻」が83.3%と最も高く、次いで「家族全員」が6.5%、「決めていない」が4.1%などの順となっています。前回調査結果と比較して、ほとんど変化はみられません。

年齢別にみると、基数の少ない20歳代を除いて、すべての年代で「妻」が80%以上を占めています。20歳代および30歳代は、「家族全員」が比較的高くなっています。

夫婦の就労状況別にみると、共働きと片働きに他の項目ほどの差がみられないことから、妻にとって夫や家族の協力を最も得にくい仕事であると考えられます。

図表３－４　食事のしたくの担当



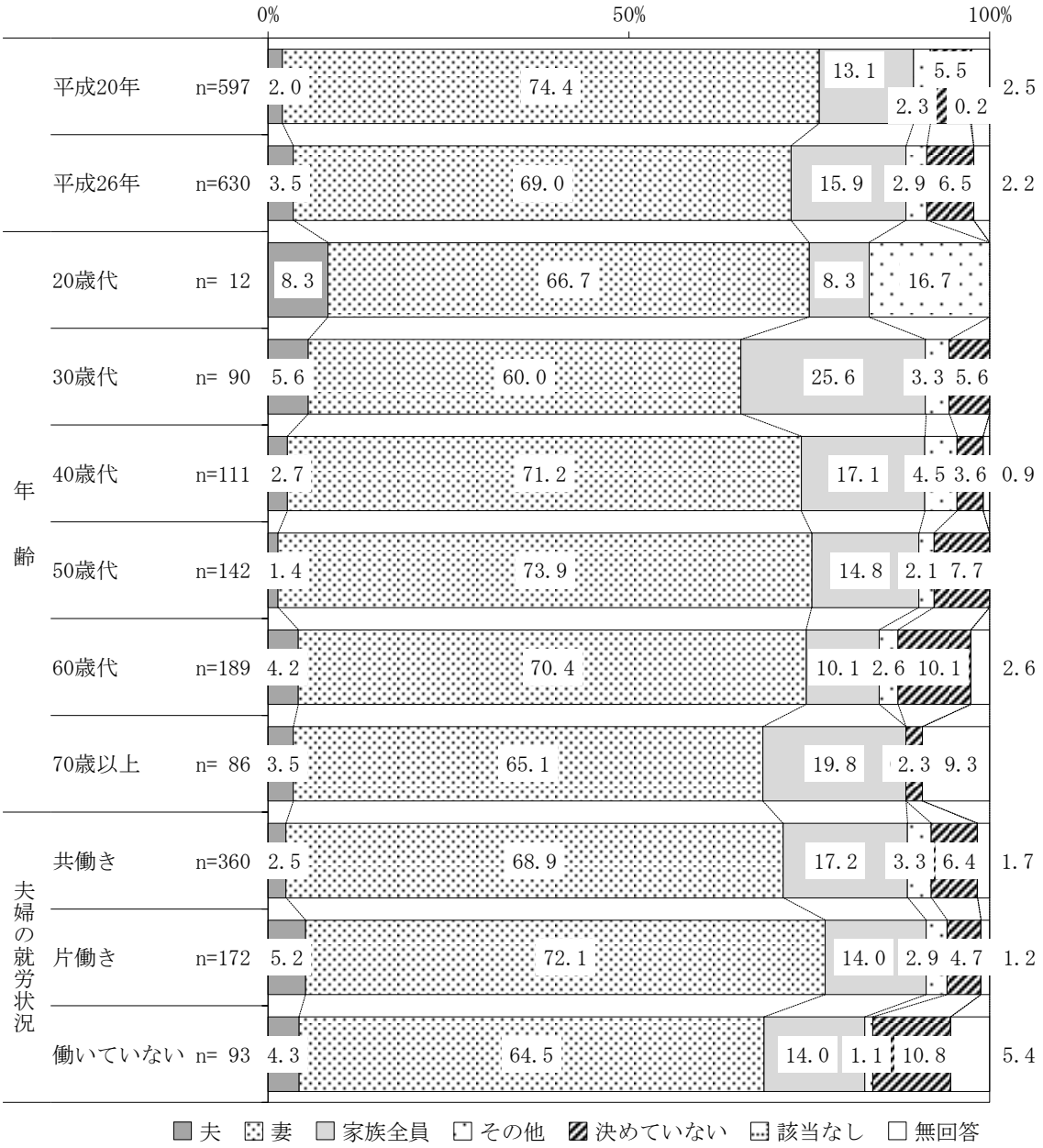
(4)　食事の後片付けの担当

家庭内における食事の後片付けの担当は、「妻」が69.0%と最も高く、次いで「家族全員」が15.9%、「決めていない」が6.5%などの順となっています。前回調査結果と比較して、「妻」は5.4ポイント低下しています。

年齢別にみると、すべての年代で「妻」が60%以上を占めています。20歳代および70歳以上は、「家族全員」が比較的高くなっています。

夫婦の就労状況別にみると、片働きに比べて共働きは、「妻」が低く、「家族全員」が高くなっています。

図表３－５　食事の後片付けの担当



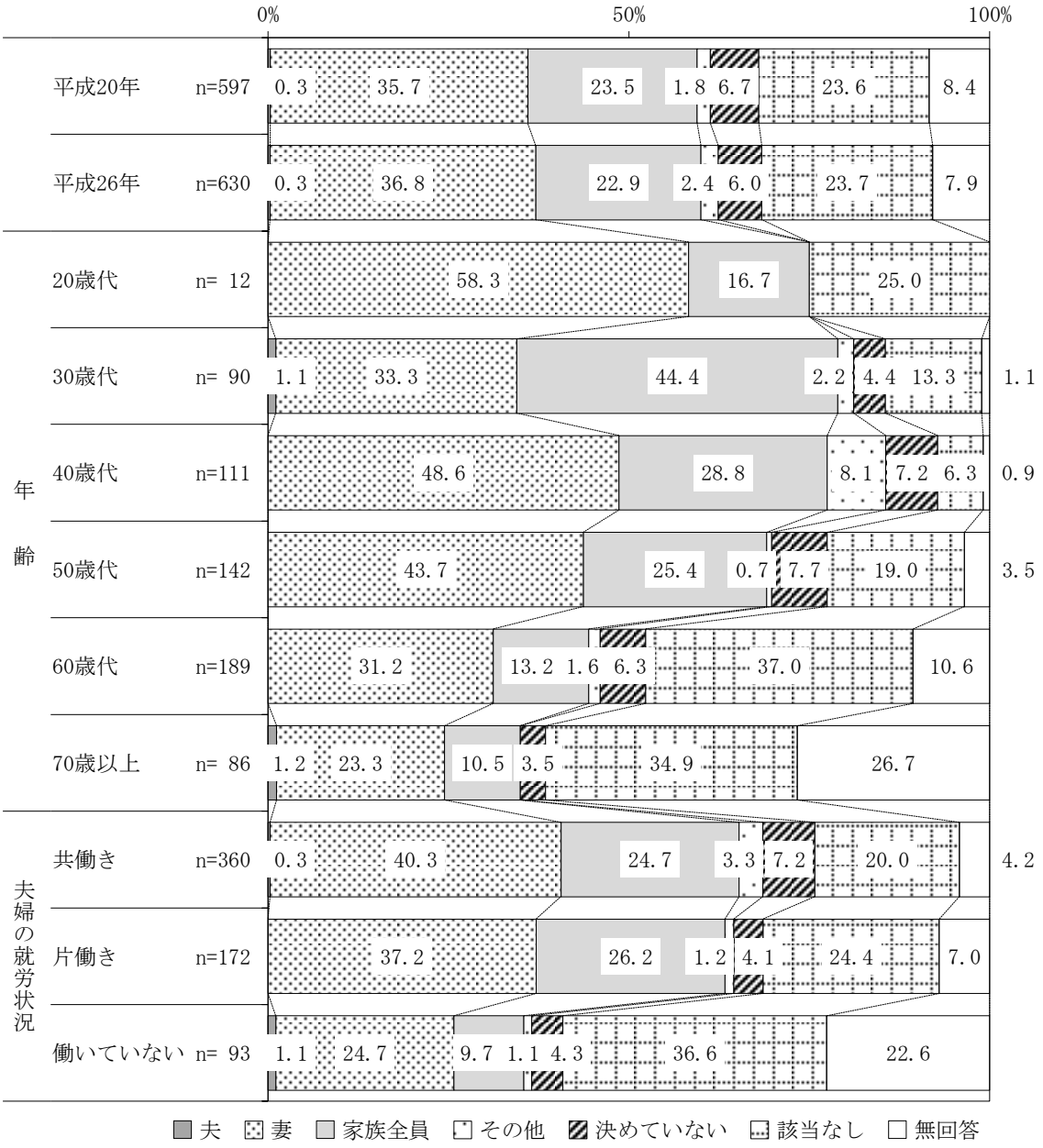
(5)　子どもの世話の担当

家庭内における子どもの世話の担当は、「妻」が36.8%と最も高く、次いで「家族全員」が22.9%などの順となっており、８項目中２番目に「家族全員」が高い項目です。前回調査結果と比較して、目立った変化はみられません。

年齢別にみると、「家族全員」が最も高いのは30歳代です。

夫婦の就労状況別にみると、「妻」が高いのは共働き、「家族全員」が高いのは共働きとなっています。

図表３－６　子どもの世話の担当



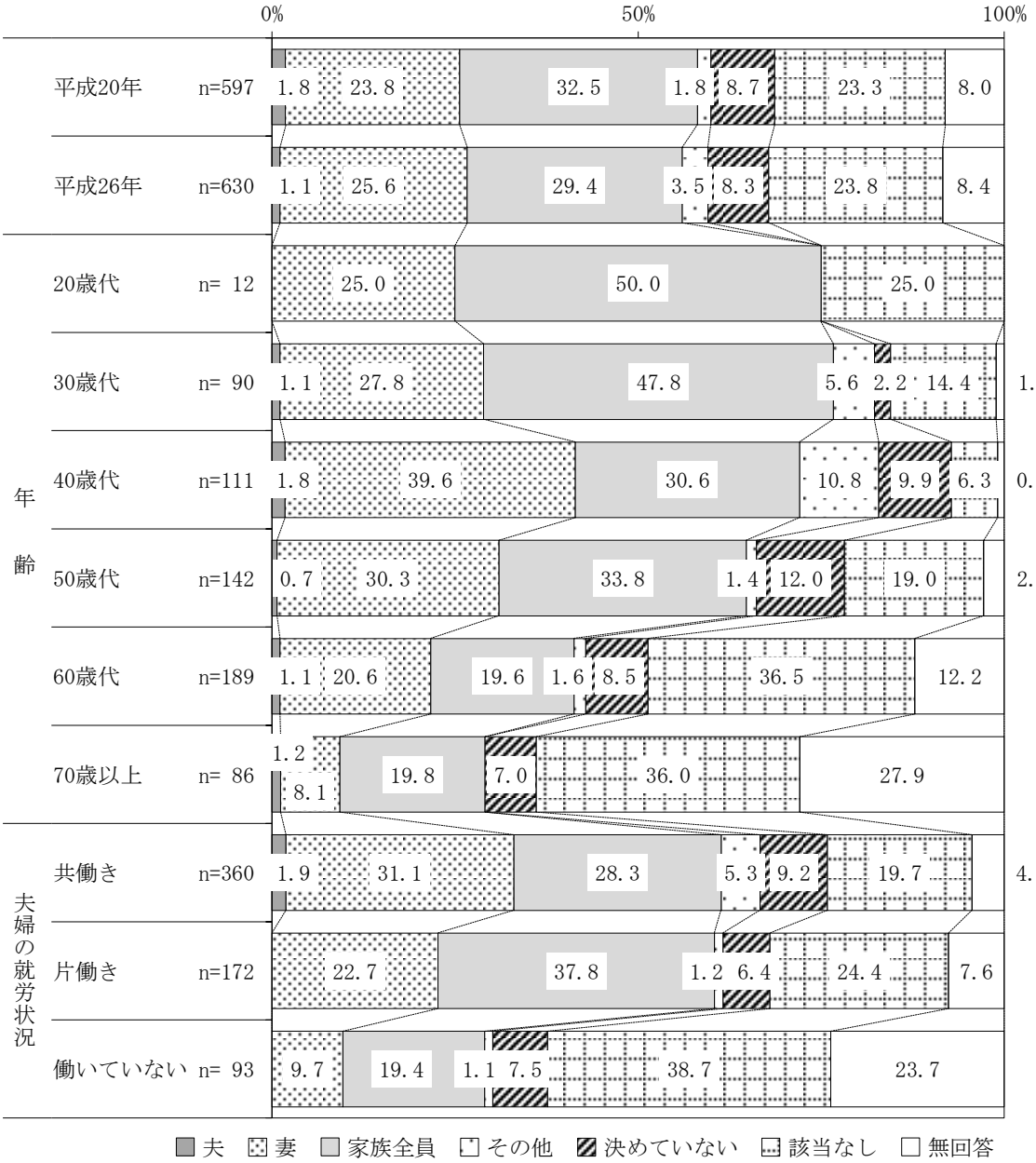
(6)　子どもの教育としつけの担当

家庭での役割分担の設問中、「家族全員」の率が最も高いのが子どもと教育としつけの担当です。全体では、「家族全員」が29.4%と最も高く、次いで「妻」が25.6%などの順となっています。前回調査結果と比較して、目立った変化はみられません。

年齢別にみると、「家族全員」は、若年齢層では半数程度を占めていますが、加齢に伴い低下する傾向にあります。

夫婦の就労状況別にみると、片働きに比べて共働きは、「家族全員」が低く、「妻」が高くなっています。

図表３－７　子どもの教育としつけの担当



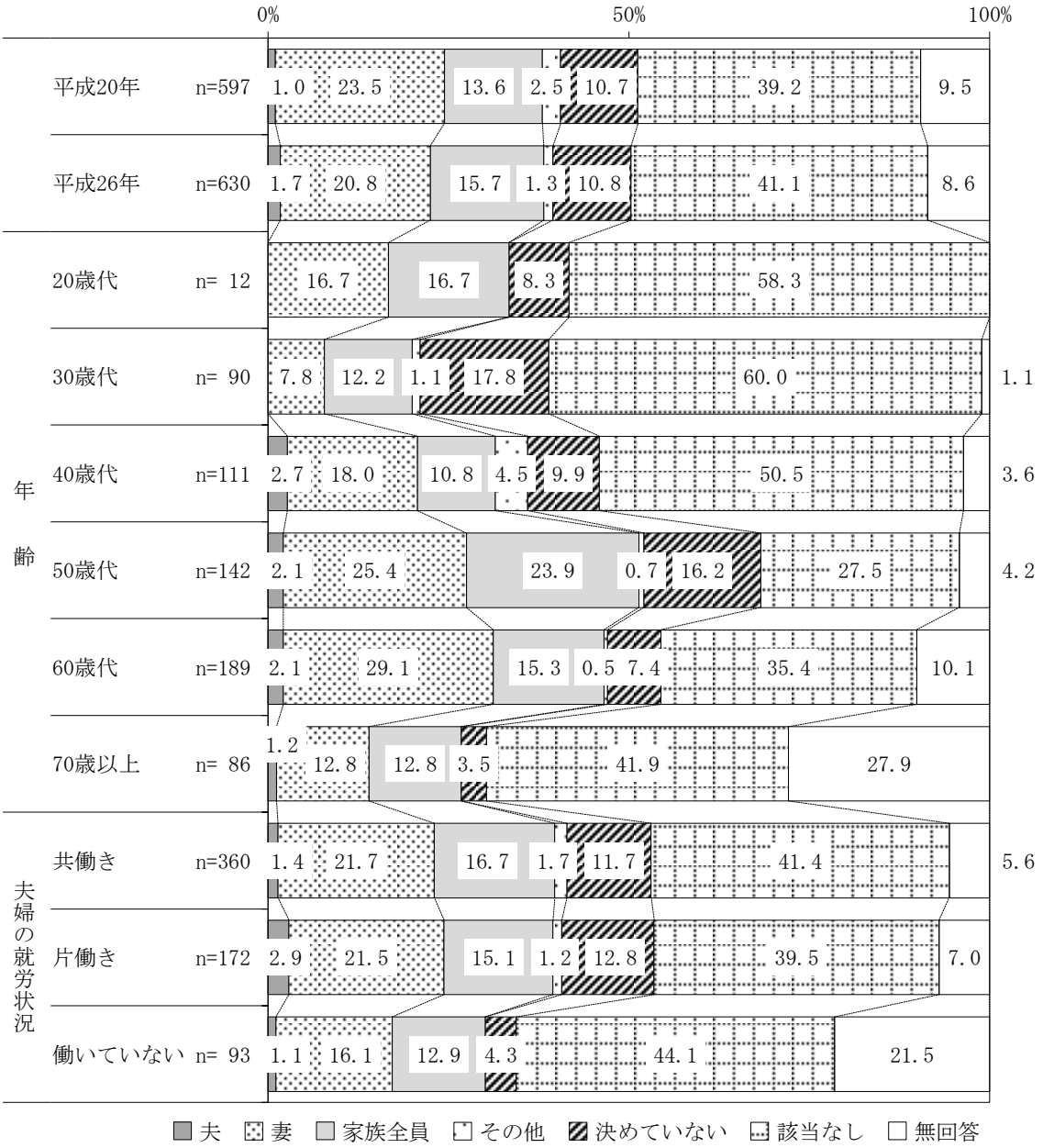
(7)　高齢者の世話の担当

高齢者の世話の担当は、「妻」が20.8％と最も高く、次いで「家族全員」が15.7％、「決めていない」が10.8％などの順となっており、「該当なし」および無回答の合計が約半数を占めています。前回調査結果と比較すると、「妻」がやや低下し、「家族全員」がやや上昇しています。

年齢別にみると、「該当なし」および無回答の合計が最も低い50歳代では、「妻」(25.4％)、「家族全員」(23.9％)、「決めていない」(16.2％) の順となっています。

夫婦の就労状況別にみて、共働きと片働きに有意の差はみられません。

図表３－８　高齢者の世話の担当



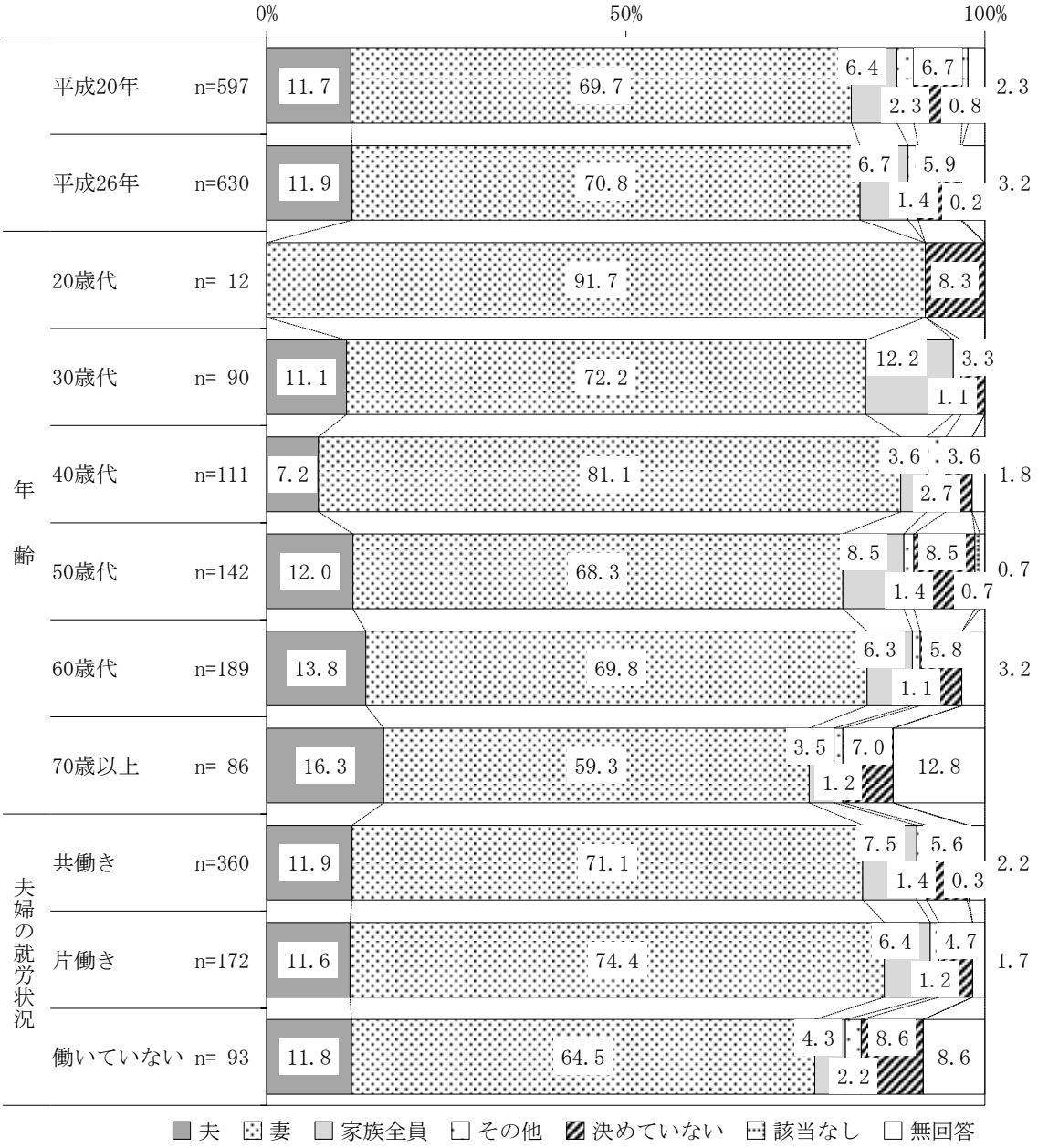
(8)　家計の管理の担当

家庭での役割分担の設問中、「夫」の率が最も高いのが家計の管理の担当です。全体では、「妻」が70.8%と最も高く、次いで「夫」が11.9%などの順となっています。前回調査結果と比較して、目立った変化はみられません。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて、「妻」が低下し、「夫」が上昇する傾向にあります。

夫婦の就労状況別にみると、共働きに比べて片働きは「妻」が若干高くなっています。

図表３－９　家計の管理の担当



2　男女がともに家庭生活や地域活動に参加するために必要なこと

男女がともに、家事、子育て、介護などの家庭生活や地域活動に積極的に参加していくために必要なこととしては、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が45.9%と最も高く、次いで「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや子育てをする」が45.2%、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が37.9%などの順となっています。

性別にみると、男性は「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が、女性は「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をする」がそれぞれ最も高くなっています。つまり、男性は「仕事の忙しさ」が、女性は「家事の技術や意識の低さ」が課題と捉えていることになります。

図表３－10　男女がともに家庭生活や地域活動に参加するために必要なこと（複数回答）

区分			n	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	職場中心という社会全体のしくみを改めること	仕事と家庭の両立について、相談しやすい窓口があること	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	夫婦や家族間で家事などの分担について十分話し合うこと	性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をする	職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること	男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	特にない	その他	無回答
平成20年			787	37.0	22.5	11.9	37.6	32.9	47.9	24.3	34.8		2.4	2.9
平成26年			857	37.9	24.0	12.7	45.9	32.2	45.2	22.5	35.1	4.3	2.3	1.2
性・年齢別	男性		378	39.4	27.2	12.7	44.4	27.5	35.7	22.5	26.2	6.1	2.9	1.9
		20歳代	33	30.3	27.3	18.2	48.5	24.2	30.3	21.2	30.3	9.1	－	3.0
		30歳代	43	25.6	34.9	11.6	48.8	16.3	25.6	25.6	23.3	4.7	－	2.3
		40歳代	66	43.9	33.3	10.6	53.0	30.3	39.4	24.2	25.8	3.0	6.1	1.5
		50歳代	79	27.8	26.6	10.1	36.7	22.8	27.8	21.5	26.6	10.1	6.3	1.3
		60歳代	105	52.4	22.9	14.3	47.6	32.4	39.0	21.9	22.9	2.9	1.9	1.9
		70歳以上	52	42.3	23.1	13.5	32.7	32.7	48.1	21.2	32.7	9.6	－	1.9
	女性		464	37.1	21.6	12.7	47.2	36.2	53.2	22.8	42.0	2.6	1.9	0.6
		20歳代	53	24.5	20.8	17.0	64.2	37.7	35.8	22.6	30.2	3.8	－	1.9
		30歳代	74	33.8	40.5	17.6	56.8	41.9	50.0	25.7	41.9	2.7	5.4	－
		40歳代	84	44.0	22.6	9.5	50.0	36.9	61.9	27.4	41.7	2.4	2.4	1.2
		50歳代	91	38.5	16.5	11.0	44.0	34.1	45.1	25.3	44.0	1.1	1.1	1.1
		60歳代	105	38.1	20.0	11.4	43.8	38.1	61.0	21.0	45.7	1.9	1.9	－
		70歳以上	57	38.6	7.0	12.3	26.3	26.3	59.6	12.3	43.9	5.3	－	－

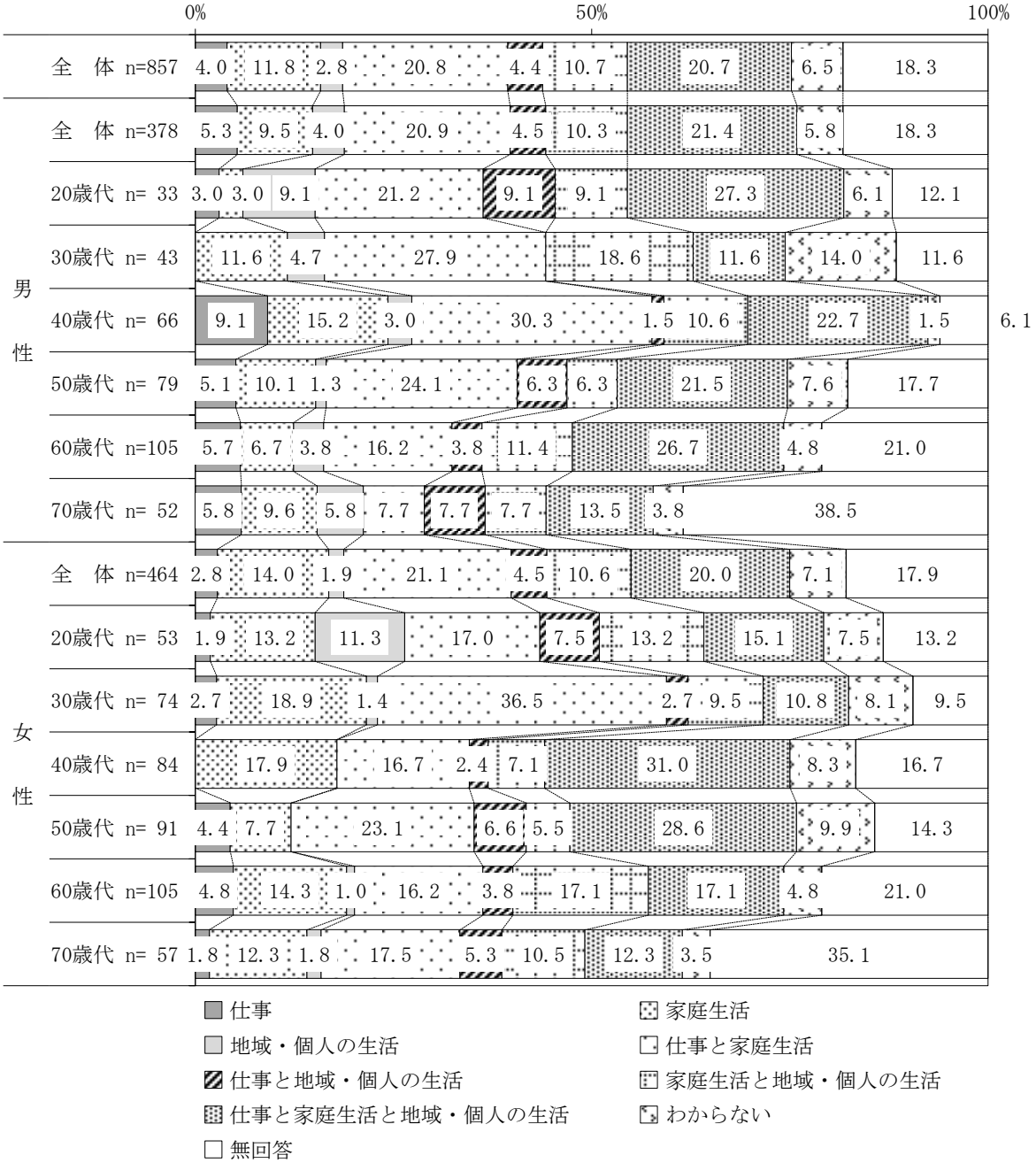
※平成20年は「特にない」の選択肢なし。

3　生活の中での優先順位

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望としては、「仕事と家庭生活」および「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」がともに20％台と高く、次いで「家庭生活」が11.8％、「家庭生活と地域・個人の生活」が10.7％などの順となっています。

性別にみると、男女の希望に大きな差はなく、「家庭生活」を含む項目が高い傾向にあります。

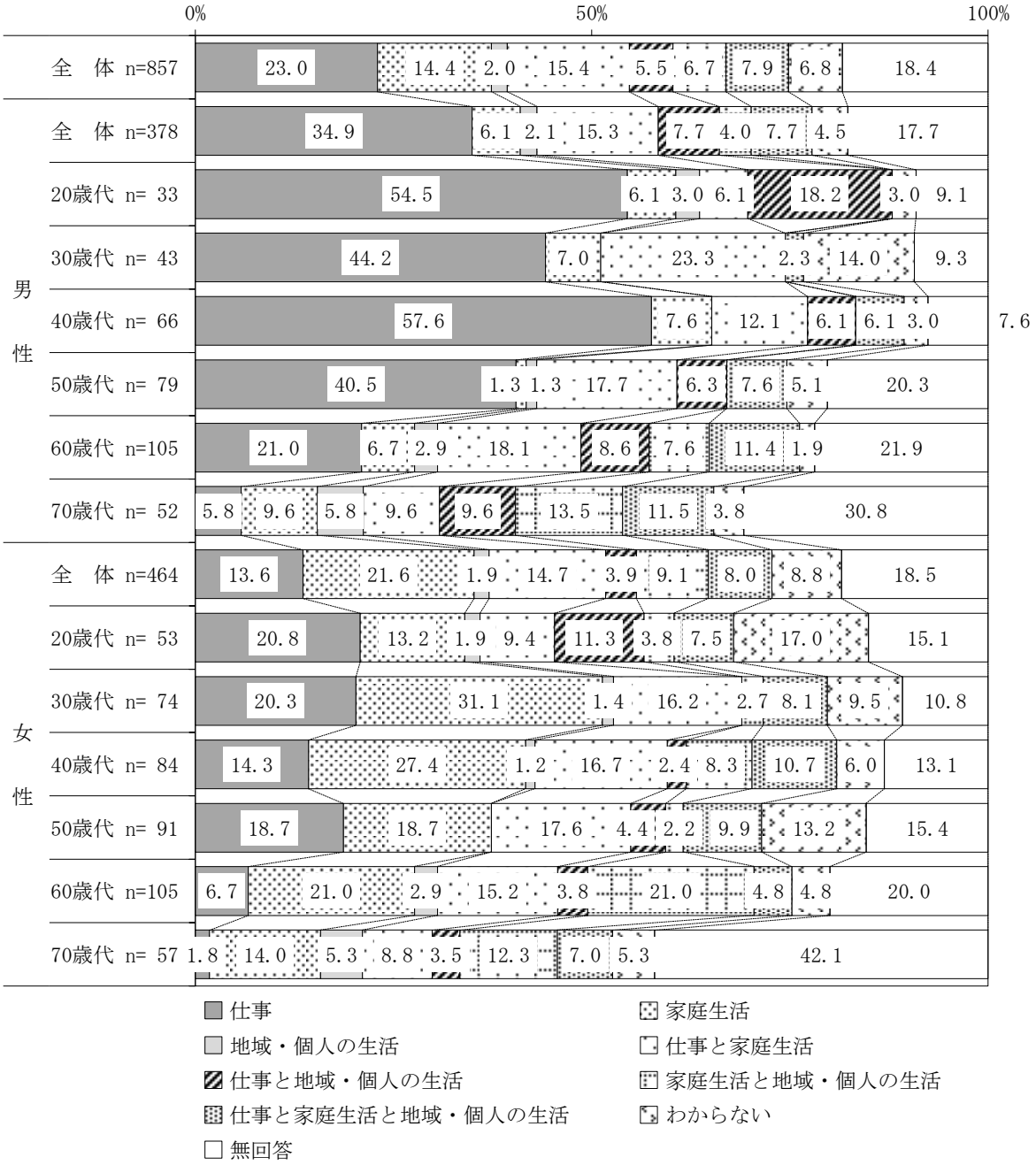
図表３－11　生活の中での優先順位（希望）



生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、現実は、「仕事」が23.0％と最も高く、次いで「仕事と家庭生活」が15.4％、「家庭生活」が14.4％などの順となっています。

性・年齢別にみると、男性は「仕事」が最も高く、特に20歳代および40歳代では50％以上を占めています。女性は「家庭生活」、「仕事と家庭生活」、「仕事」の順に高くなっています。

図表３－12　生活の中での優先順位（現実）

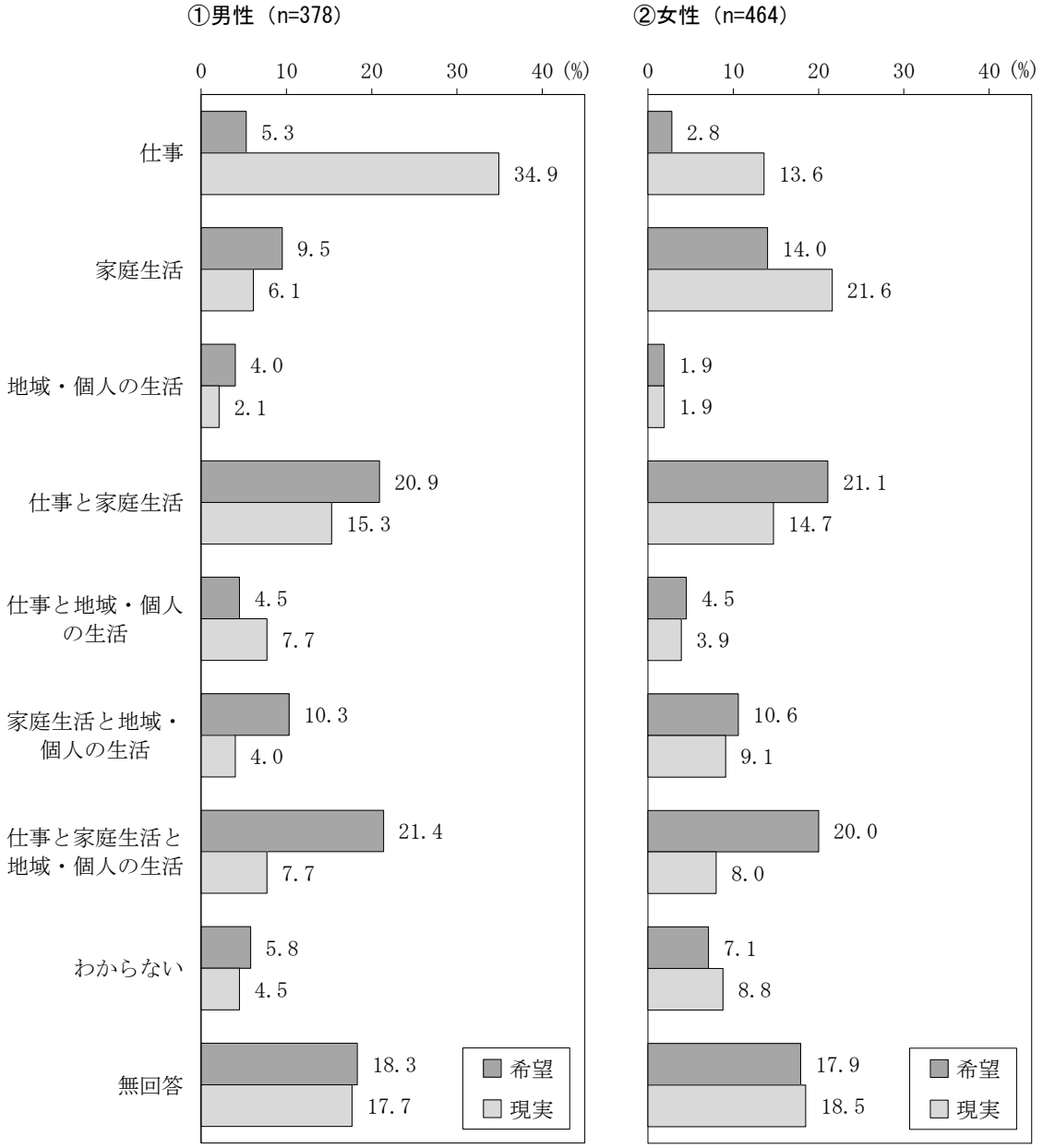


図表３－13は、生活の中での優先順位の希望と現実を比較したものです。

男性は、「仕事」の希望が現実を大幅に下回っており、もっと「家庭生活」や「地域・個人の生活」と両立させたいと考える人が多いことがわかります。

女性をみると、「仕事と家庭生活」および「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」の２項目が高いのは男性と同様ですが、「家庭生活」の希望が現実を下回っているのは、「仕事」や「地域・個人の生活」を通じてより社会に進出したい気持ちの表れと読み取ることができます。

図表３－13　生活の中での優先順位（希望と現実の比較）

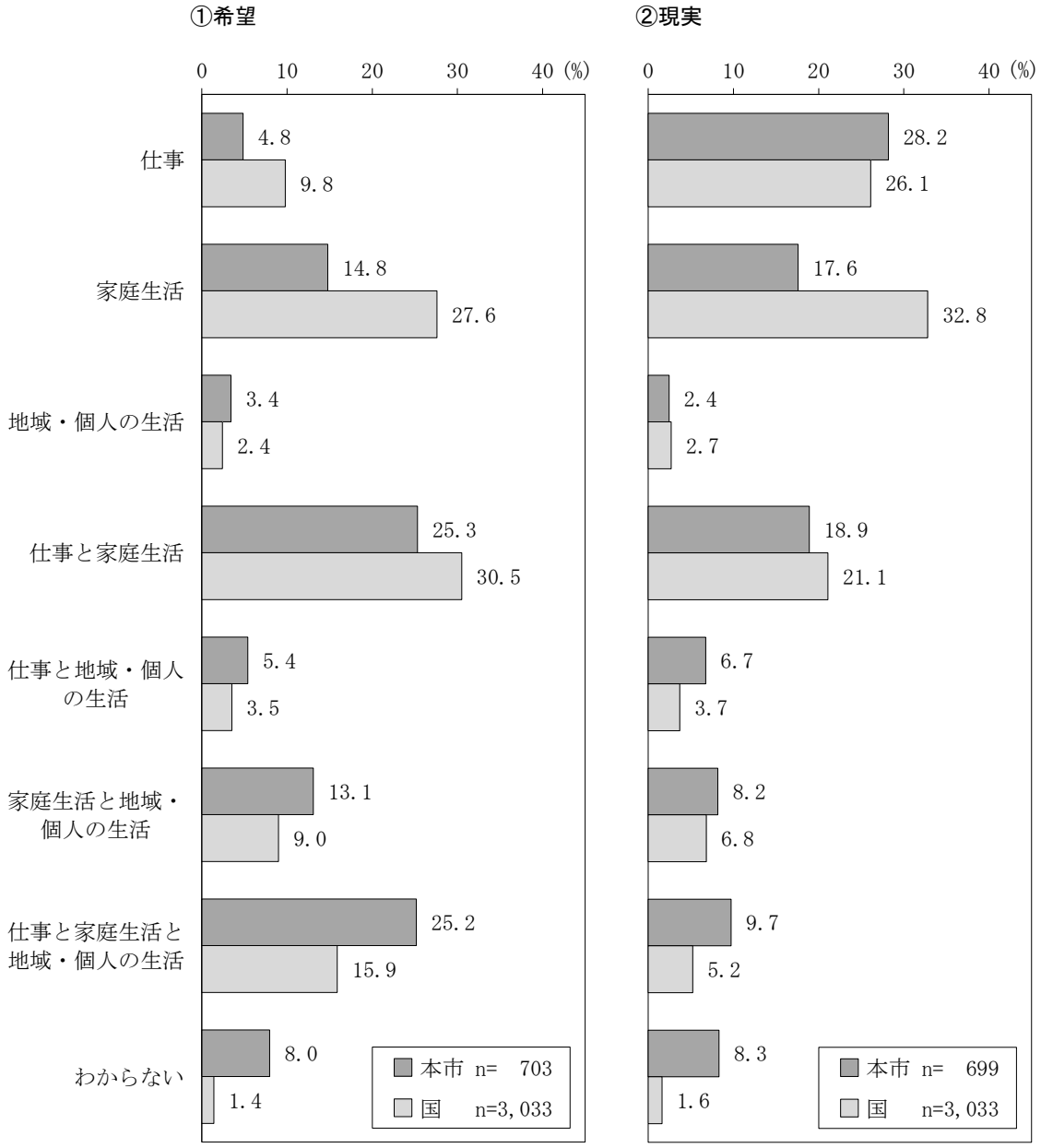


図表３－14は、本調査結果と平成24年10月に内閣府が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」結果を比較したものです。

①希望をみると、国に比べて本市は、「家庭生活と地域・個人の生活」および「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」が高くなっています。

②現実をみると、本市の「家庭生活」は国を10ポイント以上下回っています。

図表３－14　生活の中での優先順位（希望と現実の比較）（国との比較）



（注）本市の値は、無回答を除いて再集計しています。

資料：国は、平成24年10月「男女共同参画に関する世論調査」（内閣府）

Ⅳ　地域活動について

1　地域活動の状況

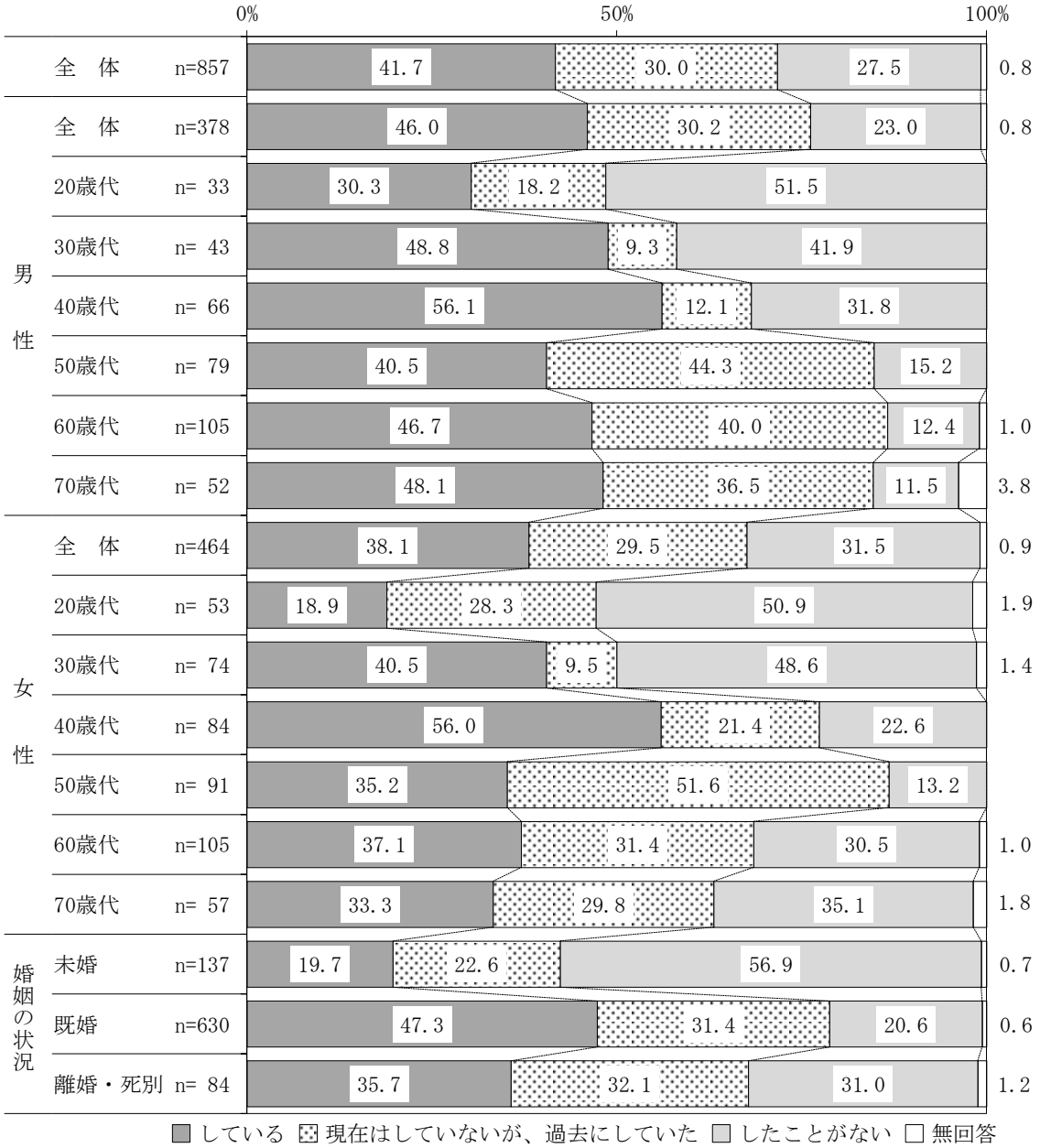
(1)　地域活動の参加状況

現在、地域活動を「している」は41.7%、「現在はしていないが、過去にしていた」は30.0%、「したことがない」は27.5%です。

性・年齢別にみると、男女ともに30歳代および40歳代が高くなっています。

婚姻の状況別にみると、「している」は既婚（47.3%）が高くなっています。

図表４－１　地域活動の参加状況

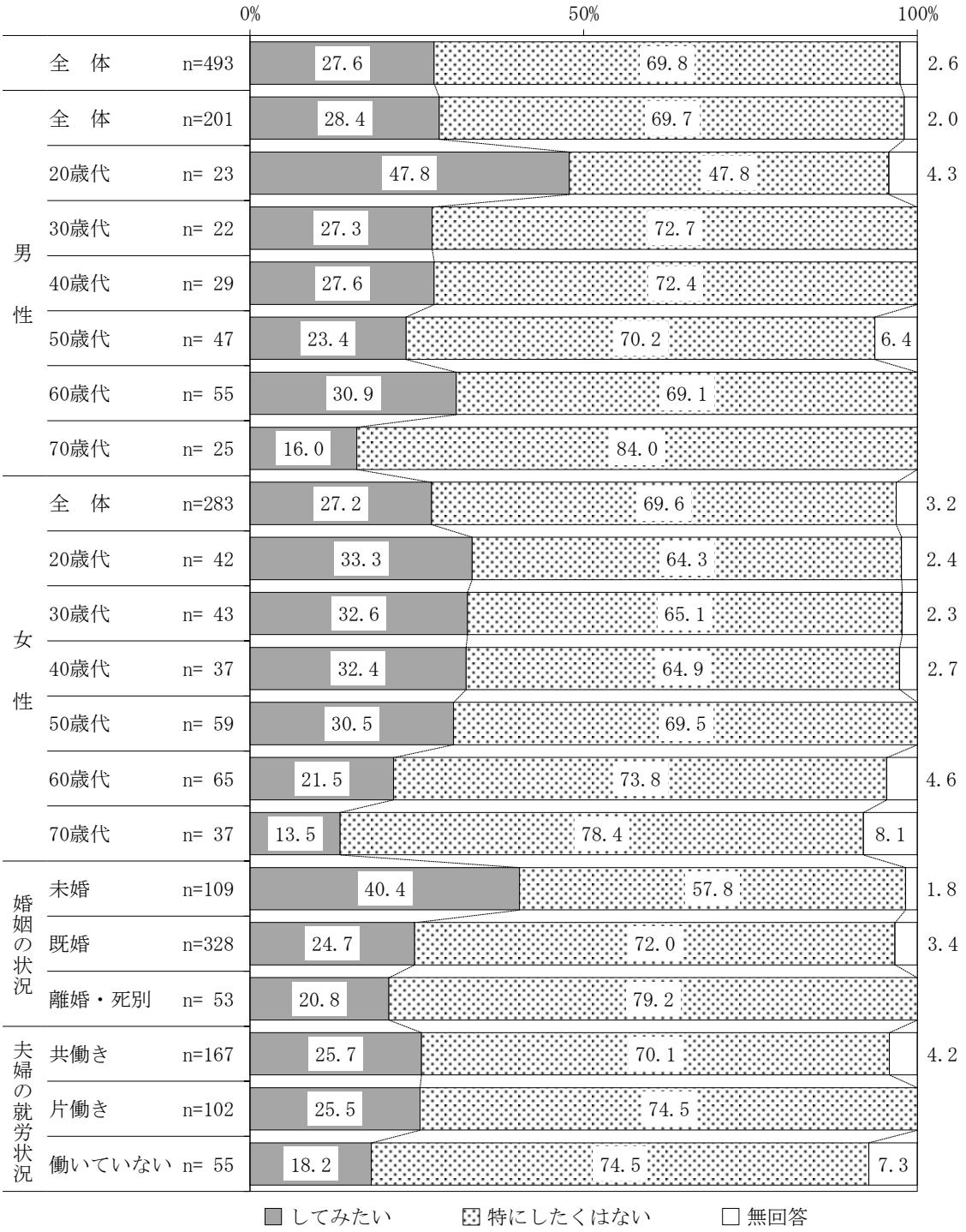


(2)　地域活動をしてみたいか

(1)で「現在はしていないが、過去にしていた」または「したことがない」と答えた493人に、今後、地域活動をしてみたいかをたずねたところ、「特にしたくはない」が69.8%を占めており、「してみたい」は27.6%です。

「してみたい」が高いのは、性・年齢別では男性の20歳代、婚姻の状況別では未婚です。

図表４－２　地域活動をしてみたいか



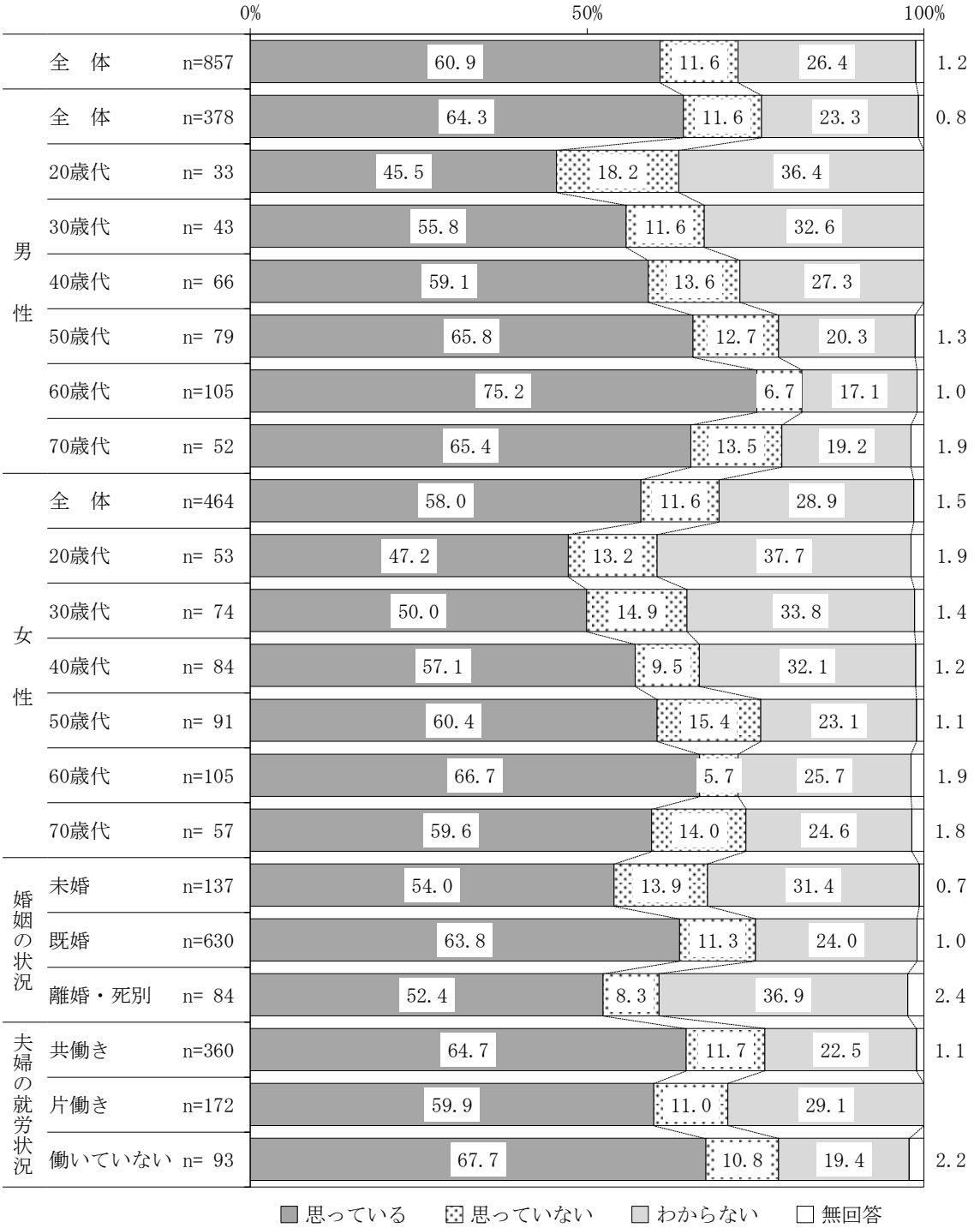
(3)　地域のために役に立ちたいと思っているか

地域のために役に立ちたいと「思っている」のは60.9%です。

性・年齢別にみると、男女ともに「思っている」は20歳代で40%台ですが、加齢に伴い上昇し、60歳代では70%前後となっています。

「思っている」が高いのは、婚姻の状況別では既婚、夫婦の就労状況別では働いていないです。

図表４－３　地域のために役に立ちたいと思っているか



2　地域活動の支障

地域活動をする際の支障としては、「仕事が忙しく時間がない」が40.7%と最も高く、次いで「経済的な余裕がない」が27.5%、「自分の健康や体力、気力に自信がない」が26.6%などの順となっています。前回調査結果と比較して、上位３項目はいずれも上昇しています。

図表４－４　地域活動の支障（複数回答）

区分			n	仕事が忙しく時間がない	家事（炊事、掃除、洗濯など）が忙しく時間がない	小さい子どもや、高齢者・病人がいる	経済的な余裕がない	自分の健康や体力、気力に自信がない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	特に支障はない	参加したいと思わない	わからない	その他	無回答
平成２０年			787	36.2	15.8	18.2	24.0	22.0	13.9	20.1	11.1	2.5	4.6	0.0
平成２６年			857	40.7	14.8	18.6	27.5	26.6	13.2	11.4	9.0	2.8	4.2	1.3
性・年齢別	男性		378	50.3	6.3	11.1	27.5	20.9	14.0	12.4	8.2	1.9	2.6	0.8
		２０歳代	33	63.6	18.2	6.1	36.4	12.1	18.2	12.1	15.2	－	－	－
		３０歳代	43	58.1	11.6	23.3	37.2	9.3	25.6	2.3	9.3	2.3	2.3	－
		４０歳代	66	68.2	6.1	13.6	34.8	9.1	13.6	12.1	10.6	－	6.1	－
		５０歳代	79	67.1	6.3	13.9	27.8	17.7	13.9	5.1	7.6	3.8	2.5	－
		６０歳代	105	37.1	2.9	7.6	21.9	24.8	11.4	17.1	6.7	1.9	2.9	1.0
		７０歳以上	52	13.5	1.9	3.8	15.4	48.1	7.7	23.1	3.8	1.9	－	3.8
	女性		464	33.6	22.2	25.0	27.6	31.5	12.9	9.7	9.7	3.4	5.6	1.5
		２０歳代	53	54.7	13.2	20.8	41.5	18.9	30.2	1.9	13.2	5.7	7.5	－
		３０歳代	74	44.6	43.2	60.8	36.5	20.3	21.6	1.4	13.5	－	2.7	－
		４０歳代	84	41.7	29.8	15.5	31.0	23.8	10.7	9.5	8.3	7.1	6.0	1.2
		５０歳代	91	38.5	26.4	24.2	26.4	33.0	12.1	8.8	12.1	－	5.5	1.1
		６０歳代	105	21.9	10.5	22.9	21.0	41.9	5.7	11.4	4.8	4.8	7.6	1.9
		７０歳以上	57	1.8	7.0	1.8	12.3	47.4	3.5	26.3	8.8	3.5	3.5	5.3
婚姻	未婚		137	54.7	12.4	8.0	37.2	20.4	25.5	6.6	12.4	2.2	6.6	－
	既婚		630	38.7	16.0	21.7	24.0	26.8	10.8	13.0	7.9	2.7	3.7	1.4
	離婚・死別		84	35.7	9.5	10.7	38.1	36.9	11.9	8.3	10.7	4.8	4.8	1.2
就労状況	共働き		360	54.2	20.0	21.7	26.9	21.7	10.6	8.3	7.8	1.7	2.5	1.7
	片働き		172	27.3	13.4	28.5	23.3	31.4	12.8	14.5	9.3	5.2	5.8	－
	働いていない		93	1.1	5.4	9.7	14.0	36.6	6.5	29.0	6.5	2.2	4.3	3.2

3　企画や方針決定過程に女性の参画が少ない理由

自治会や町内会（班）の長、審議会委員や議員など企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由としては、「男性優位の組織運営になっている」が48.3％と最も高く、次いで「女性の側の積極性が十分でない」が33.3％、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が32.8％、「性的役割分担や古い習慣、しきたりが弊害となっている」が32.2％などの順となっています。

図表４－５　企画や方針決定過程に女性の参画が少ない理由（複数回答）

区分			n	男性優位の組織運営になっている	家族の支援・協力が得られない	女性の能力開発の機会が不十分	女性活動を支援する女性センターなどの施設やしくみが不足	性的役割分担や古い習慣、しきたりが弊害となっている	女性の側の積極性が十分でない	女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない	制度や税制などの社会のしくみが女性に不利にできている	わからない	その他	無回答
平成２０年			787	47.3	26.3	13.3	12.1	36.7	33.3	36.1	12.1	8.5	3.3	0.0
平成２６年			857	48.3	23.8	13.8	11.6	32.2	33.3	32.8	10.6	8.1	2.7	1.3
性・年齢別	男性		378	46.6	21.4	14.0	11.9	31.7	33.6	33.1	8.2	6.6	3.4	1.3
		２０歳代	33	33.3	24.2	15.2	6.1	48.5	30.3	27.3	6.1	9.1	6.1	－
		３０歳代	43	34.9	32.6	7.0	4.7	27.9	30.2	27.9	4.7	11.6	7.0	－
		４０歳代	66	50.0	30.3	18.2	18.2	33.3	24.2	30.3	16.7	4.5	6.1	－
		５０歳代	79	48.1	21.5	8.9	6.3	29.1	31.6	26.6	7.6	10.1	3.8	1.3
		６０歳代	105	51.4	13.3	17.1	9.5	33.3	41.0	44.8	6.7	1.9	1.0	1.9
		７０歳以上	52	48.1	15.4	15.4	26.9	23.1	38.5	30.8	5.8	7.7	－	3.8
	女性		464	50.9	25.9	14.0	11.4	33.2	33.0	31.7	12.5	9.1	2.2	1.1
		２０歳代	53	41.5	13.2	9.4	7.5	26.4	34.0	30.2	3.8	17.0	1.9	－
		３０歳代	74	39.2	31.1	13.5	18.9	44.6	32.4	28.4	12.2	13.5	4.1	1.4
		４０歳代	84	53.6	35.7	8.3	6.0	45.2	38.1	20.2	14.3	8.3	2.4	1.2
		５０歳代	91	58.2	31.9	18.7	8.8	26.4	30.8	36.3	11.0	5.5	1.1	－
		６０歳代	105	61.9	24.8	21.9	16.2	29.5	30.5	38.1	17.1	4.8	1.9	1.0
		７０歳以上	57	38.6	8.8	5.3	8.8	24.6	33.3	35.1	12.3	10.5	1.8	3.5
婚姻	未婚		137	43.8	19.0	13.9	13.1	37.2	29.2	32.1	8.8	14.6	4.4	0.7
	既婚		630	50.0	26.5	14.4	10.6	31.1	34.3	32.5	11.4	6.0	2.5	1.3
	離婚・死別		84	42.9	11.9	9.5	16.7	32.1	33.3	35.7	8.3	11.9	1.2	1.2
就労状況	共働き		360	51.4	32.5	13.3	7.5	33.3	35.8	30.3	9.2	5.3	3.1	1.1
	片働き		172	48.8	20.9	17.4	13.4	30.2	29.7	34.3	16.9	8.1	2.3	－
	働いていない		93	45.2	14.0	12.9	17.2	25.8	36.6	38.7	10.8	4.3	1.1	4.3

Ⅴ　就労・働き方について

1　女性が職業につくことについて

女性が職業につくことについての考え方をお聞きしたところ、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業につく方がよい」が43.1％と最も高く、次いで「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」が34.4％などの順となっています。前回調査結果と比較して、子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」が約10ポイント上昇しています。

図表５－１　女性が職業につくことについて

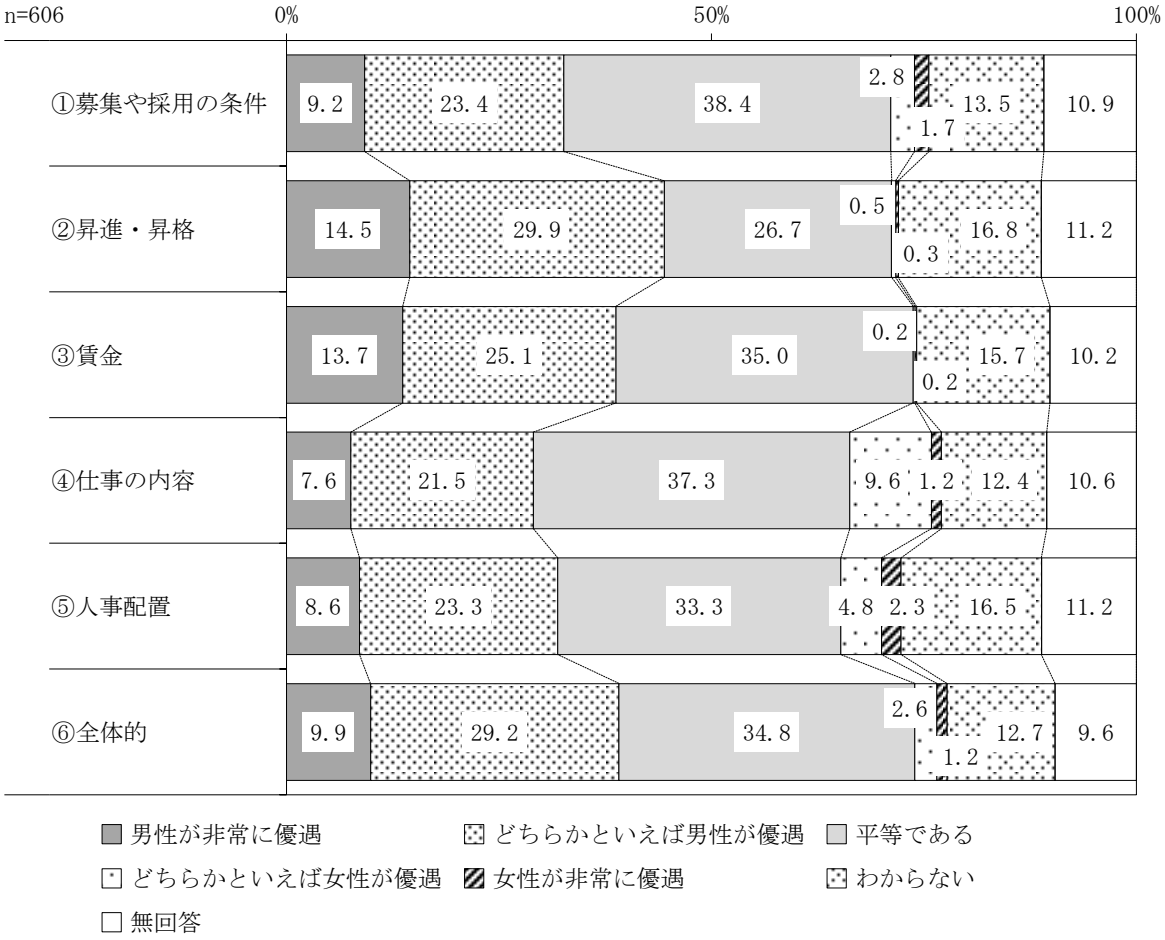
区分			n	女性は職業につかない方がよい	結婚するまでは職業につく方がよい	子どもができるまでは職業につく方がよい	子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業につく方がよい	わからない	その他	無回答
平成２０年			787	0.9	3.4	4.4	24.5	52.4	4.6	8.3	1.5
平成２６年			857	0.7	2.7	3.7	34.4	43.1	7.2	7.0	1.2
性・年齢別	男性		378	1.3	2.9	4.2	36.5	39.9	7.4	6.3	1.3
		２０歳代	33	－	12.1	12.1	33.3	21.2	6.1	15.2	－
		３０歳代	43	2.3	－	2.3	25.6	51.2	9.3	9.3	－
		４０歳代	66	1.5	4.5	3.0	37.9	40.9	4.5	7.6	－
		５０歳代	79	2.5	1.3	3.8	36.7	36.7	12.7	6.3	－
		６０歳代	105	1.0	1.9	3.8	37.1	44.8	5.7	3.8	1.9
		７０歳以上	52	－	1.9	3.8	44.2	36.5	5.8	1.9	5.8
	女性		464	0.2	2.6	3.4	32.8	45.3	6.9	7.8	1.1
		２０歳代	53	－	7.5	3.8	28.3	45.3	7.5	7.5	－
		３０歳代	74	－	2.7	1.4	25.7	56.8	1.4	10.8	1.4
		４０歳代	84	－	－	3.6	35.7	38.1	14.3	7.1	1.2
		５０歳代	91	－	1.1	4.4	30.8	42.9	7.7	12.1	1.1
		６０歳代	105	－	2.9	1.9	39.0	43.8	5.7	4.8	1.9
		７０歳以上	57	1.8	3.5	7.0	33.3	47.4	3.5	3.5	－
婚姻	未婚		137	－	5.8	6.6	35.8	32.1	10.2	9.5	－
	既婚		630	0.8	2.1	2.9	34.1	45.9	6.2	6.7	1.4
	離婚・死別		84	1.2	2.4	6.0	31.0	42.9	10.7	6.0	－
就労状況	共働き		360	1.1	1.7	2.8	37.2	42.2	6.1	7.5	1.4
	片働き		172	－	1.7	2.3	27.3	54.7	6.4	7.6	－
	働いていない		93	1.1	4.3	4.3	34.4	44.1	5.4	2.2	4.3
★全国（平成24年）			3,033	3.4	5.6	10.0	47.5	30.8	1.3	1.4	－

資料：全国は、平成24年10月「男女共同参画に関する世論調査」（内閣府）

2　職場での男女平等

図表５－２は、現在、収入のある仕事についている人に、職場での男女平等についてお聞きした結果です。「平等である」は、①募集や採用の条件が38.4％と最も高く、次いで④仕事内容が37.3％、③賃金が35.0％などの順となっています。「男性が非常に優遇」および「どちらかといえば男性が優遇」を合計した＜男性優遇＞は、②昇進・昇格が44.4％と最も高く、他の５項目も概ね30％を超えています。＜女性優遇＞が最も高いのは、④仕事内容の10.8％です。

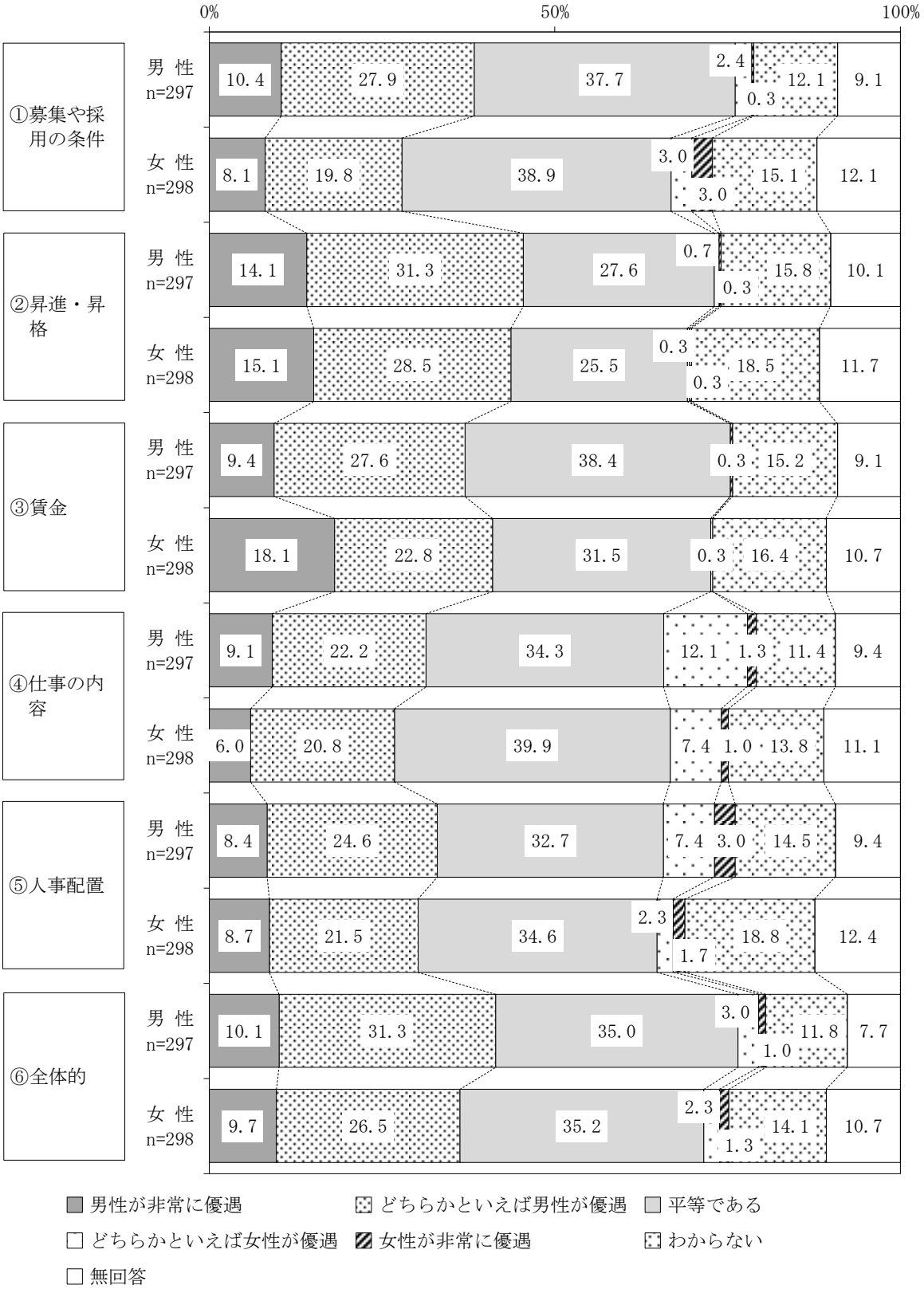
図表５－２　職場での男女平等（全体）



図表５－３で性別にみると、「平等である」は、①募集や採用の条件、④仕事の内容、⑤人事配置、⑥全体的の計４項目で男性に比べて女性が高く、＜男性優遇＞は、③賃金を除く５項目で男性が女性を上回っています。

なお、女性に「わからない」や無回答が多いのは、男性に比べてパート・アルバイト等の率が高いことが影響したものと考えられます（５頁参照）。

図表５－３　職場での男女平等（性別）

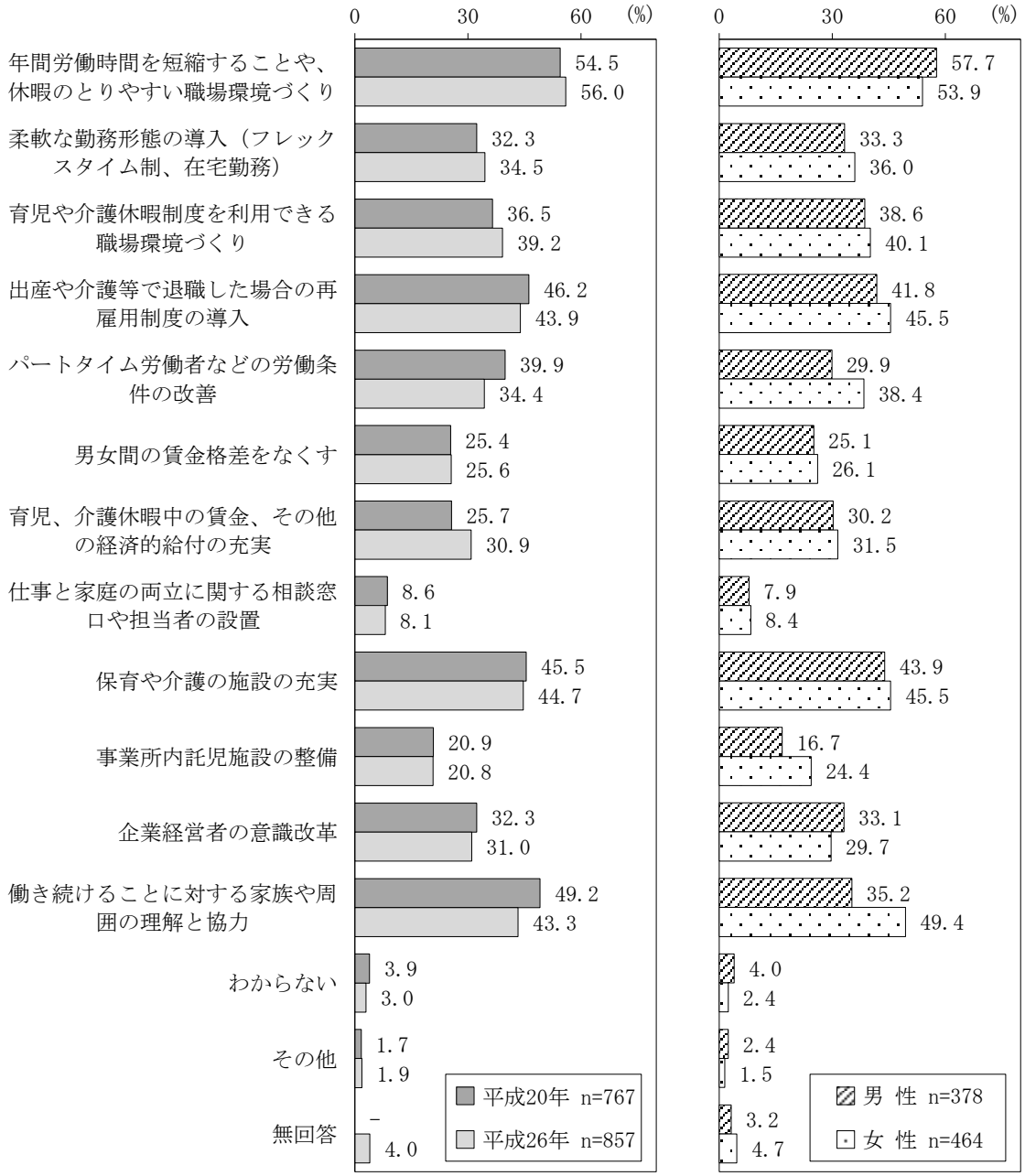


3　仕事と家庭を両立する場合に必要な整備

仕事と家庭を両立する場合に必要な条件の整備としては、「年間労働時間を短縮することや、休暇のとりやすい職場環境づくり」が56.0％と最も高く、次いで「保育や介護の施設の充実」が44.7％、「出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入」が43.9％などの順となっています。

性別にみると、男性に比べて全般的に女性が高くなっています。女性が男性を大きく回っている項目は、「働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力」「パートタイム労働者などの労働条件の改善」「事業所内託児施設の整備」です。

図表５－４　仕事と家庭を両立する場合に必要な整備（複数回答）



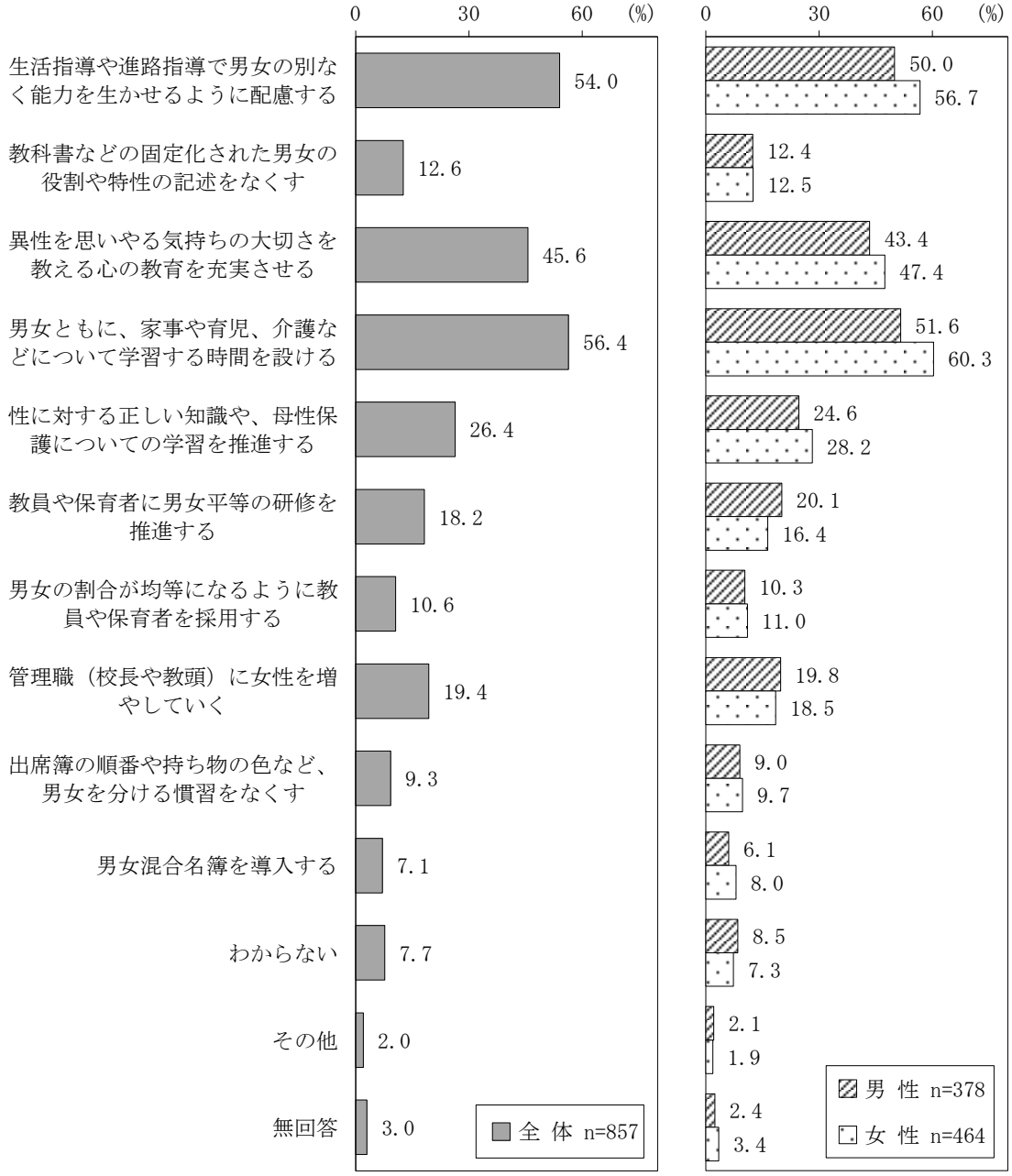
Ⅵ　教育について

1　学校教育で力を入れること

男女平等意識を育てるために学校教育で力を入れるべきこととしては、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」が56.4%と最も高く、次いで「生活指導や進路指導で男女の別なく能力を生かせるように配慮する」が54.0%、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」が45.6%などの順となっています。

性別にみると、上位３項目はいずれも女性が高くなっています。

図表６－１　学校教育で力を入れること（複数回答）

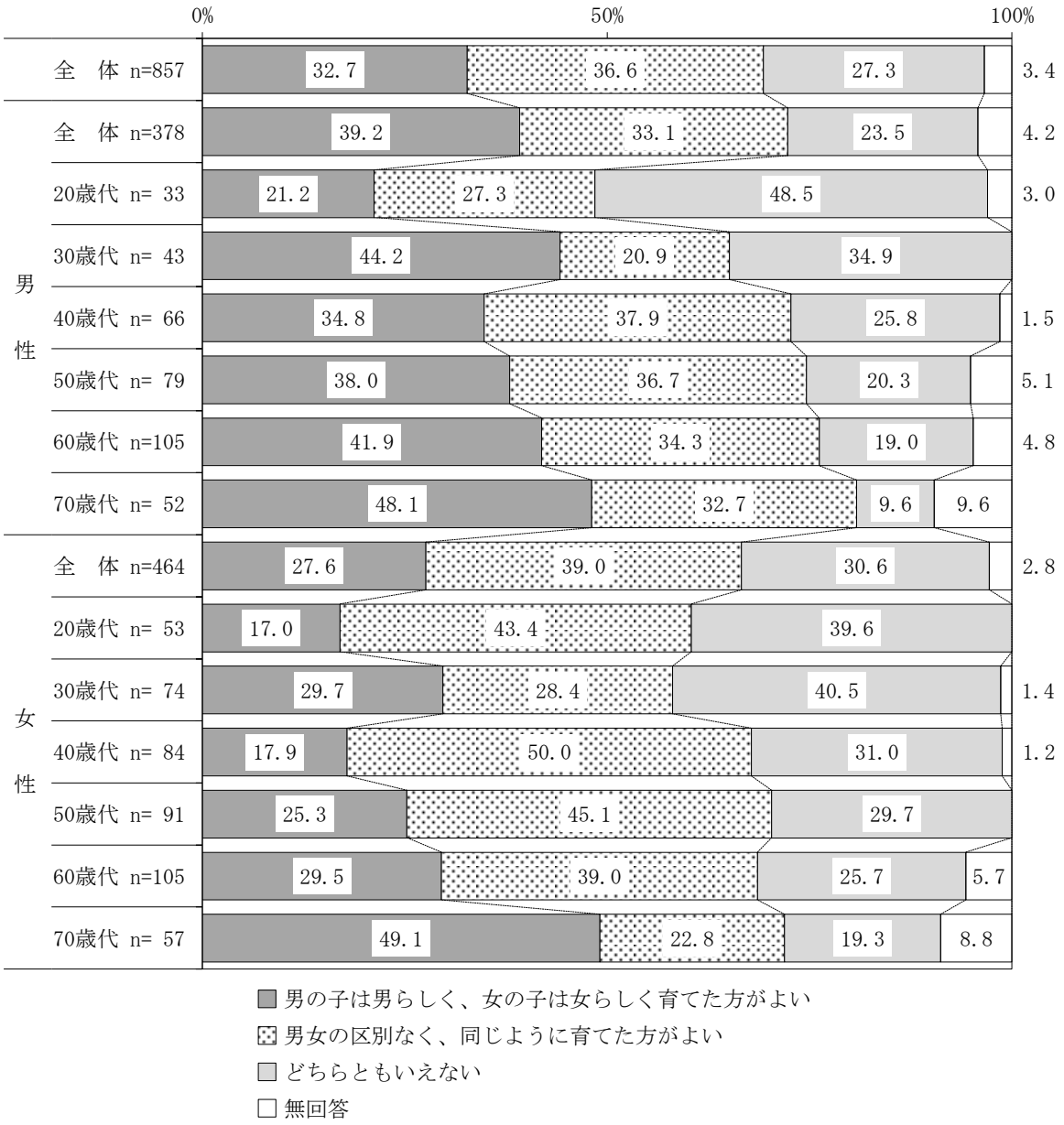


2　子どもの育て方について

子どもの育て方についての考え方をたずねたところ、「男女の区別なく、同じように育てた方がよい」が36.6%と最も高く、次いで「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が32.7%、「どちらともいえない」が27.3%となっています。

性・年齢別にみると、男性は「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が、女性は「男女の区別なく、同じように育てた方がよい」がそれぞれ最も高くなっています。「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」は、男女ともに加齢に伴い高くなる傾向にあります。

図表６－２　子どもの育て方について



Ⅶ　人権について

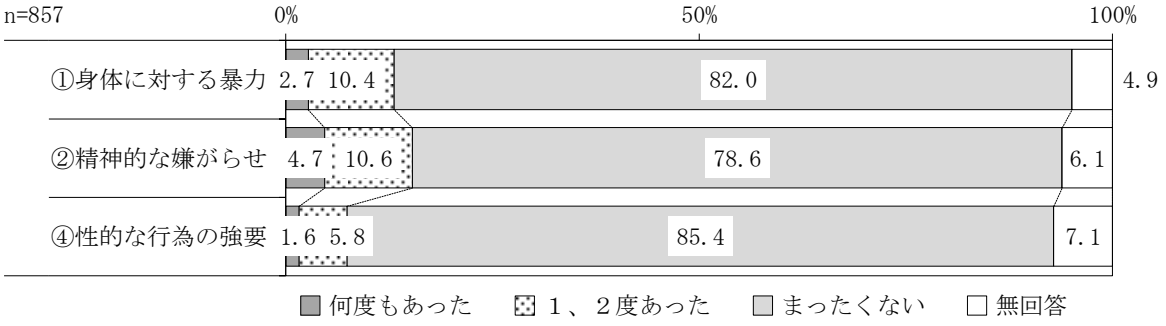
１　ＤＶを受けた経験

図表７－１は、「殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力」（＝①身体に対する暴力)、「人格を否定するような暴言や、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、恐怖を感じるような脅迫を受けた」（＝②精神的な嫌がらせ)、「嫌がっているのに性的な行為を強要された」（＝③性的な行為の強要）の３項目について、配偶者や恋人などからドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）を受けた経験があるかをたずねた結果です。

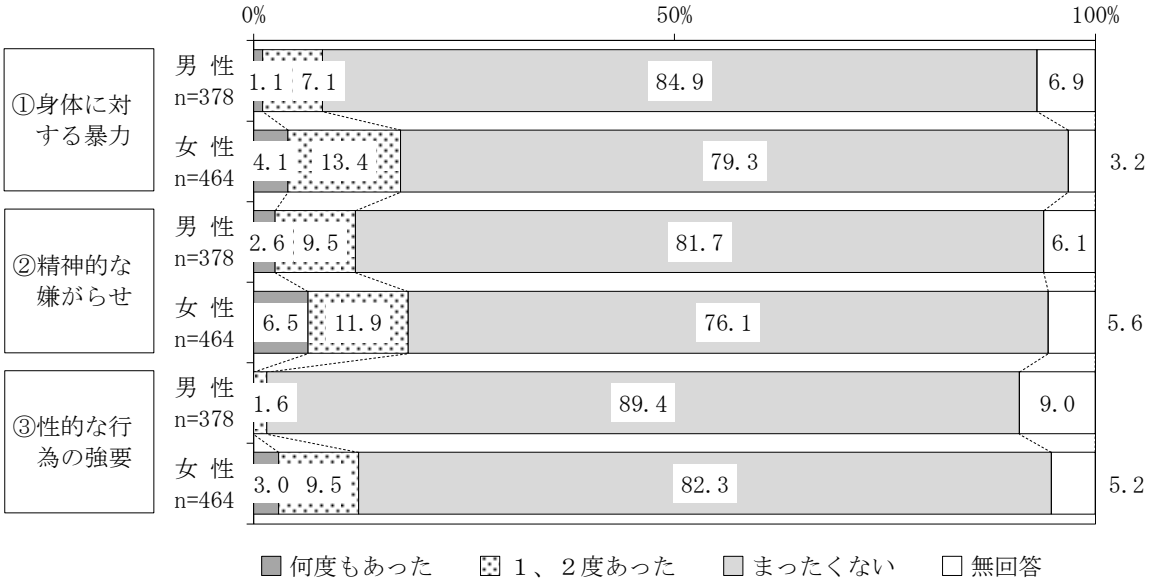
「何度もあった」と「１、２度あった」の合計＜あった＞は、全体では、②精神的な嫌がらせが15.3％と最も高く、次いで①身体に対する暴力が13.1％、③性的な行為の強要が7.4％となっています（図表７－１)。

性別にみると、＜あった＞はすべて項目で女性が男性を上回っています(図表７－２)。

図表７－１　ＤＶを受けた経験（全体）



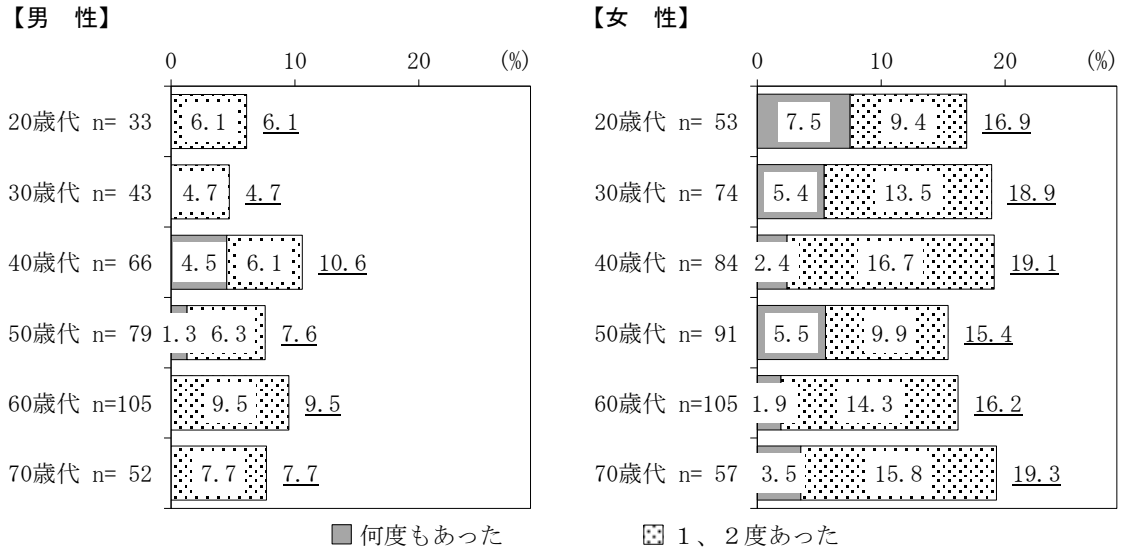
図表７－２　ＤＶを受けた経験（性別）



(1)　身体に対する暴力

性・年齢別にみると、＜あった＞は、女性はすべての年齢層で15％を超えており、なかでも「何度もあった」が比較的高いのは、20歳代、30歳代および50歳代です。男性では、40歳代が10.6％と比較的高くなっています。

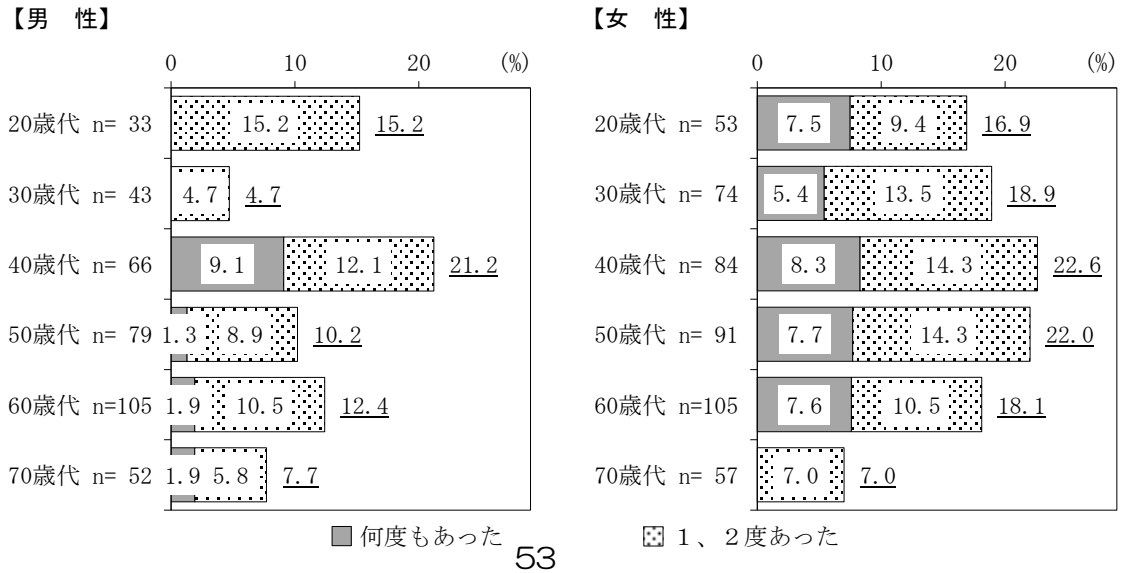
図表７－３　身体に対する暴力（性・年齢別）



(2)　精神的な嫌がらせ

性・年齢別にみると、＜あった＞は、女性では60歳代以下で15％を超えており、なかでも40歳代および50歳代は22％台と非常に高くなっています。男性では、40歳代が21.2％と最も高く、次いで20歳代が15.2％などとなっています。「何度もあった」が最も高いのは40歳代の男性（9.1％）であり、男性にも被害の経験者が比較的多いのが特徴です。

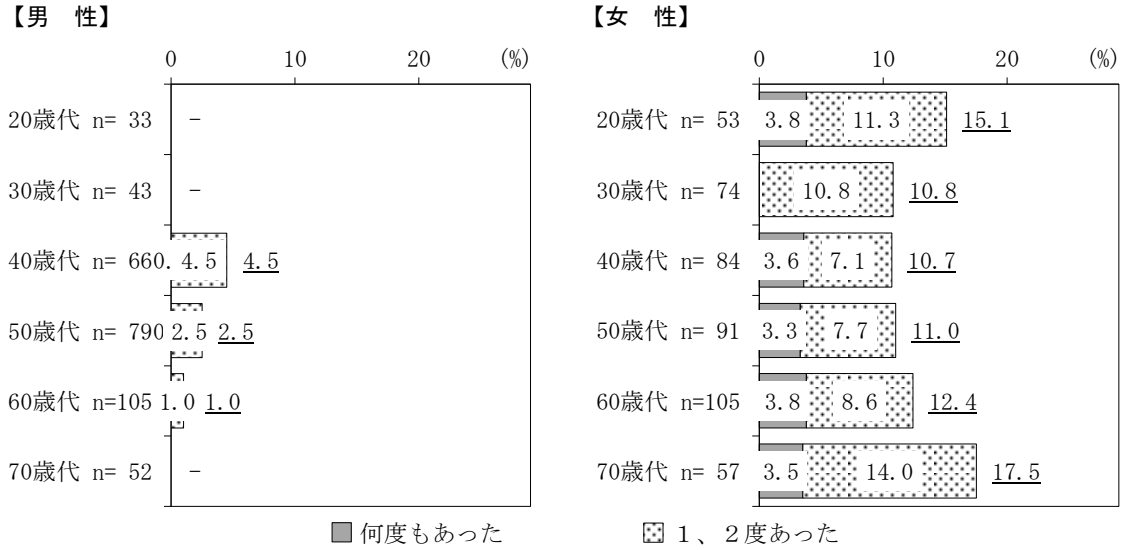
図表７－４　精神的な嫌がらせ（性・年齢別）



(3)　性的な行為の強要

性・年齢別にみると、＜あった＞は、女性ではすべての年齢層で10％以上となっています。男性では、40～60歳代に「１、２度あった」がわずかにみられます。

図表７－５　性的な行為の強要（性・年齢別）



２　ＤＶの相談

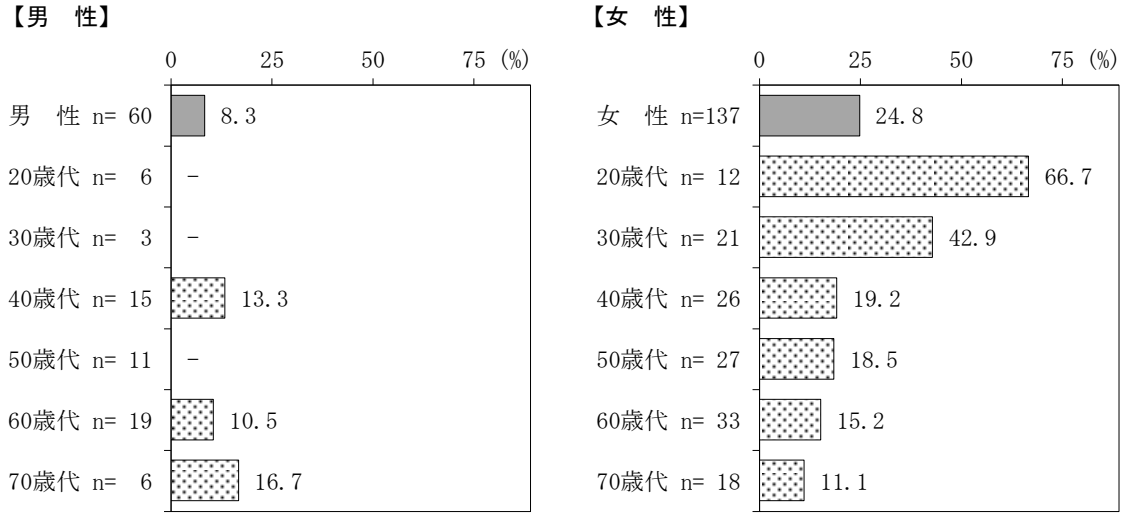
(1)　ＤＶを受けたことを相談したか

ＤＶを受けたことが＜あった＞197人のうち、相談したことがあるのは19.8％です。

性・年齢別にみると、男性の8.3％、女性の24.8％が「相談した」と答えています。女性は高年齢者ほど相談していない、または相談できていないことがわかります。

「相談した」人の具体的な相談先として、「友人」(16件)、「親」(７件)、「家族」(５件)、「子ども」(２件)、「同僚」「上司」「医療機関」などの記載がありました。

図表７－６　ＤＶを受けたことを相談したか（「相談した」）

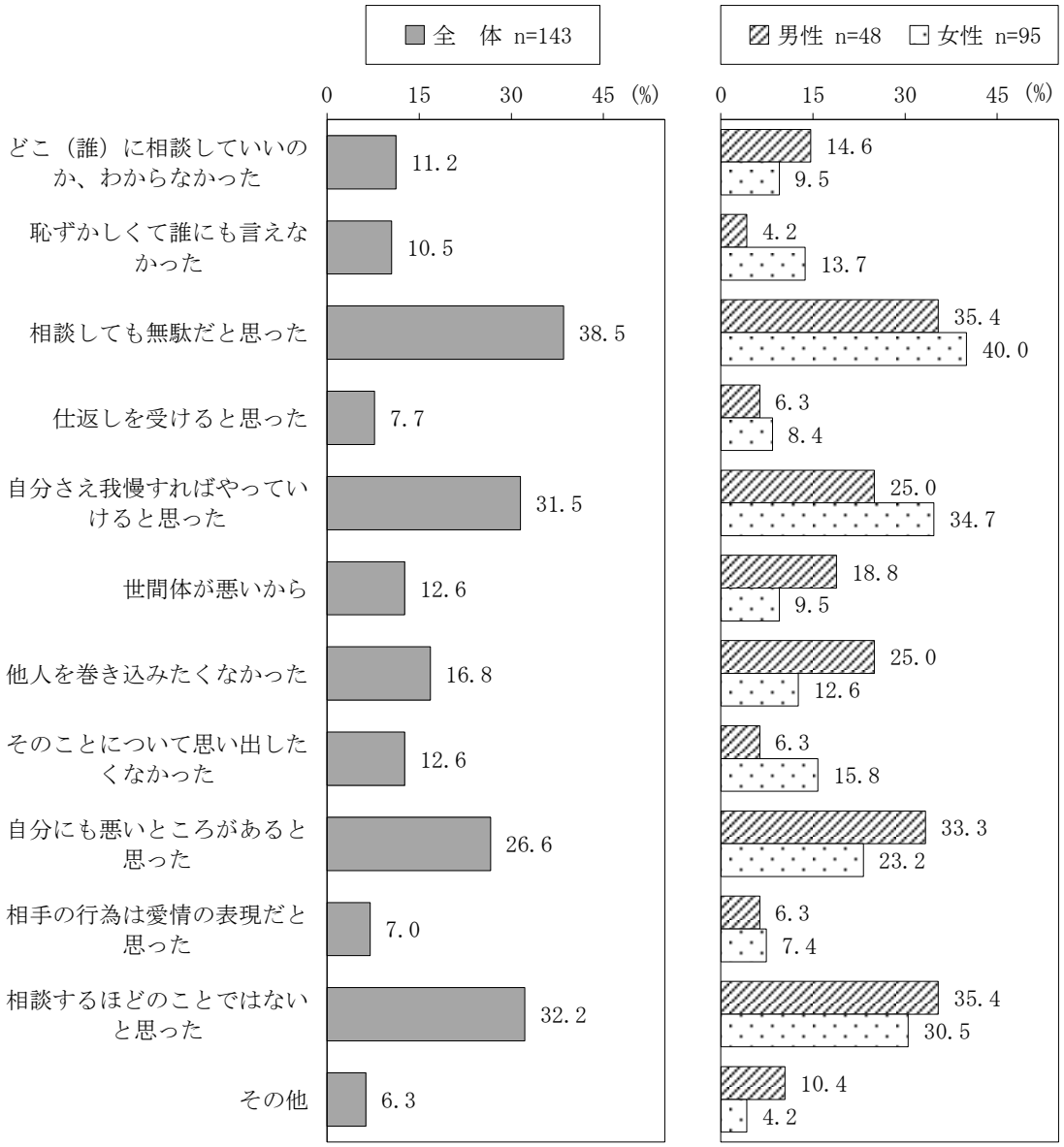


(2)　相談しなかった理由

ＤＶを受けたことを相談しなかった人にその理由をたずねたところ、「相談しても無駄だと思った」が38.5％と最も高く、次いで「相談するほどのことでもないと思った」が32.2％、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」が31.5％などの順となっています。

性別にみて10ポイント程度の差がみられる項目は、男性が高い「世間体が悪いから」「他人を巻き込みたくなかった」「自分にも悪いところがあると思った」、女性が高い「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「自分さえ我慢すればやっていけると思った」「そのことについて思い出したくなかった」です。

図表７－７　ＤＶを受けたことを相談しなかった理由（複数回答）



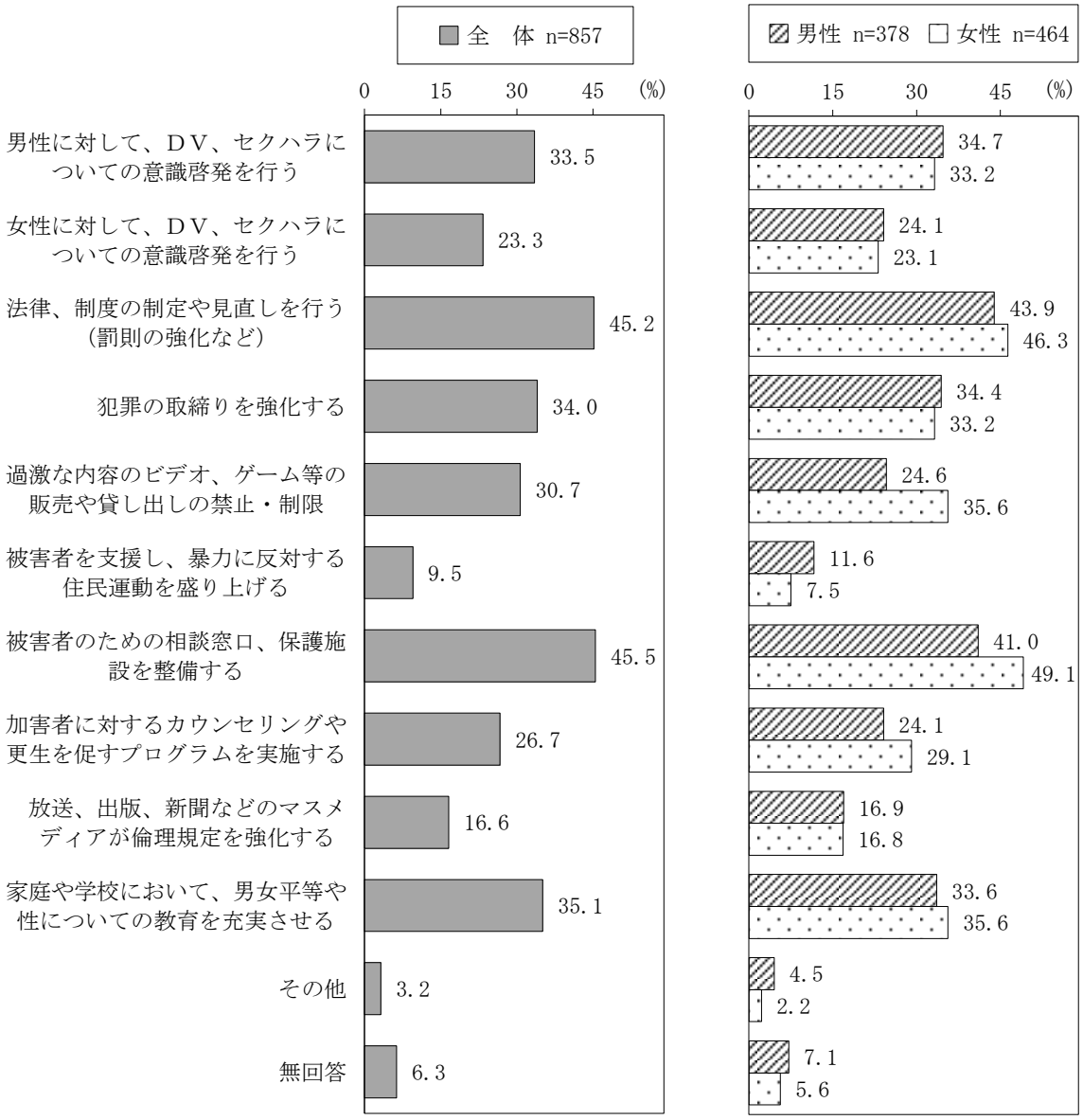
3　ＤＶやセクハラをなくすためにはどうすればよいか

ＤＶやセクシャル・ハラスメントをなくすための方策としては、「被害者のための相談窓口、保護施設を整備する」と「法律、制度の制定や見直しを行う（罰則の強化など）」の２項目がともに45％台と高くなっています。

性別にみると、男性は「法律、制度の制定や見直しを行う（罰則の強化など）」（43.9％）が、女性は「被害者のための相談窓口、保護施設を整備する」（49.1％）がそれぞれ最も高くなっており、男性は加害者処罰が、女性は被害者保護が優先となっているのは、どちらかといえば、男性は加害者に、女性は被害者になる傾向が高いことの表れと推察されます。

「その他」として、図表７－９の記載がありました。

図表７－８　ＤＶやセクハラをなくすためにはどうすればよいか（複数回答）



図表７－９　ＤＶやセクハラをなくすためにはどうすればよいか（「その他」）

・教育問題（社会、学校、家庭）

・戦後の反省

・日本的教育の見直し。

・平等の原則をはっきりする。

・男女ともに常識を身につけていれば起こりえない問題。メディアを縛りつけたりすれば逆にストレスの発散ができなくなる。

・人は人、自分は自分の考えをはっきりと語る。

・個人個人がモラルの向上をもって対応するのみ。

・インターネット（スマホ）などをなくす。

・インターネットでの過激な内容を制限する。

・人を思いやる心を育てる。（２件）

・倫理、道徳の教育

・人権教育

・企業が利益のみを追求せず、よりよい社会を夢見てくれたらよい。

・人間が人間を大切にする、大切に思う、それだけのことに思う。大切にしていないゲームや雑誌がお手軽にありすぎる。

・貧困と無知は残念ながら存在し、それを減らす社会改革が必要。

・暴力は悲しい言葉、それに対応する言葉の充実を図れる教育が施せる社会を。

・それらの問題がなぜ起きるのかの真因を考えて手をうつ。選択肢のどの対策も根本対策になっていない気がする。

・加害者よりも被害者に対しての啓発を行う。犯罪者、特に性的なものに関する事件をおこす人間は減らないし、なくならない。被害者に対するカウンセリングなどのケアによって被害にあった際の対策をしっかりさせる。

・今の若い人たちは自分を見つめなおすことができなさそう。

・個人の性格の問題が大きいと思う。

・社会システムの家庭環境問題。

・他人事と思わず、気づいたら気楽に連絡できる場があればよい。

・親がもっと子どもの行動を知るべき。

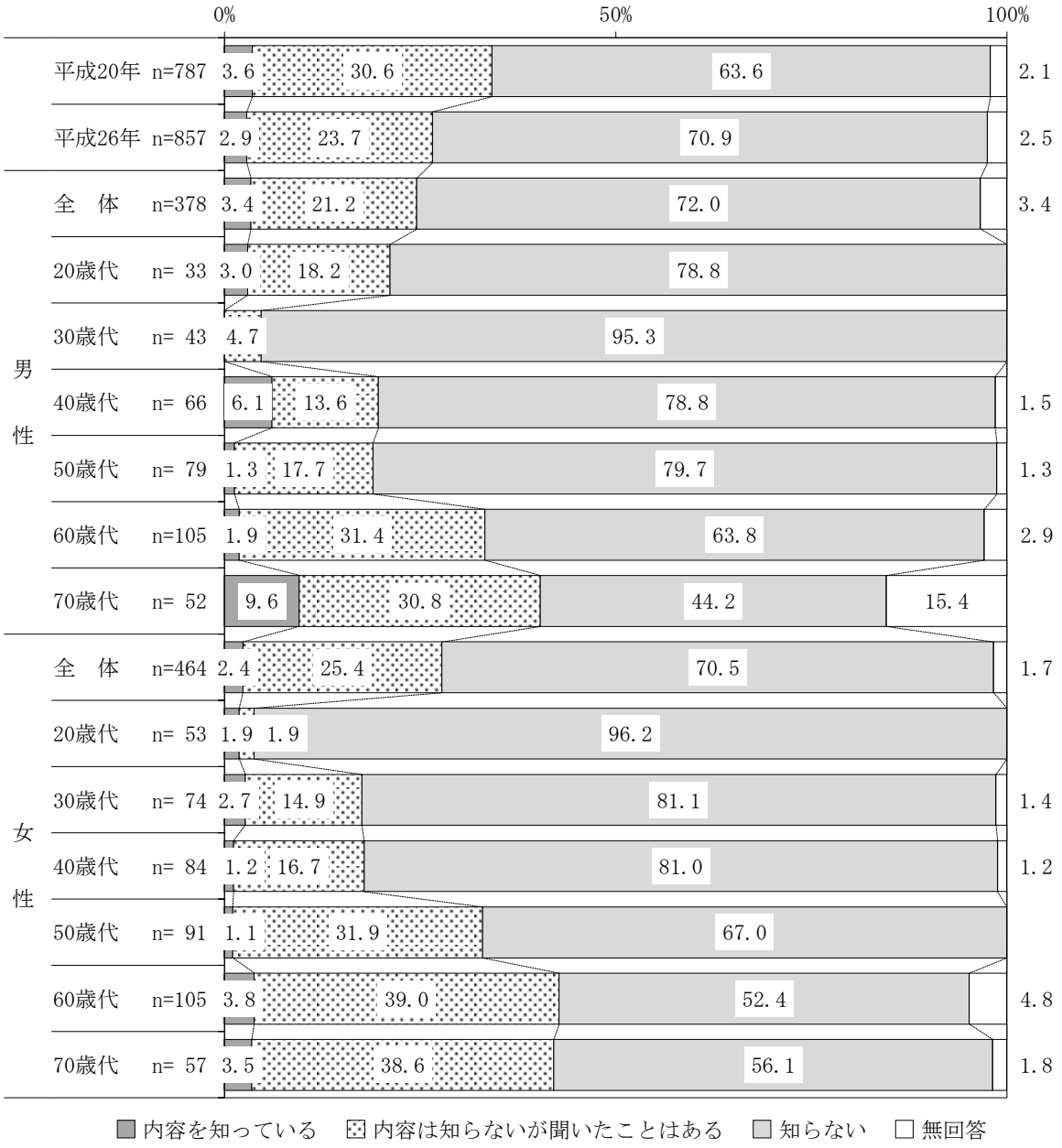
Ⅷ　中津川市の男女共同参画推進施策について

1　なかつがわ男女共同参画プランの認知度

「なかつがわ男女共同参画プラン」について、「内容を知っている」が2.9%、「内容は知らないが聞いたことはある」が23.7%となっており、これらを合計した＜認知度＞は26.6%です。前回調査結果と比較して、＜認知度＞は7.6ポイント低下しています。

性・年齢別にみると、＜認知度＞は男性に比べて女性が高く、男女ともに加齢に伴い上昇する傾向にあります。

図表８－１　なかつがわ男女共同参画プランの認知度



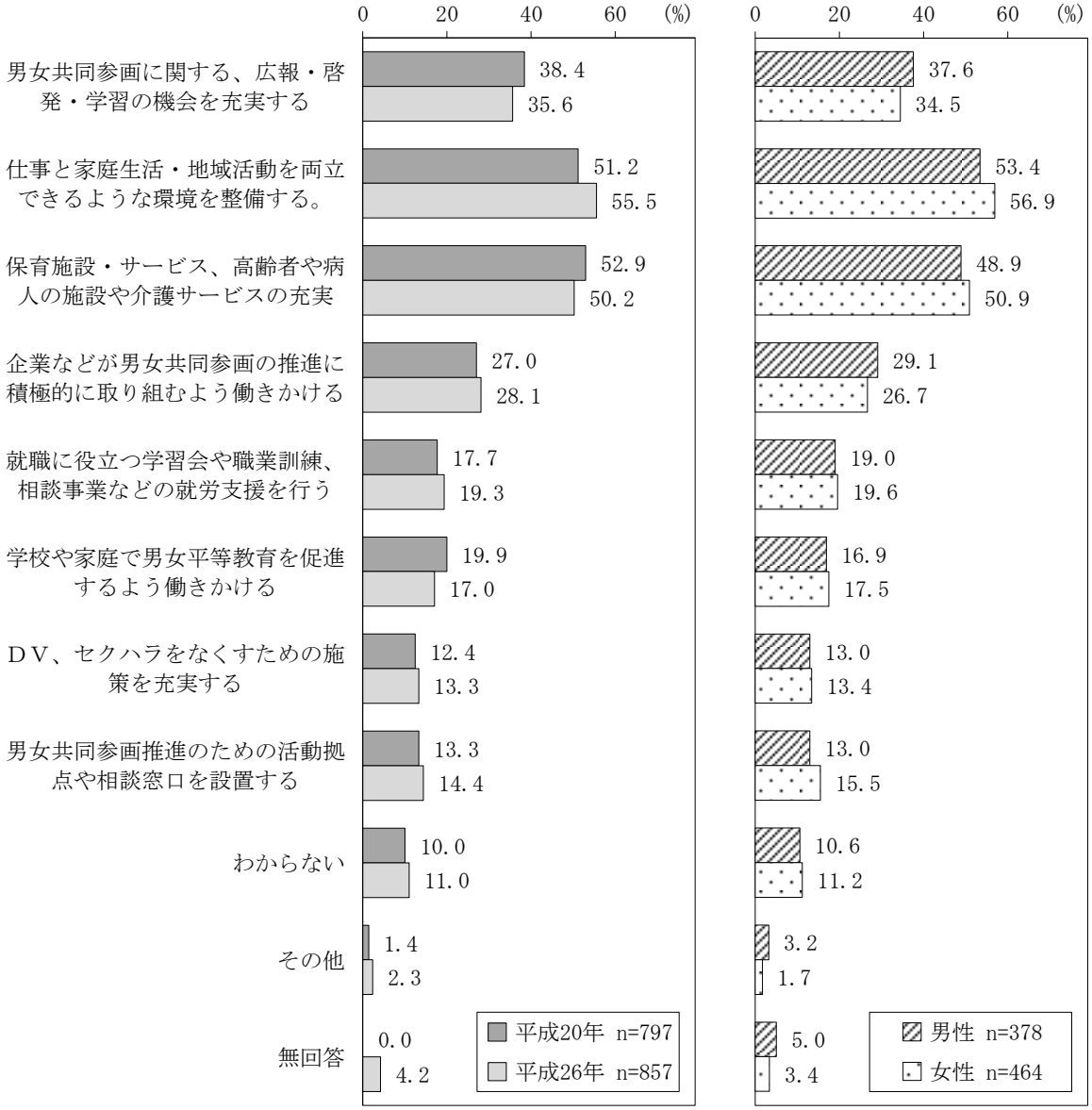
2　男女共同参画の推進に重要なこと

男女共同参画を進めていくうえで重要なこととしては、「仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような環境を整備する」が55.5%と最も高く、次いで「保育施設・サービス、高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」が50.2%、「男女共同参画に関する、広報・啓発・学習の機会を充実する」が35.6%などの順となっています。

性別による差はほとんどありません。

「その他」として、図表８－３の記載がありました。

図表８－２　男女共同参画の推進に重要なこと



図表８－３　男女共同参画の推進に重要なこと（「その他」）

・男女共同参画の必要性はわかるが、すべてで参画は無理であることも知る必要がある。

・昔の考えの人がいなくならないと無理だと思う。

・中津川において、参謀、作戦を考えて行動する。

・まずは「なかつがわ男女共同参画プラン」を推進していることを知らせないことには何も進まない。

・手段ではなく、目指すところを市民に知らせる。

・選択肢１～８を取り組んできた結果が今日なので、初歩に返って個々や隣近所など小さな単位から進めるのがよいのかも。

・企業に対し、男女共同参画を推進しているところを表彰したり、税制面を優遇する。

・市民の声を聞き、企業へ働きかける。

・具体的施策を提示してほしい。

・事業所が積極的に取り組める施策（人、物、金を支援する）。

・やりっぱなし、つくりっぱなしではなく、ゴールを設定した計画的、実行的な教育、相談窓口設置といった箱、形づくりをする。

・互いに理解しあう関係をつくる。

・平等意識より対等意識の確立が大事。性差の理解を深め、より異性を理解する能力をお互いにもたなければ、プランは絵に描いた餅になる。

・地元で働いている若い人たちを海外派遣などして、地元を考える機会をあたえてほしい。中学のときに行かせていただいたおかげで、家族や地域を大切に思ってくれました。いろいろな職種の人が参加して、中津川を考えてほしい。

・市で男女関係なく話し合うことができるような場をつくり、そこでの意見を取り入れる。

・街角でビラを配る。

・男女共同参画の意味と意義がわからない。

・今の若い人たちは人の話を聞く力がない。人をいたわる人となってほしいです。

・これ以上、市民行事を増やさない、市民参加行事の見直し、削減。

・求めるものなのですか。

Ⅸ　自由意見

○男女ともに残業が当たり前になっていることが問題だと思います。特に男性は残業時間が長くて、共同参画に参加する時間、体力がないと思います。遠くで働いている息子夫婦を見ていると強く感じます。（女性60代　阿木）

○男女共同参画で社会づくり？男女にはそれぞれの役割があると思います。同じにしてしまったら結婚する意志もなくなるでしょう。人口減少、日本は終了です。今の社会のシステムに合わないと思う。まず企業を誘致し、雇用の場を設けることです。特に坂下は発展していきませんがなぜでしょう、問題の解決はまずそこからだと思います。（男性50代　坂下）

○このような取り組みは知りませんでしたが、私自身が思うことは、子育てには夫婦の役割があり、小さなうちは子どもに寄り添い、あっという間に終わる時期を大切にするべきだと思います。夫婦がお互いに気づかい、子どもの成長を見守り、成人になるまで育て上げたいです。両立はとても大変で、子どものSOSに気付いてあげられない人もいます。まだ義務教育の子どもがいるので忙しいですが、手がはなれたら相談に乗れるような人でありたいと思っています。そのような会などがあったら参加できるとうれしいです。（女性40代　苗木）

○育児休業中、ハローワークより給料の何％かが支給されて、収入が０円でなかったことが子育て、生活する上で助かりました、ありがとうございました。（女性40代　福岡）

○結婚や出産しても、その職場へ戻れることを望みます。保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学などの先生たちも、出産後に職場に戻られ、長く働いてくださるとうれしいなと思います。（女性40代　福岡）

○家庭で月２回、５分～15分ぐらい仕事、家庭、地域について簡単なことから話し合う。（男性60代　中津）

○行政と市民で話し合う。（男性60代　中津）

○中津川市の各地域をみても男女とも独身の人が目立ち、また高齢者の人がどこの地区も目立ちます。この先どうなっていくのか心配しています。自分の息子も39歳でまだ独身です。市の婚活活動にも何度も参加しましたが、残念ながらパートナーがまだ見つかりません。もっと婚活活動を簡素化して一組でも多くのカップルができるように、親として市の方で力を入れてほしいと思います。でないとこの先、高齢者ばかりで家庭、職場、地域社会に若者が少ない、将来を担う子どもが少ないと、たいへんな事態になる予感がします。行政も大切ですが、上記に述べた事柄に真剣に取り組んでほしいと願います。（男性60代　福岡）

○自然、野生の動物はどうでしょうか、オス・メスの役割があります。これを断つことなく平等はむずかしいと思うが、共同参画ならば……。（男性50代　付知）

○私は今、時短（９時～16時）で正社員として働き、２歳と５歳の子どもを育てています。こうした制度を活用させてもらいながら働ける環境にいられることは本当にありがたいと思っています。ただ、現実は私の職場のように恵まれた環境は少なく、パートで働くだけだとほとん

ど保育料にとられてしまうようです。小さな子どもがいても働くことのできる職場環境、時間、賃金などの向上を望みます。また、夫の帰りが遅く、朝から食事、弁当づくり、洗濯、子どもの送迎、帰ってきてからの食事、風呂、寝かしつけ、全部私です。妻だけでなく、夫も早く帰ってこられるような職場環境の整備を図ってもらいたいと思います。夫は時短だから基本私がやるのが当たり前と思っているようですが、正直しんどいときもあります。(女性30代　福岡)

○第２子目以降の出産時、第１子の保育をする人がいない、また、祖父母も仕事をしている人が多く、面倒をみられない。市の方で保育施設の充実と、費用（出産前後１か月）の援助を行うなどの方法をとるとよいと思う。また、子ども３人以上での出産時にはホームヘルパーなどの支援を行ってはどうか。子育てするなら中津川市でと、全国に広まるような市づくりを行っていただきたい。（男性40代　中津）

○あらゆる場で男女共同が充実すれば、穏やかな社会が形成されるように思われます。
（女性70歳以上　坂本）

○職場でのサービス残業をなくし、時間をつくること。（男性30代　坂本）

○福井県のように女性が働きやすい支援のできる環境の充実さを真似てほしいと思います。この前テレビでなぜ福井県の女性ががんばれるかをやっておりました。（女性60代　苗木）

○やみくもに男女平等で同じ扱いにする必要はない。男女それぞれ特長をもっているのであり、その特長をうまく伸ばせるようにすべき。偏見や、古くからの風習、慣習は取り去るべきだが、得意、不得意があるので男女ともに同じ教育や、同じ仕事をさせるのはおかしいと思う。要はそれぞれの能力や得意、不得意に応じて平等に参画の機会を与えればよい。男でも料理をせよ、女でも力仕事をせよと強要するのはよくない。好きなことをできるように平等に機会を与えることが大切と考える。（男性50代　中津）

○男性には男性の良いところがあり、同様に女性には女性の良いところがある。それを互いに協力していけるようになればよいのではないでしょうか。（男性40代　中津）

○このアンケートについて、知らないことの参画事業について聞かれて戸惑う。山口の合併時のアンケート発表以来、書くのも見るのもいやで、今後は答える気にもならず、何を聞きたいのか、調べたいのかがわかるようでわからない。中津川市山口での生活はよくなるどころか先行き不安なのに、男女教育のアンケートなどナンセンスであると思う。２度と寄こさないでほしい。（男性50代　山口）

○男女が平等であることはもちろんであり、個人の自由の尊重も大切なことであります。人間の成長の過程において、各々の家庭が基本であります。まず家庭において、親は親らしく、子どもも男は男のように、女は女のように、あるべきように育て、家庭の中が幸福で和やかになることが、地域に出ても、学校でも、職場でも関係してきます。市民一人ひとりが安心して平和に暮らせるよう、市民の目に立った行政をお願いします。（男性60代　中津）

○公務員は育児休暇をしっかり取れるが、一般企業では仕事を続けることがむずかしい場合や、パートでは取れず、仕事を辞めることもあり、出産を機に経済的に厳しくなることが多い。出

産後、自分に合ったペースで働ける場所が少なく、正社員として再就職できることはとても少ない。なんとかしてほしい。（女性30代　中津）

○個人の人格を尊重し、陰で噂を広げるグループ（例えばママ友グループなど）をつくらぬこと。一人ひとりの人権を大事にし、互いの心を一番大事にするような社会であってほしいと切に最近思います。（女性70歳以上　中津）

○今の時代、男女の枠組にとらわれず、一市民としてよりよい社会をつくりだすための努力、環境づくりが必要。行政指導に期待。（女性70歳以上　坂本）

○「なかつがわ男女共同参画プラン」そのものをよく知りません。名前は聞いたことがある気もしますが、内容についてはまったくの未知です。（男性30代　福岡）

○私は仕事の他に消防団、スポーツ少年団などの地域の付き合いもあり、忙しくしています。しかし地域に協力している人としていない人があり、協力している人間だけにそういう仕事が集中してしまっている気がします。もっと平等に地域の仕事を振り分けるやり方はないでしょうか。（男性30代　福岡）

○協力のお願いの中で、本年度と来年度の第４次プランを策定となっているが、今年度はもう半年終わろうとしている。なぜこんなにアンケートが遅いのか。策定を決めたころには27年度が終わっている感じがする。これでは中津川市の発展はないと感じる。（女性60代　福岡）

○来年からの新しい保育制度の説明を聞きましたが、パートだと17時まで仕事をしても16時までしか預かってもらえず、１時間＋迎えの時間は料金が発生してしまうので、パート時間を短く変更するか、プラスしていくらか払うかと思うと、女性が働きにくい制度になってしまったと思います。パートも家計を支えます。少子化の今、子どもに支援していかないと安心して子どもも産めないし、育てられない、働くこともむずかしいです。働くには男女平等になっていません。（女性30代　加子母）

○子育て世代への経済的支援を拡大してください。未来を担う子どもの数が少なければ、どんな活動も続かずに途絶えてしまうと思います。（男性40代　坂本）

○家庭で教える（自分の知っていることを知らせる）。職場で学ぶ。地域社会で育て上げる「難問」があるのでは。行政の実効と協力制。（男性40代　坂本）

○男女教育を受けていた事業などの計画の相談に加わる生活を営む人々と集団を描く方法を尽くして、社会、市政への響きは大きく「地域社会は男性、女性にてつくり、育て上げられる」ことと思考する。事物、人生などの根本の原理を考えて、実効協力だけでは変わらない私生活を見直す。人としての地域社会であるように、仕事、旅、趣味、季節、仲間、ニュース同様で、共同参画に向けて何をどのようにするか、個人意識の認識を知ること。信念を……そして実行すること。（男性40代　坂本）

○男女平等というが、それぞれの特性があり、完全平等というのはむずかしいと思う。それぞれが足りないところを補い合うことが重要で、それぞれが持っている能力を生かすことができる社会制度、人間教育が必要だと思う。基本は他人を思いやる心を養うこと。ただし、自分に余

裕がないとできないことで、余裕がもてるような社会制度を希望する。　（男性60代　中津）

○正直、男女平等は成り立たないと思います。生まれながらの持っているものがちがいます。男性に子宮はないのでお腹の中で子どもを育てられないですし、女の人には男の人のようながっちりした体はないです。もともと平等ではないのに平等にするのは無理です。が、考え方や思いやりなど、たくさんの平等になることがあるのだから、無理に話を「平等」にもっていくのではなく、お互いが「ないものを補う」ことにしたらよいと思います。平等平等といっているうちは見苦しいほどに平等にならないでしょうね。お互いの思いやりが大切なのでは。お互いにないものを協力して分かちあえば、まちがった「平等」は生まれないのではないでしょうか。平等になると女は果てしなく強くなります、人間を産みだす力がありますから。男は女の人をいたわり、協力し、分かちあえる環境をつくってくれたらよいのでは。女の人も「産んだから」ではなくて、女としてやってあげられることをしたらよいのでは。でも、この考えが平等ではないでしょうね。お互いが気持ちよく過ごせることが一番でありたいです。（女性40代　坂下）

○質問自体が固定概念にとらわれすぎでは。　（男性60代　中津）

○基本的には男女平等であることと思いますが、少子化問題の根底には女性の仕事へのこだわりや収入などの面で結婚しないため、子どもが増えないということがあり、結婚しない理由として、仕事をやめなくてはならない、自由がなくなる、男性の下になりたくないといったことが挙げられるが、そのように思っていることが男女平等と考えられているのであれば間違っていると思います。男女共同参画社会がそのような風潮を助長するのであれば、あまりよくないと思います。　（女性50代　中津）

○男女平等はごく当然のことのようで、できていない部分があると思います。男女の差ではなく、お互いが人間性を高めるための社会づくりを進めていただきたい。　（男性50代　苗木）

○私たちは60歳を過ぎて、社会の一線から退きつつあります。これからの若い人たちが子どもを育てながら働くことができやすいよう、行政で考えていってください。　（女性60代　阿木）

○地域での協力や集落の構成に、家庭での協力意識の植え付けを考えること。協同作業などに参加する意識が不足している。また、若者が同居しているのに年寄りなどの参加でお茶をにごす態度が増えている。40～50歳ぐらいの人の自治会活動への意欲が欠けている。市の清掃活動など、中心部に住む人にノルマを与えるなどして、全体に平等心をもたせること。田舎の農家だけが動いている。全体の考え方はどの年齢で教育するか見直し。共働きなどで児童生徒の教育が偏っている。ボランティア活動に対して根本から見直し。市役所活動も時間がくれば終わりというところがまだまだ多いように見受けられます。　（男性70歳以上　福岡）

○このような問題について一口にはなかなか大事なことと思いますが、ダメダメではよくなりません。一口一口を少しずつ進めて大きく変わると思います。このアンケートも皆さんの意見を聞いて、表にして進めていっていると思います。自分自身を見直すことも、皆さんの話をまとめる力も大事だと知りました。おつかれさまです。　（女性70歳以上　阿木）

○アンケートも大事なことですが、詳しいことはわかりませんが、もっと他に大事なことがある

のではないでしょうか。　（女性60代　落合）

○男性には男性にしかできないこと、女性には女性にしかできないことなど、すべて平等ではいけないこともあります。これからの若い人がもっともっと住みよく、生活しやすい世の中を望みます。　（女性60代　蛭川）

○ＤＶのことですが、周囲でも時々聞きます。現実問題として、自分が我慢すればよいという言葉を女性の方から聞いたことがあります。相談したくても市の窓口へ行くことをいやがっている方もいました。田舎なので顔を知られるといやだと言われることもあります。身内のことで他の人に知られたくないという気持ちもあるようです。そんな方々を気軽に受け止めてもらえるような窓口になれば、もっと多くの方を助けることができると思います。ＤＶを受けたらまずここへという形で、相談の流れや相談場所、人目につかない施設や戸別訪問など、プライバシーの守れる方法を、市民の方へ詳しく伝えていただけたらよいのではないでしょうか。安心して相談できることをＰＲしてくださると、利用される方も相談してみようかなと思うかもしれません。一人でも多く、苦しんでいる人を助けることができればよいと思います。よろしくお願いいたします。　（女性40代　中津）

○主人や義父は昔の考え方の人なので、女は家事や育児をするのが当たり前だと思っているところがあります。今、私も外へ働きに行かせてもらっていますが、「まずは子どものことを考えろ」とか言われ、なんとか説得して働いているのが現状です。子どもが病気になってしまったら休まなくてはならないのも女の方で、ちょっと納得いかないところもあったりします。女性がもっといきいきと働けるようになることを祈っています。　（女性30代　付知）

○都会と比べると地域の見る目がまだ男女平等とはかけはなれていて、なんとなく意見なども言いにくいと思います。良い点もあると思いますが、まだまだ「男がやるべきこと」と「女がやるべきこと」という意見が多いと思います。本当は誰でもやれる人がやればよいと思います。今後の行政のがんばりに期待します。　（女性50代　付知）

○女性は家庭に入るのがよいとか、働く方がよいなど決めるのではなく、それぞれ自由に選択でき、どちらを選んでも偏見のない社会になるようにしてほしい（男性の場合も同じく）。女性が男性と同じように社会進出することがすべて良いことだとは思いません。子育てをしっかりできる環境も整えてほしいと思います。　（女性50代　中津）

○アンケート内容であてはまらないところが多い。貴課の思い描くイメージと、実社会で生活している者の思い描くイメージがかなり違うと思う。このままでは税金の無駄遣いで、対策してもなかなか改善しないであろう。市民と面談してはどうか。　（男性50代　坂下）

○どんな未来を描いて暮らしたいか、もっと身近に会話があるとよい。子どもたちにどんな幸せな時間をつくってあげられるか、年を取ってからどんな幸せな時間を過ごしたいか、未来へ向かってできることに一人ひとりが人間として行動に移せること、それが男女共同参画社会。「仕事していて忙しい」、「家事が忙しい」、「介護が忙しい」、「育児が忙しい」という理由に流されて、孤独に感じてテレビやスマホに意見を求めてはいけない。側にいる人間をちゃんと見て関

わろう、人間として人間をとても大切に愛していこう。中津川市定住推進部市民協働課職員のみなさまへ、人間と人間を近く近くつなごう、そんなことを思って暮らしています。また、市に望むことも同じです。自由に意見を書きました、役に立つとよいのですが。

（女性40代　中津）

○子どもはどこの子も一緒、年寄りも。（男性60代　中津）

○地域に役職をつくり、各家庭からの出席を多くする。区長、副区長の仕事が多すぎる。

（男性60代　中津）

○中津川市の行動が、恵那市の勢いに負けている。（男性60代　中津）

○リニアで中津川の人口が多くなることはない。時間が短くなれば東京からでも職員は通勤できる。（男性60代　中津）

○観光客に田舎暮らしをアピール。（男性60代　中津）

○女性は家庭で過ごすべきだというのなら男性の収入を増やしていくべきだし、女性は社会へということであれば保育の充実を図るべき。保育者も人がいないのか、延長保育や夏季保育、土曜保育などに消極的に感じる。私の仕事は日曜日も関係なくありますが、主人は日曜日しか休みがないときもあり、その日に子育てを頼むのはかわいそうなところもあり、私も休んで子育てしている。私のみ時間短縮で、本当は８時半から17時まで働きたいができず、そのため希望の部署に行けなかったりとむずかしい。男性は残業だのなんだのと子育てに不向きな状態で、子どもの顔をみない日もあり、寝かしつけなどできなくなり、母の仕事ばかり増えて悪循環になります。（女性30代　坂本）

○私は看護師なので職場は女性優位かと思いますが、パートタイムは肩身の狭い思いです。人手が多くなればリストラも考えられます。職場は夜勤のできる看護師の方がほしいので。

（女性30代　坂本）

○身体の形がちがうように、男女はもともと平等にできていない。男性は職場、女性は家庭と、昔の日本の形が安定した良い人材（子ども）を育てると思う。（男性60代　中津）

○３世代一緒に暮らすことが大切。（男性60代　中津）

○一人ひとりの意識によってちがい、教育、しつけ、家庭環境、出会ってきた人によってもちがいます。男女という見方ではなく、人として、パートナーとして見ることのできる人格づくりが必要と思われます。法律などで規制してもむずかしいと思います。マナー、エチケットの部分であり、人と人との付き合い方が時代とともに変化してきた結果であります。会社でも効率を考えるあまり、家庭内にも影響が出ていると考えられます。なにごとにも長い目で見ることのできる、楽しいと思える環境を子どもたちに残したいと思います。行政には基準のレベルをつくってもらい、それにあわせられる市民づくりが必要ではと思います。生意気なことを記入しまして申し訳ございません。（男性50代　坂本）

○男性の育児休暇がとりづらく、社会の偏見もあると思う。女性の育児休暇も当たり前にはとれ

ない現状。今の職場は有給休暇さえない。みんな働きすぎなので、強制的に早く帰る日をつくるなどして、家族や地域との時間をつくることは絶対必要だと思う。給料も上がらないのに税金ばかり上がって、余計に残業をしたり、今の日本は悪循環だと思う。男女共同参画の前に今の政治を見直してください。（女性20代　中津）

○男女が平等にという意識より、個人を大切にするという意識が大切だと思います。平等でないと思う事は私のまわりでは少なく、そう思うことがさみしいように思えます。もっとやさしい気持ち、ゆずりあう気持ちが生まれるような中津川市民になっていけたらと思います。

（女性40代　中津）

○教育のアンケートについて、学校はほぼ男女に差はありません、名簿も混合です。何か決めるときも全員で話し合っているようです。現場を見ずにアンケートをつくっていると思われます。どこかの国の総理大臣みたいですね、中津川市街の景気は落ち込むばかりなのに。一市民の愚痴がどうか市長さんに届きますように。（女性40代　中津）

○特筆すべき事柄は何もないですが、強いて言わせていただくのであれば、企業に対して男女平等の意識をもってもらえるように、行政から指導していただきたいと思います。

（女性50代　中津）

○男女共同参画社会づくり、本当に良いことです。でも私はなにごとにも相手の心に気持ちがとどくように、あたたかい気持ちをもって事を進めてはどうでしょうか。なにごとも始めが大切ではないでしょうか。（女性60代　中津）

○まだまだ男尊女卑の強い田舎です。そういう人が少なくならないとなかなかむずかしいですね。

（女性60代　中津）

○女性への配慮が過剰となり、かえって男性が不利な立場に立たされるような社会的状況も存在し、反感を強めるようなケースも存在する。（男性20代　福岡）

○役割や立場に関する、現存する考え方を改める必要があり、そのためには社会全体を通した意識改革を進める必要がある。ただし、大人になるほどそうした改革はむずかしくなることから、子ども時代の教育が重要になるといえ、学校を通した家庭への呼びかけも一定の効果を有すると考えられる。（男性20代　福岡）

○制度改革や啓蒙活動は、意識改革などの契機となるものの、既存の社会環境との関係ですぐには結果が出にくい印象があり、長期的な取り組みが必要になると考えられる。

（男性20代　福岡）

○市役所職員がもっと前へ出て、地域活動のリーダー的な役割になるべきだと思います。仕事のとき以外は普通の住民になっているから、自分がどんな仕事の人なのか少しは考えて行動するべきです。（男性40代　蛭川）

○２歳の第１子が今年４月にさくらい幼稚園に入園予定だったが、入園前に第２子を妊娠したことがわかった時点で入園を取り消された。家庭にいられて育児に専念できるから？こうした制度を廃止してもらえないでしょうか。女性も家事などで忙しく、少しでも負担がかからないよ

うにお願いしたい。　（男性60代　坂本）

○保育園に入れないと仕事を続けることが難しいので充実させてほしい。　（男性30代　山口）

○学校教育の中で、男女ともに子育てに関することを教えてはどうか。形だけでなく、子どもを育てる大変さ、相談できるところが身近にあることを日ごろから知らせるなど。
（男性30代　山口）

○労働のシェアを進める→雇用の拡大→企業の負担。企業の負担を減らせるような施策はないか。
（男性30代　山口）

○男女共同参画社会づくりには男女平等意識がとても大切だと思います。男女の平等を意識するためには教育が重要だと思います。学校教育はもちろんですが、保育園や幼稚園などの幼児教育の場でも男女平等を意識した保育がなされるべきだと思います。しかし、なにもすごい教育をするというわけではなく、日々の中で保育者が心がけていればよいのではないでしょうか。例えば、女の子は男の子に対して「くん」や「ちゃん」をつけるが、男の子は女の子を呼び捨てにしてはいないでしょうか。小さなことから不平等の芽をつむことが後々大きなちがいになってくると思います。教育の力は大きいと思います。もちろん子どもだけでなく、大人も意識することは大事だと思います。自分のやっていることがいじめだと思っていないのと同じように、自分のやっていることがＤＶやセクハラだと思っていない男の人が多いように思います。行政は常に情報を発信しつづけなくてはいけないと思います。　（女性50代　坂下）

○中津川市が男女共同参画プランの策定を推進していることすら知りませんでした。私の認識不足だと思いますが、広報などでのお知らせがあったのでしょうか。今後とも勉強させていただきたいと思います。　（女性70歳以上　中津）

○市民アンケートの対象者は若い夫婦で子育てをしている人がよい。　（男性70歳以上　中津）

○男女共同参画社会づくりにむけて、家庭、職場、地域はちがっても行政は皆同じであり、平等でなければならないと思う。男性が働き、女性が家事をする時代では今はありません。しかし、現状は今の要介護者を抱えている家庭では少なからず女性が働く時間を減らして介護をしています。行政はそういうポイントにもっと目をむけるべきです。なぜ仕事を休んで病院に付き添う必要があるのか、ただの運転手という場合も多いです。例えば、行政としてタクシーチケットを介護認定や障害者認定されている人には月に１回大学病院に行く往復分を１年分渡す、ショートタイムや１回かぎりのヘルパーさんを取り入れるなど、いくらでも手を添える場所はあると思います。行政が少しでも家庭や高齢者、子どもに対することで家庭への負担を減らすことが、男女共同参画社会の第一歩ではないかと思います。今よく言われているのが、保育園が少ない、待機児童があまりにも多いということで、ではなぜ保育園が少ないのか。先生が足りないのか、場所がないのか、人的問題であるなら、なぜ保育士が少ないのか、ＯＢやＯＧの採用はだめなのか、答えは出せると思います。児童が多く、先生が少ないと教育の質も落ちると思います。保育園が少ないで終わらず、ぜひ真の解決をしていってもらいたいと思います。
（女性20代　中津）

○もっと市民にわかるように広報した方がよいと思います。　（女性50代　神坂）

○もっと不妊治療に力を入れてほしい（助成事業等）。　（女性30代　落合）

○市政について、もっと市民に公表するようにしてほしい。　（女性30代　落合）

○行政と地域とのつながりは大きく分けると区長を通しての伝達が多いと感じていますが、直接、担当部課職員などによる地域懇談の機会ができれば、より地域住民の生の心の内が伝えられるような気がします。　（男性70歳以上　中津）

○社会全体の流れがそうなってしまったのか、個人生活優先と解する人が多くなり、隣人同士の無関心さが気になる。今一度、住民みずからの助け合い精神が醸成され、地域生活に活気と明るさがあることが、男女共同参画への一助になるのではと感じています。
（男性70歳以上　中津）

○男女共同参画はすばらしいことだが、実際のところ、それを求めている女性は職場でも地域でも少ないと感じる。男性、女性の意識改革がなければ意味がないと思います。まずは教育現場からではないかと思いますが、「皆、平等」の左翼的思想が強くなっても困るので、むずかしいですね。　（男性40代　中津）

○子供のころにきちんと教育し、特に思春期のころに親以外の第３者のきちんとした対応ができる機関を充実させる。　（女性40代　坂本）

○結婚を機に中津川市に住むようになったという方も多いと思います。そういう方々も中津川に住んでよかったと思えるように、市民も行政ももっと努力すべきだと思います。子どもの数が少なくなっているのも気になります。まずは働き場所も大事ではないかと思います。私の知人もなかなか主婦の働き場所がないと苦労しています。　（女性40代　福岡）

○職場では会社のトップが従業員に対し、しっかり生活などを考えてほしい。私どもの会社の社長は全然だめで、何も考えておらず、遊んでばかりで、特にパチンコがひどすぎる。挙句の果てには会社の資金をつかってパチンコしている。あと、市ももっと子どもたちのことをしっかり考えてほしい。学童施設等の充実、また交通弱者の対策をしっかり考えてほしい。リニアに浮かれるな。　（男性40代　中津）

○子どもが遊べる場が少なすぎる。保育園の新制度より、小さな子どもをもつ母親の働きやすい職場がたくさんほしい。保育園の新制度は条件がたくさんありすぎて、保育園に行かせたいのに幼稚園に行かせないといけないとか、幼稚園のない地域のことをもっと考えてほしい。社会中心でなく、子ども中心で園のことをもっと考えてほしい。　（女性30代　福岡）

○理想的な社会は女性、男性のそれぞれの特性を認めたうえで、女性だから、男性だからと意識しないで生活できる、個人として平等に生活できる社会だと思います。中津川の男女共同参画推進ではどういうことをされているか知りませんが、以前、私が住んでいたところでは、DV被害者を支援するグループや、いじめや引きこもりなどの相談や親の会など、いろんなグループがそれぞれ男女共同参画の事務局にアドバイスをもらいながら活動や勉強会をしていました。年に１回、テーマを決めてそれぞれのグループが発表会をし、共同でフェスティバルを行

い、子どもたちも含めて市民が多数参加してくれました。事務局へは多くの一般市民が自由に出入りでき、関連書籍も本棚に多数あって自由に貸してもらえ、部屋（会議室）も空いていれば借りることもでき、自由な雰囲気で気軽に集まることができました。　（女性60代　中津）

○現実に沿った行政の支援を整えないと、家庭、職場、地域では限度があり、本当の意味での男女平等の実現は無理だと思う。男女平等は男女が同じことをするのではなく、男女がそれぞれの特性と能力を発揮できるようにすることが本当の男女平等、共同参画社会だと思う。

（男性40代　加子母）

○一度、女性が市長になれば、なにか変わるものがあると思います。　（男性20代　落合）

○行政主導もたしかに大事ですが、家庭や職場、地域社会でそのような意識を芽生えさせ、根付かせていく長いスパンとしてのサポート体制を築いていくことが大切なのではないでしょうか。まずはその先頭を切って走れるようなリーダー的存在を育てていくことも必要でしょう。仕事をこえて、本気で取り組んでいこうという人を育て、その核をもって根気よく活動していく熱意や決意を育成しないと、いつまでも表面的な旗振りばかりで、進歩の足あとをつくれません。これまでの歴史を正しく踏まえ、自分たちが先頭を切って星っていこうとする自負をもたなければ、事はならないのではないでしょうか。私はもっと女性が社会で活躍できるようになることが、よりよく住みよい地域社会を築いていくカギを握っているのだと考えています。

（男性50代　中津）

○夫婦で働いている場合、父親も育児休暇などを外国のように気軽にとれるようになるとよいと思います。　（女性60代　坂下）

○政府の女性進出目標と各企業の対応がかい離しすぎているので、中津川市として現実的な具体的目標の設定を求む。　（男性40代　苗木）

○中津川市内に本社をおく企業はよいが、岐阜市内やその他の地域に本社や本店がある場合、社会づくりは実際に行うことができるのでしょうか。中津川市独自の改革としてやっていけるだけで、あまり期待できません。　（女性40代　坂下）

○地域社会や行政での対応は必要ですが、男女平等が実現するにはとても時間がかかると思います。そのため、まずは家庭の中でよく話し合うことが大事だと思うので、それができるように職場の環境を改善することが必要だと思います。　（男性30代　坂本）

○高齢者が多くなり、介護が必要になる人が多くなっていますが、介護を仕事にしても、経済的な理由や行きづまりでやめてしまう人が多いです。がんばってみえる人もたくさんいますが、やはり行きづまっています。ステップアップしたくても大変です。中津川として、同じ事業所で５年や10年がんばっている人などに県外研修をさせてあげるなどして、これからもやっていけると思える機会をあたえてほしいです。事業所に任せるのは無理。中津川で介護職に就きたいと思えるようにしてほしいです。女性の活躍できる場なので考えてほしいです。

（女性50代　阿木）

○非正規雇用者、パート従業員への福利厚生をよくする。ブラック企業を取り締まる（時間外労

働を特に取り締まる)。保育所を増やす、保育士を増やす、園の定員を増やす、保育所の日曜、祝日への対応、時間外、病児保育への対応をする。市営住宅入居への条件の緩和（特にシングルファーザー、シングルマザーに対して)。専業主婦、高齢者（60歳以上）への就業の機会を増やす。特別養護老人ホームを増やす。これらすべてを早急にすれば中津川は変わると思う。

（女性30代　坂本）

○プラン倒れにならないようにぜひがんばってください。前の市長のときは人の意見を聞かずに自分勝手に決定したようですが、そうならないように皆さんの意見を聞いてください。

（男性70歳以上　坂本）

○フルタイムで働いていても、家事、育児もしなくてはならず大変なのは事実です。もう少し家事の分担ができるとよいと思います。子どものころから平等にと教育されていくのがよいのでしょうか。（女性40代　加子母）

○国、県、市の議員を年齢制限して若返りを図る。（男性40代　中津）

○アンケートばかりで何も変化がみられず、現実に何をしているのかまったく見えない。本当にやる気あるのですか。（女性50代　加子母）

○女性の社会進出ばかりでなく、家にいることを選んだ女性を尊重すべきではないか。家にいるのは負の遺産みたいな考えで語るのはおかしいと思う。また、なぜ夫の収入で家族が養えないのか、なぜ女性が家で子育てや家庭を守り育てていくことができないのか。家庭にいる、または残っていることを選択できるように保護補償をしてもよいのではないだろうか。男女共同参画といっても、なにも男と女が一緒に行動することばかりが男女平等社会になるとは思わない。

（男性40代　中津）

○会社員は、思っていても機会がまったくというほどありません。また個人でも情報がなくてむずかしい。会社を巻き込んで活動できるようにしてもらえるとうれしい。（女性50代　中津）

○自分は自営で仕事をしています。力仕事なので男女平等にはならないところがあります。仕事の内容によって給料面など平等がむずかしいところもあると思います。教育においては女性の方が活発にやっていると思う、男性の方が入りづらい。（男性40代　付知）

○男女平等を推し進めすぎて女性に有利になりすぎないようにしてほしい。（男性20代　坂下）

○男性は残業なしでは生活できず、子どもは保育園に預けたくても子ども・子育て支援新制度などにより預けにくくなり、女性は働きにくくなる。また、高齢者が増え、家で介護しなくてはならなくなった場合、子どもを産むことさえできなくなったりと、男女共同は今の制度ではむずかしいと思います。もっと行政が各地域の方の意見に耳をかたむけて、各地域に合った対応をしていくことで男女共同社会へむけて進んでいけるのではないかと思いますので、よろしくお願いします。（男性30代　付知）

○育児中の主婦の働く場がなくて困っている。働く意思はあるのに、１日３～５時間では雇ってもらえない現実。将来的に戦力になる20代～30代の女性が子育てしながらでも働きやすい職場や環境をつくってほしい。中津川市内の企業で、１日３～５時間でも働けるように取り組んで

もらいたい。今は３～５時間でも、将来は管理職も夢じゃない。　（男性60代　苗木）

○私の地域にも独身の男性が多数います。独身男女の出会いの場となるような企画があればよいと思います。　（女性60代　中津）

○中津川市は男女とも自宅から職場へ通勤している人が多いので、比較的、男女が職場で意見を言える環境にあると思います。　（男性60代　坂本）

○男女にとらわれない個性豊かな人材の育成、能力向上の社会づくりにも力を入れ、経済的な差で仕事や学校に行くことができない人にも同時に目をむけてほしい。　（男性60代　付知）

○女性の能力（仕事や学習）が優れていることは社会的にだれもが認めていることだと思う。女性の力を生かす場はどういうところや役割がよいかをまず考え、適所と思われる配置をする制度や方法を具体化してほしい。　（男性60代　付知）

○仕事の内容によっては体力が必要な場合など、女性にはむかないことが多々あるはず。都合のよいときだけ女性を差別すると言ってはいけない。経営者側から言わせれば、一般に女性はなにかにつけてすぐに休暇を取ってしまって、人事で非常に困ることが多い。このことに対する女性の意識も同時に変えていく必要があるのでは。　（不明）

○とにかく住みよい町になればよいと思います。　（女性50代　落合）

○女性の社会進出を推進するといっても、結局、家族の理解がなければ女性がしんどいばかりになります。女性が外へ出るということは、外へ出ている時間は子どもの世話なり家事なりを家にいる誰かがやらなければいけないわけで、それをすすんでやってくれる夫がいればいいですが、なかなかそうはならないのでは。外出するなら「ごはんの準備していけよ」、「子どもどうするの」みたいな男性が多いのではないでしょうか。男の人は寄合の会合に出るといっても、別に家のことを気にせずに行けますけど。社会全体の考え方、認識が変わらないと無理なのではないかと思います。　（女性40代　福岡）

○パートタイム労働者などの労働条件の見直しが必要だと思う。それによって女性がもっと働きやすい社会になるとよいと思います。　（男性20代　付知）

○女性は妊娠、出産、育児、家事があるので男性と平等とはいかないと思う。核家族が多いので、地域や行政の支援が絶対的に必要だと思う。相談する人、できる場所を充実してほしい。働くようになれば家族の協力、保育施設を充実してほしいです。子どもが病気になったときにみてもらえる人、場所もほしいです。　（女性60代　福岡）

○女性の立場（自分自身）としては、男性が表に出て女性や家庭を守ってくれることが望ましい。　（女性50代　中津）

○男女共同参画社会と男女同権社会とはちがうと思いますが、子育てに関しては女性の役割、男性の役割を動物的本能にならって子育てをしてほしく思います。どのような時代が来ようとも、本来の姿を変えてはいけないと思います。　（女性60代　中津）

○犯罪や差別はなくならないので、そういった被害にあったときに正しい対応ができるよう、市

民に対して情報を提供し、解決できるようにするとよいと思う。　（男性20代　中津）

○家庭内では時代も変わり、男性も育児や家事をやってくれる世の中になってきたが、職場ではまだまだ男性上位になっている。能力がなくても男だからと昇格させる上司がいる。しかし、そんな人が管理職になっても困るのは現場、そんな部署が多々ある。納得のいかない男女の不平等さはある。　（女性40代　蛭川）

○問題の一つは競争社会の行きすぎにあると思う。それによる優越感や劣等感が猜疑心や不安を呼び、弱い心が女性などの弱い立場の人間にぶつけられるのだと思う。　（男性40代　蛭川）

○男性だから、女性だからという古くからの意識や教育があるため、男女共同という社会生活は急にはむずかしいと思う。また、男女がお互いに男性だから、女性だからと甘えているところもあると思うが、男性らしく、女性らしくいたいという人もいると思うので、強制するような行政ではないようにしてほしい。中津川市がどのような男女共同参画社会をつくっていくのか、そこからどのような効果が得られるのか、知る機会を増やしていってください。

（女性20代　坂本）

○目的がよくわかりません。　（男性30代　中津）

○男女平等とはいえ、それぞれの役割はあるので、それを十分に果たして社会参加するのはよいことだと思います。未来を背負っていく子どもたちをしっかりと育てることはとても大切だと思います。　（女性60代　中津）

○家庭内での協調性を保つことで、各種分野での共同参画が可能。　（男性70歳以上　福岡）

○職種により、適正な配置がほぼ絶対的に必要な場合がある。無理な労働を強要しないこと。

（男性70歳以上　福岡）

○派遣社員に関する諸問題を解消するために、制度の改善が必要である。企業の利益のための雇用を放置すべきではない。　（男性70歳以上　福岡）

○戸数の少ない町内会では複数の役を引き受けるケースが多い。行政の下請け業務を縮小すべきであると同時に、女性にも役割を担ってもらう。　（男性70歳以上　福岡）

○農業分野での自立が困難。企業誘致、ベンチャー育成が進まなければ、ますます地方の衰退、崩壊が確実となる。　（男性70歳以上　福岡）

（男性40代　福岡）

○女性がもっと働ける中津川にしてほしいです。都会に流れやすくなっている。

（男性40代　福岡）

○毎日の生活と仕事で精一杯で、なにも考えられない。職場との人間関係をうまくやることに疲れる。男女の問題だけでなく、パワハラ、上司のヒステリーに振りまわされる仕事をすることの厳しさ。女性は家庭にいた方がよい、男性に頼りたい。男性にもっと家庭にも仕事にも責任感を持ってもらいたい。男性は女性を一生守っていくという意識も必要。そうでないと、ますます男性が弱くなる。　（女性50代　中津）

○時代の流れにこれからの若い人たちが苦労することを可哀想に思います。昔とちがってたくさんのことを学ばなければいけないからです。（女性70歳以上　川上）

○行政は地域社会に少しも溶け込んでいない。机上でものを言っているだけの対応にだれが本当のことを言うと思う。地域の毎月の会などに一回でも行政の方が顔を出したことがありますか。地域に住んで35年になりますが、行政の方がきたことなど一度もない。中津川市の現状など、少しは報告すべきではないでしょうか。市はもう少し県、国とのパイプを太くするように、外部に目をむけるべきではないでしょうか。（女性70歳以上　坂本）

○保育などを充実させて、女性が働けるようにしてほしい。女性でも優秀な人はたくさんいるので、そういう人をどんどん採用して、女性の目からみた会社のあり方などの意見を聞いて、社会全体をやさしい世の中にしていってほしい。（性別不明50代　苗木）

○学歴による賃金（基本給）格差をなくすことが必要である。（男性60代　福岡）

○国、社会全体が男女平等であるという教育が必要である。学校、家庭における教育が特に必要である。（男性60代　福岡）

○女性が働くことについて、子どもができたら３歳までは子育てを行い、それ以後、再雇用する。子どもができたら、男性（夫）の給与によって子ども手当を支給すること。経済的理由で子どもの教育を放置することはよくない。（男性60代　福岡）

○能力ある女性はどんどん前進するべき。固定的社会通念を改めるべきで、教育が必要である。男性の家庭育児も同様である。（男性60代　福岡）

○男女共同と言いますが、男が主にやるべきこと、女にしかできないこともあり、完全に平等はありえないと思っています。偏見や蔑視はいけないとは思いますが、なにより家庭や職場、地域が相手の立場、事情を理解して受け入れ、思いやっていける社会であればよいと思っています。今やるべきこと、やらなければいけないことを心置きなくして、いろいろなことができるようになったときに社会貢献したり、仕事復帰できるとよいのではないでしょうか。現在の状況ですと無理があるところが多いので、今やるべきこと、やらなければいけないことをせず、なにか大切なものを見失って歪みが生まれている気がしてなりません。（40代女性　坂下）

○60歳以下の人たちは口は達者だが、やることに思いやりはないですね。年寄りと一緒に生活した人は気持ちも態度も惜しみなくやっています。（女性70歳以上　坂本）

○無理だとは思いますが、パートにも介護休暇、育児休暇があったらいいなと思います。（女性40代　加子母）

○どんなことでも一人ひとりが平等に、どんな些細なことでも相談などしやすい環境をつくったりできる市になるとよいと思います。（女性30代　付知）

○昭和16年生まれの私には、今の女性は強くなり、自由でよいと思います。ただ少し残念なのは、教育、責任が少し足りません。（男性70歳以上　付知）

○男女の特性をふまえて、今までの男性優先社会から改めていくべき。特に女性の社会進出をし

やすくするため、賃金差解消、育休などのさまざまな変革が、特に民間企業で必要である。
（男性60代　中津）

○もっと楽しく参加できるイベントを増やして、いろいろな人に参加してもらえる企画をつくってほしい。（男性40代　中津）

○行事が増えるばかりで、役員にばかり負担がかかっています。男女平等じゃない地域活動も多すぎます。男女共同とかの理想をかかげる前に、古い行事を見直し、減らしていくことも考えて実施してください。補助金をちらつかせて、市民運動会やスポーツ大会に引っぱり出すのは迷惑です。（女性40代　坂本）

○地域独特の権力の格差が残っている以上、よい方向にはいかないです。（女性40代　坂本）

○73歳の一人暮らしで、これからは地域行政の方たちにお世話になりますが、よろしくお願いします。（女性70歳以上　坂本）

○地域の各種役員などに男性より優れた女性の人材がおり、そういった人が参画できるムードをつくる。（男性50代　蛭川）

○男女ともに力を合わせ、仕事に従事できるように家庭内で思いやりを持って話し合い、社会においては支援できる環境を整備していくべきだ。（女性50代　落合）

○家庭、地域社会においては、女性が非常に優遇されていると思われる。買い物に行けばレディースデー、女性の方が低い値段設定、育児や介護について何かあれば女性側へ連絡が行き、対応する。社会、経済活動については男性側が優遇されているが、その分、子どもや介護のことで仕事を抜け出すのは容易ではなく、仕事が優先となってしまう立場、社会通念もあり、共働きで家のことで何かあれば動きたくてもできないこともある。そういった意味ではパートをしている女性はすぐに抜けられたりできることもあり、一長一短の中で平等になっているとは言いがたい面もみられる。かといって、男がパート勤め、女性がフルタイム勤務といった働き方も、男が養うものという考えが根強いうちは無理だろうし、共働きで女性の方が収入が多いと余計に家庭でも立場がなく、家事をしても後からダメ出しをされたり、叱責されるといった「家事ハラ」もあり、平等でない方がよいということも考えられます。男も女のことをする、女も男のことをするではなく、お互いのパワーバランスを取りつつ、相互扶助のもとで成り立っていけば男女平等の社会ができていく一因になると考えます。（男性30代　福岡）

○女性の賃金が男性と平等になって収入が増えれば、家庭での男女の差がなくなると思います。但し、女性自身もそのつもりで仕事に取り組む気持ちが必要だと思います。
（性別不明50代　中津）

○男女平等もよいけれども、やはり男性にはかなわない点が多々あると思いますが、あまりに対等の意識が強くて、結婚しない人や離婚する人が多くなったために少子化になっていると思います。これから日本がどうなっていくのか心配です。（女性70歳以上　中津）

○地域で働く職場がほしい。（男性60代　坂下）

○人口を増やすことを考えてほしい。　（男性60代　坂下）

○上役の意見をそのまま地元の人々に伝えるが、役人は役に立つ人（スーパー役人）として地元の人たちにいろいろなアイデアを出して、その地域に合ったやり方を教えてほしい。
（男性60代　坂下）

○男性だから、女性だからではなく、お互いを認めつつ協力してやっていけば、得意なこと、やりたいこと、やってほしいこと、うまく組み合わせて気持ち良くやっていけたらよい。男性ならではの力強さと大きなやさしさ、女性ならではの心遣いとおもてなしを期待しています。
（女性60代　落合）

○地域内での役が多すぎて、学校との役なども合わせると負担が大きく、子育ての支障となっている現実を知っていただきたい。　（男性50代　苗木）

○男女平等、育児については話し合える家庭は、比較的、経済的余裕があるということ。
（男性50代　苗木）

○男女平等という前に、子どもたちが両親共働きでさみしい思いをしていて、ゲームに頼るしかないという現実をもっと知るべき。　（男性50代　苗木）

○学童の強化。女性が働くためには子どもをみてもらう施設が必要。しかし指導員の確保や運営金の調達といった運営面、人数や日数などのノルマがきつく、特に保護者の役員への負担が大きく、家庭や仕事への影響も大きい。市にもっと協力していただければ女性も働くことができるし、家庭のこともしっかりとできる。　（女性40代　加子母）

○警報が出たときや、子どもが病気のときでも休めない職種もあるので、そういったときにみてくれるところがあるとよい。　（女性40代　加子母）

○女性の社会進出と世間ではうたわれてしますが、実際はそれがなかなかできていないのが現状のように思う。企業のお偉い役員が高齢化しており、なかなか現代の社会、男女平等な考え方が進まない。　（女性20代　落合）

○男女共同参画社会づくりが結果として、女性に対する職業の選択を狭めないことを願いたいです。　（男性60代　中津）

○問23について、男女ともに家事の学習・実践する場は必要と思いますが、保育や介護については一定の学習をしたあと、プロの手に任せるのが一番よいと思います。よって問30にも関連しますが、保育や介護はサービスの充実だけでなく、その道のプロの待遇改善（正社員化や給料の底上げなど、長く働き続けられる環境整備）をしていかないと、其の他の大多数の男女の社会進出や自立が実現していかないと思います。がんばってください。　（女性30代　中津）

○子育て世代の父親向けに、料理教室など家事に関する教室をやっていただけたらと思います。
（女性40代　中津）

○家庭がすべて。その家庭のスタイルがそこで生まれた子の考え方のベクトルを左右する。大きな流れでアクションをしないと、今の安倍政権を見ていれば、日本における本当の男女共同参

画社会への道は険しい。目先でやる分、本質的ではないのがありありとわかる。これではかえって差別を助長するだけでは。（男性20代　中津）

○第３次の参画プランを添付していただけると、より一層の理解が得られたと思います。（男性50代　坂下）

○介護施設の充実。（女性50代　中津）

○若い頃は男性が家事をすることなど考えたことがありませんでした。（女性50代　中津）

○私が一番男女差別を感じたのは働いているときでした。私たちパート従業員に対して「女は可愛ければよい、仕事なんてできなくても言うこと聞けば時給だって上げてやる」などと言う上司を見たときです。その会社は男性なら社員にしてくれますが、女性は何年働いても、いくら仕事ができても上司のミコがよくなければ社員になれません。上司は集まると、パートの女性で気にくわないやつはどうやってやめさせるか、どの女はどうだとか、とてもゲスな話をしていました。私は定年を迎え、今はそんな男性を見なくてすみますが、先日まだその会社で働いている人が、「一度やめた男の子がまた入ってきて社員にしてもらっている、私たちは一生懸命15年も働いているのに悔しい」と言っていました。女性用の化粧品を製造しているのに、女性に対してとても冷たい会社でした。セクハラ、パワハラ、そんなことを気軽に相談できる場がほしかったです。男女共同参画社会にむけて、少しずつでも実現化できたらと思います。こうした企画がますます広がってくれるとよいと思います。（女性60代　中津）

○私は63歳になりますが、自身の人生を振り返ってみて、社会に出て仕事をし、結婚と同時に仕事をやめ、２人の子どもたちが小学校へ上がるころにパートとして別の仕事をさせてもらいました。子どもたちも今は独立し、現在、私は90歳の義母を介護しています。今の時代、なにごとも男女平等でなければと言われますが、安定した生活ができるのも夫が一生懸命働いてくれるおかげであり、家で義母を介護するのは主人にも協力はしてもらいますが、嫁の役割でよいと思います。（女性60代　中津）

○男女共同参画という言葉を使わないといけないうちはまだまだだと思います。男性がもっと家事や育児をするようにならないと、女性が外に出るのはむずかしい。（女性30代　付知）

○役所内で暇そうにしている職員と忙しそうにしている職員の差が大きい。暇そうな職員には仕事をさせるようにした方がよい。（男性40代　阿木）

○自治会やサークルで役員が女性だったとき、できる能力や体力があっても、その役員やトップを拒否する理由、あるいは推薦した会員がその理由を納得せざるを得ない言い分があります。候補者の言い訳とは「子どもの養育」、「年寄りがいる」である。政府が言う共同社会・組織がつくられるためには、子どもを預けられる場所、主婦が働ける職場（財政保障、年休の取得など労働条件の完備）が必要。男女共同参画の社会、女性が生きている社会は、参画する意志があっても行政府における本気度が問われるのであります。（男性70歳以上　坂下）

○男性は男の役割、女性は女の役割が適任。男でなければできないこと、女でなければできないこと、どちらでも適することもある。常識内に望む。（男性70歳以上　坂本）

○息子夫婦と同居し、共働きのために孫と接する機会が多くあり、私たちが親から教わった道徳教育（朝のあいさつ、友だちを大切にする、ありがとうと感謝の気持ち、物を大切にする心、お金の大切さとムダ金を使わない工夫、始め苦と戦いは終わりになって戦うよりは容易、若いときに多くを学び、部活のスポーツで苦しみ勝つ喜びと忍耐力）を少しずつ教え、女の子には妻が料理を時々教えている。（男性70歳以上　中津）

○今の若者は辛抱が欠けている。（男性70歳以上　中津）

○男女共同とか同等というのは大変良いことと思いますが、生物的な体、心のちがいがあることも事実だと思います。差別と区別をまちがえないこともよく考えていった方がよいと思う。どうがんばっても男に出産はできないし、基本的に男と女では体のしくみがちがうのは事実です。それぞれに合う役割は区別です。（男性50代　坂本）

○少子高齢化が進んでいる現状の中で、地域に若い人が定住してもらうために、もっと元気なシニア世代の人に子育てを手伝ってもらうべきです。自分の家の子ども（孫）だけではなく、地区の公民館や学校、保育所を利用して、週１回や月１回、１時間ぐらいでも何かできることがあれば、また、親御さんとシニア世代の方のコーディネイトをしていただける機関があればよいと思います。（女性50代　福岡）

○中津川市では来年３月から里帰りの方の分娩も受け入れられるということですが、中津川市の住民の方は中津川市の医療機関で分娩をしていただくように推進していただきたいです(多胎妊娠などの場合を除いて)。なぜなら、遠方の市の個人病院に食事や部屋が良いからと通院される方がありますが、緊急時に間に合わないなどのリスクも多く、産後のサポートも何もないので、ぜひ中津川市民の方は市内の病院で出産していただき、産後のお母さん、お父さんのサポート、赤ちゃんのケアを市、病院、地域社会でできるように推進していただきたいです。（女性50代　福岡）

○女性は男性がやればよいと思うことが割とたくさんあるように思います。男女それぞれ役割を認め合って協力し合えば、住みやすく、働きやすい社会になると思います。(女性40代　福岡)

○男性に向いていること、女性に向いていることはあると思うので、同じように働くことが男女共同参画社会とは思いません。子どもが小さいときは母親が子育てに専念すればよいと思います。共働きになると家事、育児がどうしても手抜きになると思います。男性が働き、女性はきちんと家事をすることをもっと大切にしてほしいです。家事、子育ては女性にとって最も大切なことだと思いますが、働くことばかりが採り上げられている気がして、とても残念です。性犯罪が起こるのも家庭環境が影響しませんか。両親が働いていて、小さなころから子どもと関わることが少ない、中学生になっても母親が仕事に忙しく、子どもが何をしているのかまったく知らないのは問題だと思います。例えば、祖父母が家事、子育てに協力してくれるといったことが必要だと思います。保育所の問題だけではないと思います。女性が働く社会になったらますます出産しなくなると思います。女性が男性並みに働き、子どもも２、３人出産するということはむずかしいと思います。（女性30代　坂本）

○すべてに関して男女平等、あるいは共同参画がよいのではなく、男は男らしく、女は女らしくあって、それぞれの性のちがいを意識したうえで相手を思いやる心を育てることが大切だと思う。そのためには学校現場での教育も大切だが、なんといっても家庭内で父親がそれなりの敬意を受け、母親がやさしく扱われるのを見て、子どもは心の安らぎと人に対する思いやりができる。要は仲睦まじい夫婦であることがすべての基本。（男性60代　坂本）

○私の家の子どもの場合ですが、人材派遣で雇用されていましたが、会社の都合により切られてしまいました。ころころと雇用が何回も続いています。将来のことも非常に心配です。もっと安心して働けるような世の中にしてほしいです。（性別不明50代　苗木）

○家庭では家族で家事分担の相談や話ができますが、職場ではそのような機会がないので、企業全体に活動をしてもらえるとよいと思います。職場でアンケートをとるなど、社員の意見が大事だと思います。女性の方が重労働していても賃金は男性の方が良く、昇給も男性の方が良く、同じ仕事をしていても女性にとっては働く気が薄れてくるように思います。そのため、昇進・昇格をしたいと思わないのではないでしょうか。（女性30代　苗木）

○男女共同参画社会をつくるにむけて、女性の方は男性とおなじように考え、行動していただければよいと思います。この件について、ある面では男女平等と言いつつも、またある面では男女はちがうと言っているので、平等になるとは考えていません。しかし、少しでも平等になるとよいとは思いますが、むずかしい話だと思います。（男性40代　苗木）

○地方分権の時代です。女性の力が発揮できる社会づくりはとても重要なポイントだと感じています。中津川市全体で士気の高揚をめざす必要があると思います。（男性40代　坂本）

○最近、議会でのセクハラ発言が問題になっていますが、中年や高齢者のおじさま方の女性に対する偏見の意識を変えてほしい。子どもへの男女平等教育より、そちらの方が重要かもしれません。（女性30代　坂本）

○夫婦といえどもＤＶは犯罪なのだという意識を高め、罰則を強化。夫婦間ＤＶ＝子どもへの虐待につながる可能性もあるため、シルバー派遣の方とか中年層のおばさんが地域の若い子育て世代の家庭を訪問して、危険な兆候がないか、夫婦間のたわいもない話、相談、子育ての悩みなどを聞いてあげられる活動があるとよいと考えます。（女性30代　坂本）

○継続して男女共同社会をつくっていく努力が成果を出すと思われます。（男性60代　蛭川）

○男女がすべて平等に生活するのは不可能だと思いますが、仕事と家庭の両立をするための支援や、地域の協力はもっとあった方がよいと思います。仕事が激務、共働き、子どもが小さいなどの家庭が、地域活動や自治会へ参加することがむずかしいことを理解していただきたい。基本的に考えが古く、今の時代に合っていなくて戸惑うことが多い。結局、あとから地域に入った者は年長者に従うしかなく、意見する人はいません。これでは何の意味もないし、積極性も出るわけがないので、これからもなんとなくで続いていくと思います。（女性20代　苗木）

○私は「男は外、女は内」の考えをもっているので、平等にというアンケートにうまく答えられません。女の人が外に行かなくてはいけなくなってしまった社会にしてしまったことの方を考

えた方がよいのではと思います。収入が少ないから女もパートや会社勤めをしなくてはいけない、だから保育所が足りない、すべては女が外へ行かざるを得ない社会環境が問題なのではないかと思います。もっと「女は内」になることが増えれば、子どもも母親といられて幸せな時間も増えると思います。昔からある古い考えを忘れずにいた方がよいのではないかと思う次第であります。（女性30代　中津）

○まずは行政が率先すること。雇用比率義務も課してもよいと思う。きっかけがあれば流れはできる。（男性50代　坂本）

○家庭や仕事で忙しいのに、地域の役員も次から次へと回ってくるので、いろいろ役をつくってもらうと迷惑です。交通安全も交通安全婦人もあり、夫が仕事で出られなければ妻が出なくてはならず、合計４年間も妻が役をすることになります。体育協会もそうです。なので、苗木はとても住みにくいところです、いや、中津川市が住みにくいところなのでしょうか。

（女性40代　苗木）

○仕事をしている主人はいつも忙しそうだし、専業主婦の自分は仕事のつもりで家事、育児をしています。でも自分が働きだしたときに家事分担の比重が自分の方が多くなる気がします。主人の会社は週休１日で、月に４日しか休みがないので仕方ないと思う自分もいるが、自分だけこんなにと思ってしまいそうな気もします。主人が家事に協力できないのは職場にも問題を感じるので、土曜出勤（休日出勤）が当たり前、残業が当たり前なのを変えてもらったり、休みをとりやすくしてもらえるとよいのにと思います。あと、仕事ができる人ばかりこき使われていて、仕事ができない人は休みも多いし、１日の仕事の密度も低い。できない人をできるように教育に力を入れたり、できる人ばかり負担が増えないように変わっていったらと思います。

（女性30代　川上）

なかつがわ男女共同参画プラン（第４次）
策定にあたっての市民アンケート
結果報告書

発　行　　平成27年２月

発行者　　中津川市役所
定住推進部　市民協働課
ＴＥＬ：0573-66-1111（内線208）
ＦＡＸ：0573-66-4050